

# 2024 推奨施工法

SOLIDO typeF coffee  
typeF shirasu



typeF coffee



typeF shirasu

## 本資料のご使用に当たって

- 本資料は、SOLIDO typeF coffee、shirasuを安全に正しくお使いいただくための情報を記載しています。
- 工事に当たり、設計・施工の参考にしてください。
- 施工方法や納まりの詳細につきましては、元請様や工事店様のご判断、責任のもと、製品品質や施工品質が確保できるように方法を決定していただきますようお願い致します。
- 本資料内の数値の単位は、記載なき場合は全て「mm」です。

## 本体、色合いについて

- 製品本体、色の保証はございません。
- 本製品は素材から出た自然な色合いの為、一枚一枚の色、白華の風合いが大きく異なります。  
また、似た風合いの製品が混ざる場合がありますが、色味、風合いの指定はできません。色味、風合いについての返品・交換は致しかねます。
- 本製品の四周切断面は面取り加工をしていませんので、施工、使用中に欠けが発生することがありますが、不良品ではございません。
- 年数が経過するにつれて、外観表面の白華（エフロレッセンス）部分が増減するなどにより色味が変わる可能性があります。

# 施工の前に

- 一枚一枚の色味が大きく異なりますが、製造上色味の近い商品がかたよって納品される場合があります。施工前に仮並べをして配置を検討してから施工することをおすすめします。
- 長さ違い製品（10尺、6尺、3尺）を混ぜ張りすると配置の調整ができずに、色味がかたよる場合があります。同一長さ製品での施工をおすすめします。

## ■配置検討

<色味を確認しなかった例>



<色味を確認して配置を検討した例>

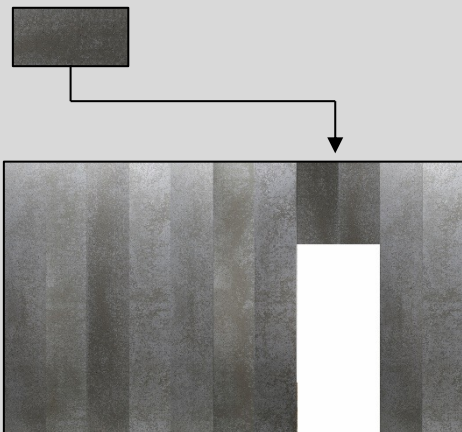


## ■長さ違い製品施工

<10尺品と3尺品を使用した例>

長さ違いで色味が違った時に配置調整ができない

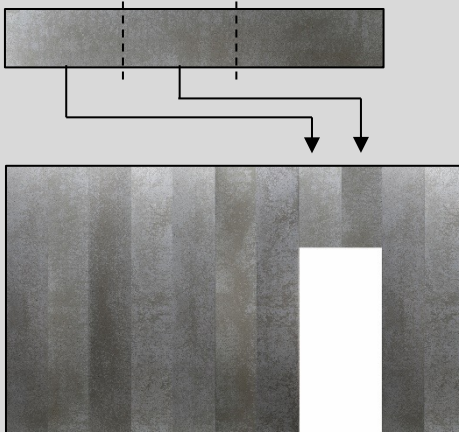
3尺品



<10尺品だけを使用した例>

バランスを考えながら配置が可能

10尺品



# 目次

本資料のご使用に当たって	1
本体、色合いについて	1
施工の前に	2

## 1. 商品の選定 4

【1】商品仕様	4
【2】不燃材料の認定番号	5
【3】性能一覧	5

## 2. 推奨範囲 6

【1】推奨範囲	6
【2】推奨施工法	6

## 3. 金具工法 7

【1】下地仕様	7
【2】標準施工仕様	8
【3】使用部材	9
【4】推奨切断刃	12
【5】施工手順	12
【6】横張り施工のポイント	13
【7】縦張り施工のポイント	19

## 4. 接着工法 25

【1】下地仕様	25
【2】施工仕様	26
【3】使用部材	27
【4】推奨切断刃	30
【5】施工手順	30
【6】横張り施工のポイント(施工高さ3.2m以下の場合)	31
【7】横張り施工のポイント(施工高さ3.2m超6.2m以下の場合)	44
【8】縦張り施工のポイント(施工高さ3.2m以下の場合)	53
【9】縦張り施工のポイント(施工高さ3.2m超6.2m以下の場合)	66

NEW

## 5. LAP工法 76

【1】適用下地	76
【2】標準施工仕様	76
【3】使用部材	78
【4】推奨切断刃	79
【5】施工手順	79
【6】施工のポイント	80

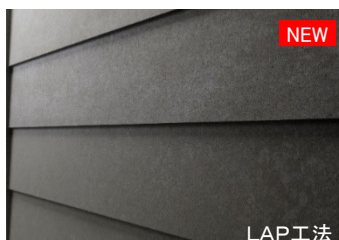
NEW

## 6. 木製部材の施工 88

【1】部材仕様	88
【2】施工仕様	90

## 7. 参考資料 93

【1】補修・仕上げ方法	93
-------------	----



※施工事例は、ウェブサイトでご覧いただけます。 <https://www.kmew.co.jp/shouhin/solido/category/>



# 1. 商品の選定

## 【1】商品仕様


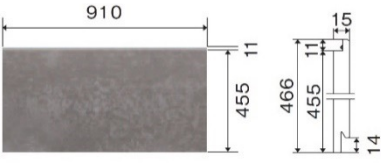
### < 1 > 本体

#### ① SOLIDO typeF coffee

(単位: mm)

10尺品 (品番: EA6511K)	
形状・寸法	
働き寸法	455 × 3030
1枚当たりの重量	約28kg/枚
1枚当たりの㎡数	1.38㎡/枚
梱包入数	2枚/梱

(単位: mm)


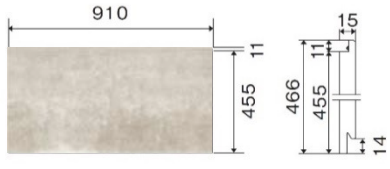
	6尺品 (品番: EA6511K6)	3尺品 (品番: EA6511K3)
形状・寸法		
働き寸法	455 × 1820	455 × 910
1枚当たりの重量	約17kg/枚	約8.5kg/枚
1枚当たりの㎡数	0.83㎡/枚	0.41㎡/枚
梱包入数	2枚/梱	2枚/梱

#### ② SOLIDO typeF shirasu

(単位: mm)

10尺品 (品番: EA6621K)	
形状・寸法	
働き寸法	455 × 3030
1枚当たりの重量	約28kg/枚
1枚当たりの㎡数	1.38㎡/枚
梱包入数	2枚/梱

(単位: mm)

	6尺品 (品番: EA6621K6)	3尺品 (品番: EA6621K3)
形状・寸法		
働き寸法	455 × 1820	455 × 910
1枚当たりの重量	約17kg/枚	約8.5kg/枚
1枚当たりの㎡数	0.83㎡/枚	0.41㎡/枚
梱包入数	2枚/梱	2枚/梱

# 1. 商品の選定

## 【2】不燃材料の認定番号

●ケイミューが取得している不燃材料認定は以下の通りです。

認定区分	認定番号	一般名称
不燃材料	NM-3812	窯業系内装材

## 【3】性能一覧

### <1>物性一覧表

●物性値は下表の通りです。

項目	物性値	試験方法
比重	1.3	105°C 24hr 乾燥 (弊社測定値)
曲げ破壊荷重	785N以上	JIS A 5422
耐衝撃性	合格	JIS A 5422

※JIS A 5422に準じて測定していますが、JIS商品ではありません。

### <2>VOC放散速度について

- 建築基準法によるシックハウス対策規制以後、ホルムアルデヒドだけでなく、それ以外のVOC(揮発性有機化合物)についても、室内濃度の測定方法や基準の設定が要求され、業界の自主的な取組みとして「住宅部品VOC表示ガイドライン」が制定されています。
- 本製品は「住宅部品VOC表示ガイドライン」の対象外ですが、VOC放散速度の確認をしています。
- VOC放散速度の確認結果は下表の通りです。

【外部機関測定結果及びVOC放散速度基準値】 (外部機関：パナソニック㈱プロダクト解析センター)

	VOC放散速度 (単位: $\mu\text{g}/\text{m}^3\text{h}$ )					
	ホルムアルデヒド	トルエン	キシレン	エチルベンゼン	スチレン	クロルピリホス
SOLIDO type F coffee	1	4	0.2未満	0.2未満	0.2未満	検出できず
SOLIDO type F shirasu	0.2	0.2未満	0.2未満	0.2未満	0.2未満	検出できず
基準値 (上限値)	5	38	29	550	32	—

※「建材からのVOC放散速度基準」に規定されている試験方法である「JIS A 1901」(小型チャンバー法)の試験開始後7日目の測定結果です。  
 ※試験条件は、試験負荷率2.2 $\text{m}^3/\text{m}^2$ 、換気回数0.5回/時間、温度28°C、湿度50%です。

### <3>調湿性能について

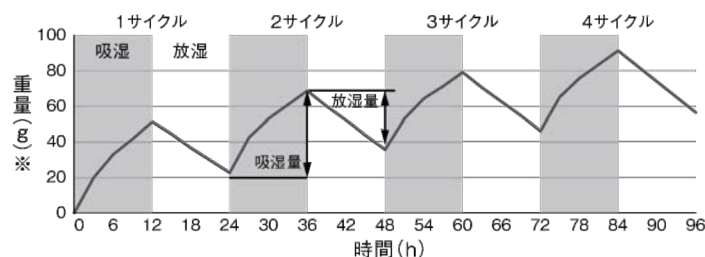
●SOLIDO typeF shirasu は、(一社)日本建材・住宅設備産業協会の調湿建材登録・表示制度の適合商品です。

※SOLIDO typeF coffee は、下表の性能を満たしていません。

項目	3時間後	6時間後	12時間後
吸湿量 ( $\text{g}/\text{m}^2$ )	15以上	20以上	29以上
放湿量 ( $\text{g}/\text{m}^2$ )	—	—	20以上 4サイクル確認

※試験方法 JIS A 1470 - 1:2014 (建築材料の吸放湿性試験方法—第1部:湿度応答法) および付属書JA (規定) 相対湿度50%→75%→50%周期を4サイクル繰り返す、温度23°C

【試験結果】 サンプル重量の変化による吸放湿量の測定



※1 $\text{m}^2$ 当たりの重量変化分です。  
 ※左記結果は試験値であり、使用環境によって異なります。

## 2. 推奨範囲

### 【1】推奨範囲

#### < 1 > 推奨地域

- 日本全国

#### < 2 > 推奨部位

- 垂直かつ平面である屋内壁に使用できます。それ以外のご使用の場合、当社で安全性等の確認・検証ができておりません。
- 層間変形角1/120以下の箇所に使用してください。
- 曲面へ本製品を曲げての施工は、割れや脱落の原因となるので避けてください。
- 下記の場所での使用については、変形等のおそれがあるため推奨していません。
  - ・ 水を使用したり、湿気が多くなる場所（例：トイレ、浴室、洗面等）
  - ・ 火気等を使用し、高温になる場所（例：暖炉、ガスコンロ周辺等）
- 耐火規制等の法規制について、採用される認定や使用される部位の規制等を確認していただき、使用可否判断を行ってください。
- 留付け下地の不陸は2mm以下になるよう調整してください。

### 【2】推奨施工法

- 推奨施工法として、「金具工法」と「接着工法」、「接着工法（剥落防止処置）」、および「LAP工法」があります。

推奨施工法	概要
金具工法	専用金具を用いて固定する工法。
接着工法	接着剤と仮留め材（フィニッシュネイル等）を併用して固定する工法。接着剤が硬化するまでの間、仮留め材で保持します（仮留め材の撤去は不要）。
接着工法 （剥落防止処置）	剥落防止のため、接着剤と固定材（釘、ビス等）を併用して固定する施工方法。
<b>NEW</b> LAP工法	専用金具を用いて本体を重ねながら施工する工法。

- 推奨施工法は施工高さや下地および下地位置等で仕様が異なります。下表でご確認ください。

※接着工法で3.2mを超える屋内壁に施工する場合は、必ず「接着工法（剥落防止処置）」で施工してください。

■ 高さ別施工可否表※1

○：施工可 △：条件付きで可 ×：施工不可

本体の 施工高さ	金具工法	接着工法	接着工法（剥落防止処置）	<b>NEW</b> LAP工法
3.2m以下	○	○	○	○
6.2m以下	○	×	○	○
31m以下	△ ※2	×	×	○ ※3

※1 推奨施工法は風圧力の影響が無い屋内壁を前提としています。

風圧力の影響がある屋内壁の場合は、品質面や安全面等は十分ご配慮いただき、「KMEW外壁材設計施工マニュアル」最新版に基づいて設計・施工してください。

※2 施工高さが13mを超える場合、縦張りや2mm金具留めでの施工は不可です。

また16mを超える範囲は、本体1枚につき表面から直留め用ビスで1本留付けてください。（右図参照）

※3 31mを超えた場合でも通常施工のままで施工可能です。

本体 直留め用ビス



■ 下地別施工可否表

○：施工可 ×：施工不可

施工仕様	金具工法 ※3						接着工法				<b>NEW</b> LAP工法
	通気金具		5mm金具		2mm金具		下地面材なし ※4		下地面材あり		下地面材 なし/あり ※4
	縦張り	横張り	縦張り	横張り	縦張り	横張り	縦張り	横張り	縦張り	横張り	
木下地	○	○ ※4	○	○ ※4	×	○ ※4	○	○	○	○	○
鉄骨下地	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	×
LGS下地	○ ※5	○	○ ※5	○	×	×	○ ※5	○	○	○	○

※3 面材を追加する施工も可能です。面材の種類や留付け仕様については特に設定していませんが、留め金具や本体を留付ける釘またはビスの長さを長くする必要があります。

※4 本体の目地位置や留付け材の留付け位置毎に各下地が必要です。本体の割付けや留付け位置を考慮して各下地の設置位置を決めてください。

※5 長手方向の目地位置毎にLGS下地が必要です。本体の割付けを考慮してLGS下地の設置位置を決めてください。

### 3. 金具工法

#### 【1】適用下地

- 木下地、鉄骨下地、LGS下地に使用できます。
- 落下・脱落・破損等の不具合が起きないように、本資料を参考に、ご採用者様にて施工法や留付け部材、関連部材等を適切に設計・施工してください。
- 各下地の推奨仕様は下表の通りです。

##### ①木下地

(単位:mm)

		本体の張り方	
		横張り ※1	縦張り
下地材 (柱・間柱・縦枠)	間隔	500以下	
胴縁	サイズ	—	一般部：18×45以上 目地部：18×90以上
	間隔	—	500以下
	取付方向	—	横方向
	材質	—	よく乾燥して平坦 (ねじれ、反りのない)な木材

※1 留付け部材は下地に固定するため、縦目地位置に合わせて適切な幅の下地を設けてください。(14ページ参照)

##### ②鉄骨下地

(単位:mm)

			本体の張り方	
			横張り	縦張り
下地材 (C形鋼)	下地方向		縦方向	横方向
	一般部	サイズ	C形鋼 C-75×45×15以上	
		厚さ	1.6~2.3	
		間隔	606以下	
	目地部	サイズ	C形鋼 C-75×45×15以上ダブル または角形鋼口-100×100	C形鋼 C-75×45×15以上・3本
		厚さ	1.6~2.3	
木胴縁 ※2	取付方向	縦方向	横方向	
	サイズ	一般部：30×45以上 目地部：30×90以上		
	間隔	500以下		

※2 下地材(C形鋼)に木胴縁を取付ける場合の胴縁仕様です。  
下地材(C形鋼)は木胴縁と直交する形で施工してください。(横張りの場合：横方向、縦張りの場合：縦方向)  
その場合の下地材(C形鋼)のサイズは、一般部のサイズ(C-75×45×15以上)となります。

##### ③LGS下地

(単位:mm)

		本体の張り方	
		横張り	縦張り
下地材 (LGS)	サイズ	一般部：65形以上 目地部：65形以上ダブル	65形以上
	間隔	606以下	金具位置に合わせる
	厚さ	一般材(約0.5~0.6)以上	



# 3. 金具工法

## 【2】標準施工仕様




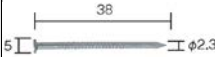



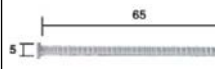


使用金具	留め金具	留め金具 (5mm) 平板用、留め金具 (2mm) 平板用 (横張り・木下地のみ)、 通気留め金具 (15mm) 平板用			
	スターター	スターター、ロングスターター			
	留付け間隔	木下地 : 500mm以下 LGS下地、鉄骨下地 : 606mm以下			
直留め部	端打ち寸法	<p>木下地 : ステンレスリング釘 A=20~30mm B=40~50mm LGS・鉄骨下地 : ステンレスビス A=30~40mm B=50~60mm</p>			
本体加工	最小加工幅	<p>凹型加工 : 板幅の1/2以上 L型加工 : 100mm以上</p> <p>※1/2未満となる場合は分離して突付け ※100未満となる場合は分離して突付け</p> <p>※上記規定寸法未満となる場合は、分離して突付け ※切断時は塗膜面を傷つけないよう配慮し、裏面を上側にして切断してください。</p>			
付帯物		下地に固定すること ※本体または保持力のない下地面材への固定は不可			
各部納まり	目地部	横張り	横目地	合いじゃくり接合	
		縦張り	縦目地	突付け ※横揺れによる本体木口面の欠け防止のため、 10m毎に合計15mm以上のクリアランスをとること	
			横目地	ロングスターター施工 ※スターター受け部の厚み分 (4mm程度) すき間があきます。	
		縦目地	合いじゃくり接合		
	出隅部	純正品出隅部材納め (推奨/92ページ参照) ※突付け納めも可能ですが、横張りでは右図のように勝ち側の木口に合いじゃくり部が露出しますのでご了承ください。 (補修する場合は93~100ページ参照)			
		床取合い部		<p>純正品巾木納め (推奨/13、19、90ページ参照) ※純正品巾木の場合は、本体を巾木に突付けての施工が可能です。 ※市販品巾木の場合は、本体下端の欠け防止のため、巾木上端から1~2mm程度のすき間をあけてください。 ※巾木なしの場合は、本体下端の欠け防止および本体施工時に床の不陸の影響を受けないよう床面より1~2mm程度のすき間をあけてください。 (縦張りの場合は、スターター受け部の厚み (4mm程度) 分、更にすき間があきます。)</p>	
	天井等 他部材取合い部		純正品見切り部材納め (推奨/91ページ参照)		
	補修・仕上げ		※本品は、1枚毎に色味が異なる商品のため、現場仕上げ塗料 (補修塗料) は設定していません。補修・仕上げが必要な場合は、市販の補修剤 (93~100ページ参照) をご検討ください。		

# 3. 金具工法

## 【3】使用部材

### <1>木下地

●留め金具（5mm）の場合

品名		品番	形状・寸法	材質	入数 (出荷単位)	
金具	留め金具（5mm）平板用 (縦張り・横張り共通)	B1005	 t=0.8mm	熔融亜鉛Al-Mg 合金めっき鋼板	70個/袋	
	ロングスターター (横張り用)	B101052	 t=0.8mm L=3030mm	熔融亜鉛Al-Mg 合金めっき鋼板	4本/箱	
	ロングスターター (縦張り用)	B10057	 t=0.8mm L=3030mm	熔融亜鉛Al-Mg 合金めっき鋼板	5本/箱 (専用ビス付)	
専用釘・ビス ※1	留め金具用	リング釘38（留め金具用） ※横張り用	RM89S0	 38 φ2.3	ステンレス	150本/箱
		留め金具用ビス25 (木下地用)	RY8830	 25 φ4.2	ステンレス	500本/箱
		留め金具用ビス35 (木下地用)	B881135	 35 φ4.1	ステンレス	500本/箱
	直留め用 ※2 ※3	リング釘45（直留め用）	B8745R400	 45 φ2.4	ステンレス shirasu近似色	40本/袋
		リング釘65（直留め用）	B8765R400	 65 φ3.0	ステンレス shirasu近似色	40本/袋
		リング釘75（直留め用）	B8775W1559	 75 φ3.0	ステンレス coffee近似色	36本/袋
スペーサー	スペーサー5	RY82S05	 22個/本 片面粘着層付き 45 5 L=1000mm	ポリプロピレン	20本/箱	

※1 面材を施工する場合は、次の長さの釘またはビスを上表または現場調達品より選定してください。

留め金具用釘（ビス）：面材厚み+38（15）mm以上

直留め用釘：面材厚み+45mm以上

※2 釘頭の補修・仕上げが必要な場合は、市販の補修剤（93～100ページ参照）をご検討ください。

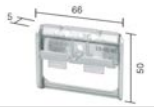
※3 クラックや割れが発生しないように先孔（φ2mm程度）をあけてください。

### 3. 金具工法

#### 【3】使用部材

##### < 2 > 鉄骨下地

● 留め金具（5mm）の場合

品名		品番	形状・寸法	材質	入数 (出荷単位)	
金具	留め金具（5mm）平板用 （縦張り・横張り共通）	B1005	 t=0.8mm	熔融亜鉛Al-Mg 合金めっき鋼板	70個/袋	
	ロングスターター （横張り用）	B101052	 t=0.8mm L=3030mm	熔融亜鉛Al-Mg 合金めっき鋼板	4本/箱	
	ロングスターター （縦張り用）	B10057	 t=0.8mm L=3030mm	熔融亜鉛Al-Mg 合金めっき鋼板	5本/箱 ※1	
専用ビス ※2	留め金具用 または ロングスターター用	留め金具用ビス19 （鉄骨下地用）	RY8840	 19 φ4.2	ステンレス	500本/箱
		留め金具用ビス45 （鉄骨下地用）	B8845S	 45 φ4.2	ステンレス	500本/箱
	直留め用	直留め用ビス50 （鉄骨下地用） ※3	B88501	 50 φ4.2	ステンレス	200本/袋
		直留め用ビス60 （鉄骨下地用） ※3	B8860	 60 φ5.0	ステンレス	200本/袋
		直留め用ビス80 （鉄骨下地用） ※3	B8880	 80 φ5.0	ステンレス	200本/袋
スペーサー	スペーサー-5	RY82S05	 22個/本 片面粘着層付き L=1000mm	ポリプロピレン	20本/箱	

※1 ロングスターター（縦張り用）に付属している専用ビスは木下地用のため使用できません。

上表のロングスターター用ビスを使用してください。

※2 面材を施工する場合は、次の長さビスを上表または現場調達品より選定してください。

留め金具用またはロングスターター用：面材厚み+20mm以上

直留め用：面材厚み+35mm以上

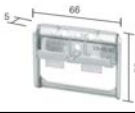


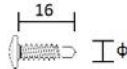

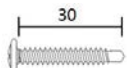
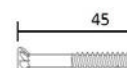


※3 近似色ではありません。ビス頭の補修・仕上げが必要な場合は、市販の補修剤（93～100ページ参照）をご確認ください。

# 3. 金具工法

## 【3】使用部材

### < 3 > LGS下地

●留め金具（5mm）の場合

品名		品番	形状・寸法	材質	入数 (出荷単位)			
金具	留め金具（5mm）平板用 (縦張り・横張り共通)	B1005	 t=0.8mm	溶融亜鉛Al-Mg 合金めっき鋼板	70個/袋			
	ロングスターター (横張り用)	B101052	 t=0.8mm L=3030mm	溶融亜鉛Al-Mg 合金めっき鋼板	4本/箱			
	ロングスターター (縦張り用)	B10057	 t=0.8mm L=3030mm	溶融亜鉛Al-Mg 合金めっき鋼板	5本/箱 ※1			
専用ビス	面材なし	留め金具用 または ロングスターター用	留め金具用ビス16 (薄鉄骨下地用)	B885116	 16 φ4.5	ステンレス	500本/箱	
		直留め用	直留め用ビス35 (薄鉄骨下地用) ※2	B885235	 35 φ4.5	ステンレス	300本/袋	
	面材あり	直留め用	留め金具用 または ロングスターター用	留め金具用ビス30 (薄鉄骨下地用) ※3	B885130	 30 φ4.5	ステンレス	500本/袋
			面材厚さ 10mm以下	直留め用ビス45 (薄鉄骨下地用) ※2	B885245	 45 φ4.5	ステンレス	300本/箱
		直留め用	面材厚さ 10mm超 30mm以下	直留め用ビス60 (薄鉄骨下地用) ※2	B885260	 60 φ4.5	ステンレス	200本/箱
			スペーサー	スペーサー5	RY82S05	 22個/本 片面粘着層付き L=1000mm	ポリプロピレン	20本/箱

※1 ロングスターター（縦張り用）に付属している専用ビスは木下地用のため使用できません。

上表のロングスターター用ビスを使用してください。



※2 近似色ではありません。ビス頭の補修・仕上げが必要な場合は、市販の補修剤（93～100ページ参照）をご検討ください。

※3 面材厚さの上限は15mm以下です。



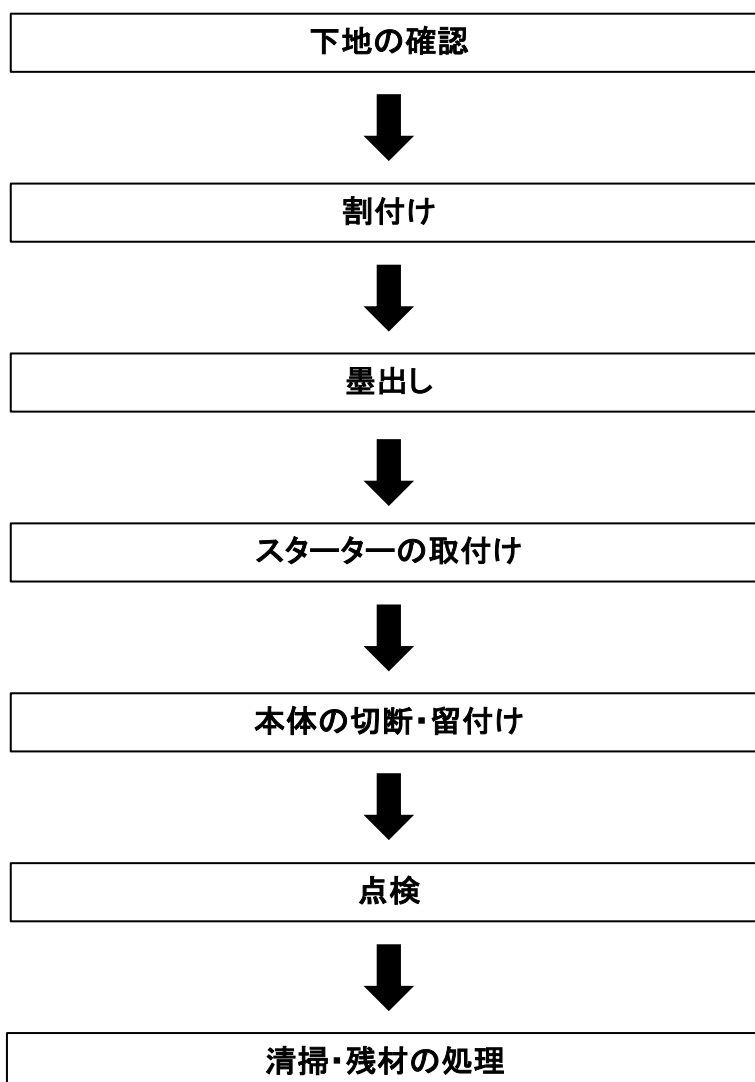
### 3. 金具工法

#### 【4】推奨切断刃

品名	品番	形状・寸法	材質	入数 (出荷単位)
ダイヤモンド <sup>テン</sup> 10(φ100)	B491	 外径:100mm 内径:20mm 刃厚:1.5mm 刃数:10	ダイヤモンドチップ	1枚
ダイヤモンド <sup>テン</sup> 10(φ125)	B492	 外径:125mm 内径:20mm 刃厚:1.5mm 刃数:10	ダイヤモンドチップ	1枚

- 切断の際に粉じんがでますので、工具連動集じん機をセットした防じんカッターの使用、防じんマスク・メガネの着用等の対策をお願いします。
- 切断方法等に関しては、ケイミューの「外壁材設計施工マニュアル」の最新版をご確認ください。

#### 【5】施工手順

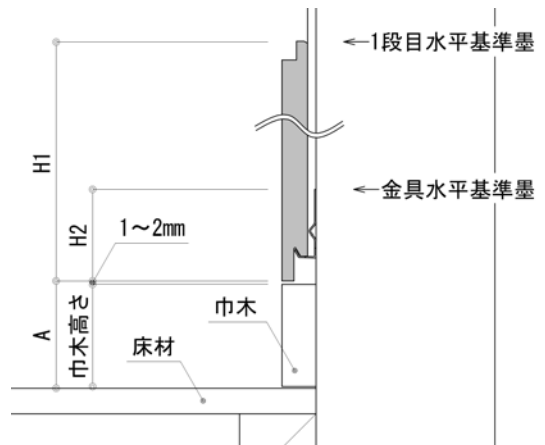
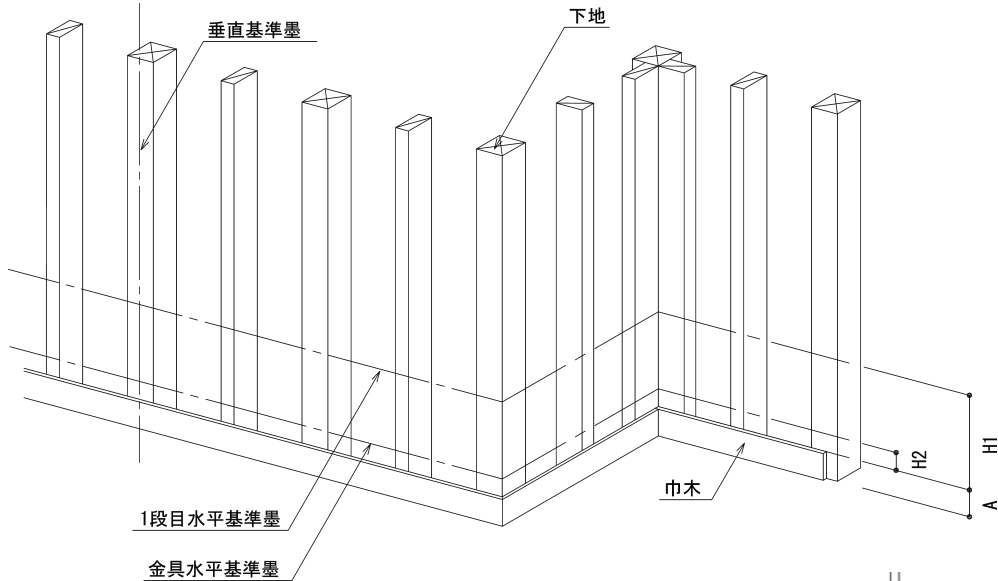


# 3. 金具工法

## 【6】横張り施工のポイント

### <1> 墨出し

- 役物、本体の水平基準を出すため、本体1段目の水平基準墨と金具用水平基準墨をうちます。
- 最下端部に巾木を使用する場合（純正品または市販品）または巾木を使用しない場合によって下図Aの値が異なります。
  - ・ 純正品巾木の場合：本体は巾木に突付けて施工することが可能です。
  - ・ 市販品巾木の場合：本体は巾木上端から1~2mm程度のすき間をあけて施工をしてください。（本体下端の欠け防止のため）
  - ・ 巾木なしの場合：本体は床から1~2mm程度のすき間をあけて施工をしてください。  
（本体下端の欠け防止のためおよび床の不陸の影響を受けないようにするため）
- 本体1段目の墨出し位置H1、留め金具上端の墨出し位置H2は、下表の通りです。（金具の種類によりH2寸法は異なります。）
- 施工面各面に1カ所以上、縦目地部の位置に垂直基準墨をうちます。



※図は市販品巾木を使用した場合

	A
純正品巾木	巾木高さ（60mmまたは15mm）
市販品巾木	巾木高さ+1~2mm程度
巾木なし	1~2mm程度

	1段目水平基準墨 H1	金具水平基準墨位置 H2	
スターターなし（純正品巾木を使用する場合）	466mm	—	
留め金具（5mm）		スターター	44mm
		ロングスターター	54mm
通気留め金具（15mm）		スターター	47mm
		ロングスターター	44mm
留め金具（2mm）（木下地専用）		スターター	45mm
		ロングスターター	54mm

# 3. 金具工法

## 【6】横張り施工のポイント

### <2>張り方のポイント (5mm金具留め施工の場合)

●本体は留め金具を使用して施工します。

	留め金具・スターター			ロングスターター		
	留付け仕様	留付け間隔	使用部位	留付け仕様	留付け間隔	使用部位
木下地	専用釘または専用ビス・1本留め	500以下 (下地毎)	留め金具： 一般部 スターター： 張出し部	専用釘または専用ビス	500以下 (下地毎)	張出し部
鉄骨下地	専用ビス・1本留め	606以下 (下地毎)		専用ビス	606以下 (下地毎)	
LGS下地	専用ビス・1本留め	606以下 (下地毎)		専用ビス	606以下 (下地毎)	

●天井取合い部や開口部上下等、合いじゃくり部分が切断され留め金具が施工できない箇所は、スペーサー5を入れ、端打ち寸法 (8ページ参照) を確保し、先孔 (釘：φ2mm程度、ビス：φ4mm程度) をあけてから直留め用の専用釘または専用ビスで下地に固定します。(鉄骨下地の専用ビス (直留め用ビス50等) を使用する場合は先孔不要)

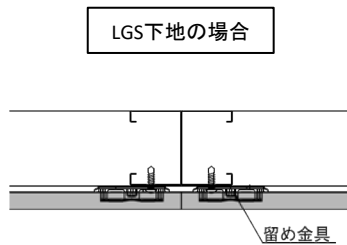
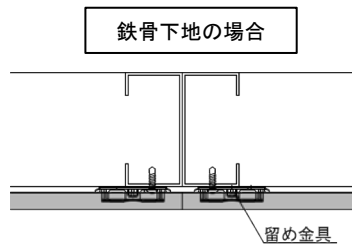
●留め金具には、複数の釘穴やビス穴があります。部位に合わせて穴を選び、必要本数を留付けます。

●合いじゃくり部の接合は、すき間ができないように差込みます。

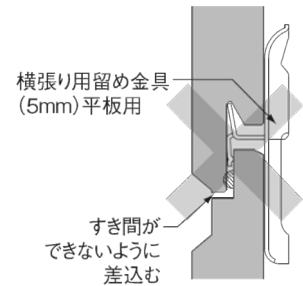
●留め金具は本体をまたいで使用せず、それぞれの本体端部に留め金具を1つずつ使用して施工します。

※縦目地部には縦目地部左右の金具の留付けができるように必ず下地を設けてください。

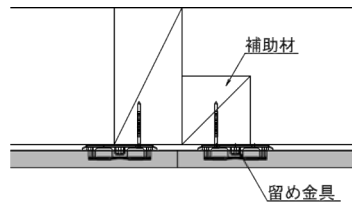
本体の端部付近に留め金具を留付けないと、本体の反りや変形の原因となります。



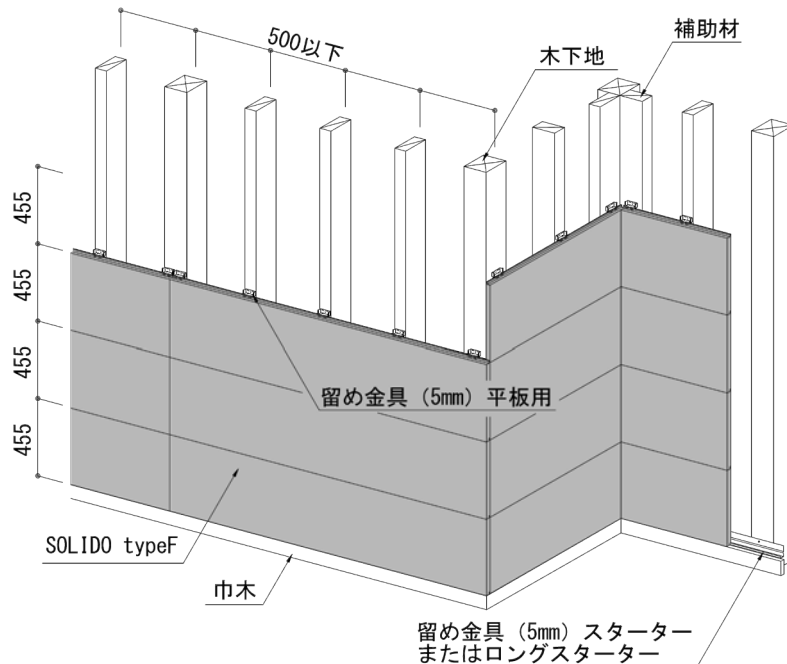
合いじゃくり部の接合



●木造で縦目地部が間柱位置にくる場合、金具を留付けできるように補助材を入れてください。(入隅等で、柱等の下地に金具の留付けができない場合も同様)



木下地の場合





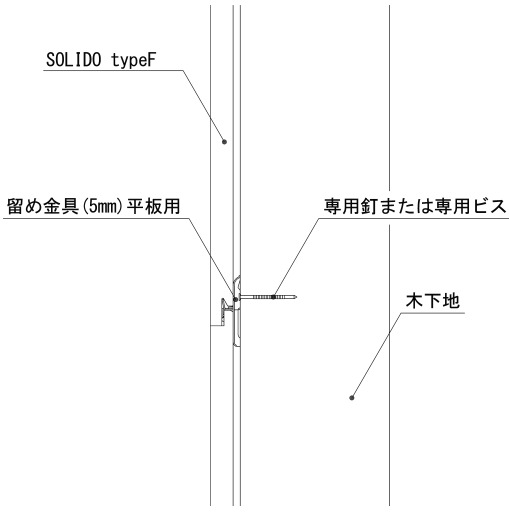
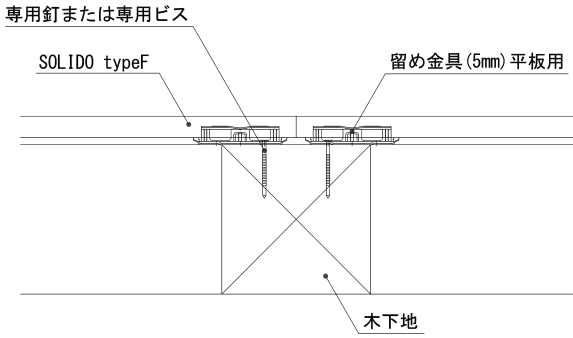
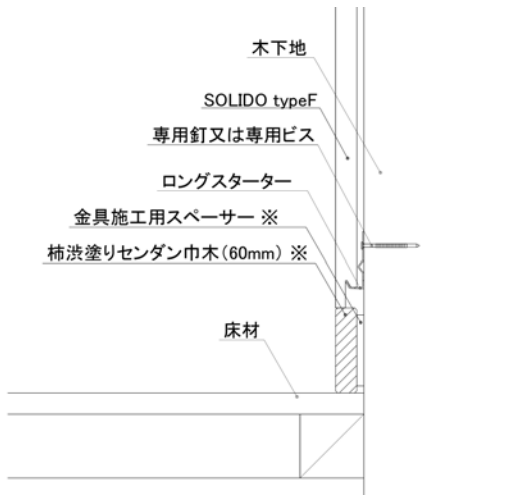
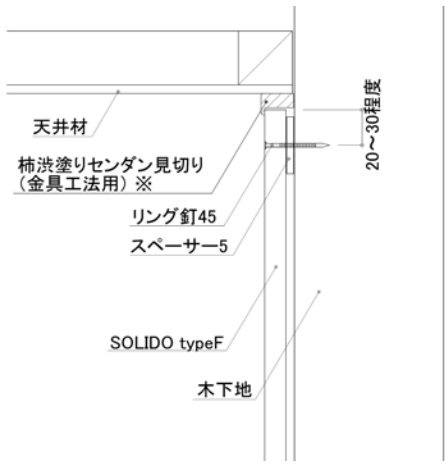
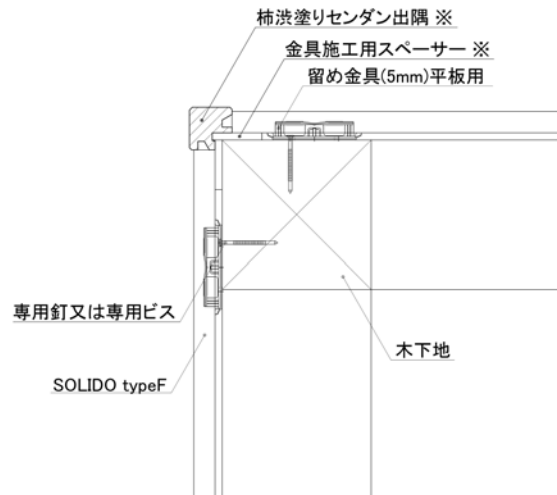
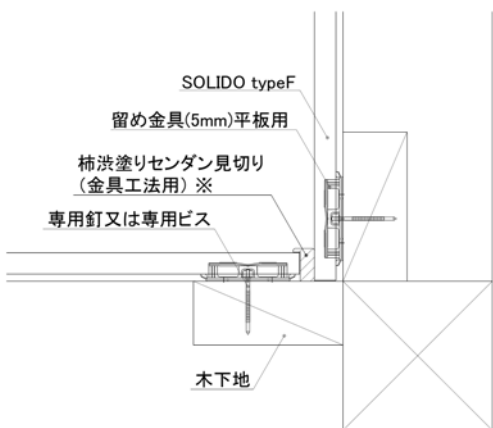


# 3. 金具工法

## 【6】横張り施工のポイント

### < 3 > 木下地 (5mm金具留め施工の場合) 参考納まり図

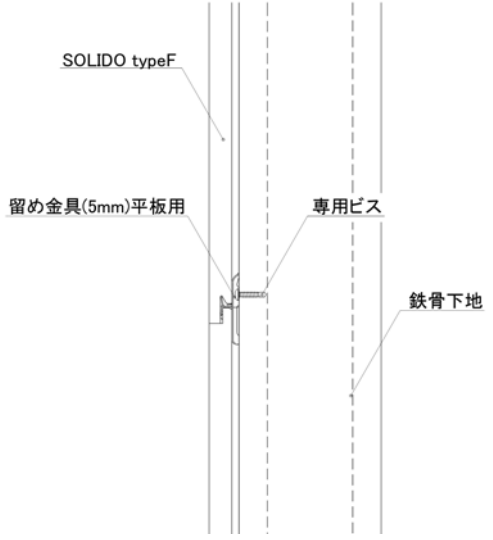
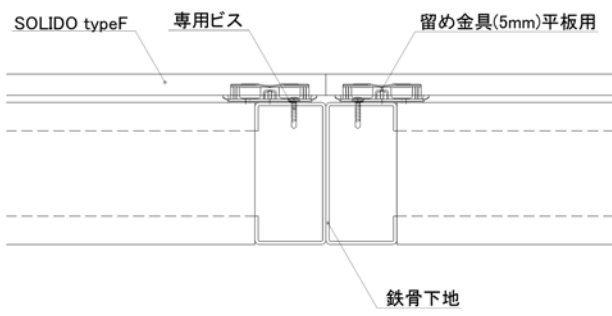
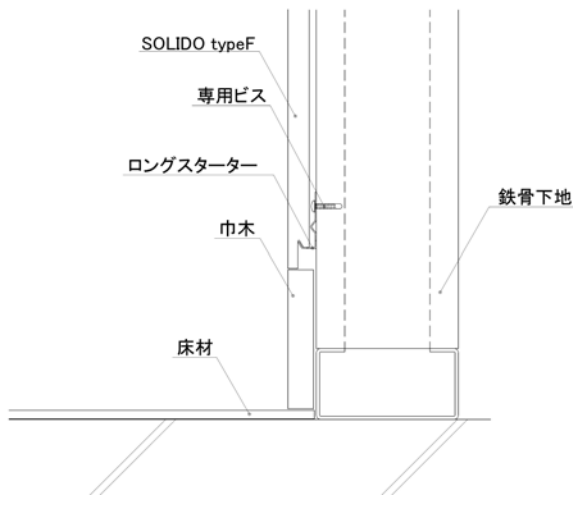
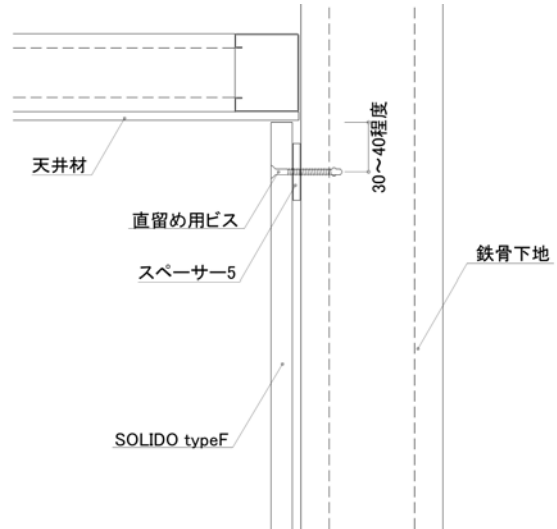
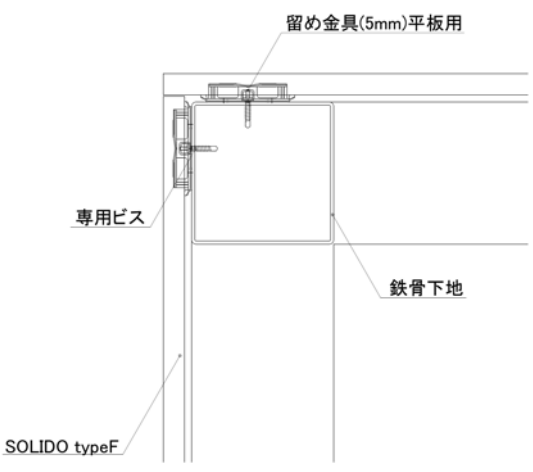

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと接着剤(MPX-7)を併用して留付け

一般部 (縦断面)	縦目地部
 <p>SOLIDO typeF 留め金具 (5mm) 平板用 専用釘または専用ビス 木下地</p>	 <p>専用釘または専用ビス SOLIDO typeF 留め金具 (5mm) 平板用 木下地</p>
床取合い部	天井取合い部
 <p>木下地 SOLIDO typeF 専用釘又は専用ビス ロングスターター 金具施工用スペーサー ※ 柿渋塗りセンダン巾木 (60mm) ※ 床材</p>	 <p>天井材 柿渋塗りセンダン見切り (金具工法用) ※ リング釘45 スペーサー5 SOLIDO typeF 木下地 20~30程度</p>
出隅部	入隅部
 <p>柿渋塗りセンダン出隅 ※ 金具施工用スペーサー ※ 留め金具 (5mm) 平板用 専用釘又は専用ビス SOLIDO typeF 木下地</p>	 <p>SOLIDO typeF 留め金具 (5mm) 平板用 柿渋塗りセンダン見切り (金具工法用) ※ 専用釘又は専用ビス 木下地</p>

# 3. 金具工法

## 【6】横張り施工のポイント

### < 4 > 鉄骨下地 (5mm金具留め施工の場合) 参考納まり図

一般部 (縦断面)	縦目地部
 <p>SOLIDO typeF 留め金具(5mm)平板用 専用ビス 鉄骨下地</p>	 <p>SOLIDO typeF 専用ビス 留め金具(5mm)平板用 鉄骨下地</p>
床取合い部	天井取合い部
 <p>SOLIDO typeF 専用ビス ロングスターター 巾木 床材 鉄骨下地</p>	 <p>天井材 直留め用ビス スペーサー5 SOLIDO typeF 30~40程度 鉄骨下地</p>
出隅部	入隅部
 <p>留め金具(5mm)平板用 専用ビス 鉄骨下地 SOLIDO typeF</p>	 <p>SOLIDO typeF 留め金具(5mm)平板用 専用ビス 鉄骨下地</p>

# 3. 金具工法

## 【6】横張り施工のポイント

### <5> LGS下地 (5mm金具留め施工の場合) 参考納まり図

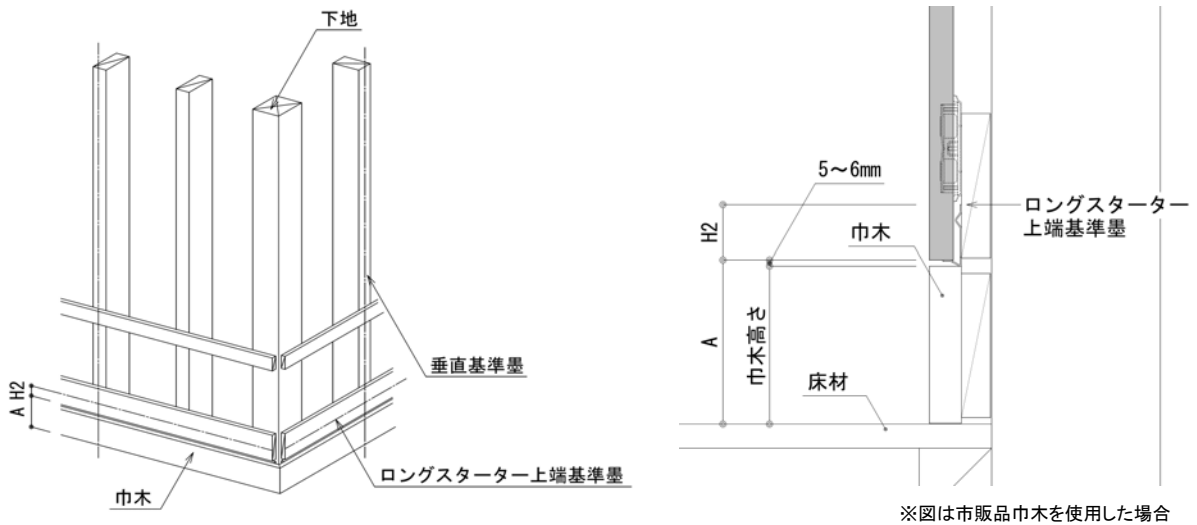
一般部 (縦断面)	縦目地部
<p>SOLIDO typeF</p> <p>留め金具(5mm)平板用</p> <p>留め金具用ビス16(薄鉄骨下地用)</p> <p>LGS下地</p>	<p>留め金具用ビス16(薄鉄骨下地用)</p> <p>SOLIDO typeF</p> <p>留め金具(5mm)平板用</p> <p>LGS下地</p>
床取合い部	天井取合い部
<p>SOLIDO typeF</p> <p>留め金具用ビス16(薄鉄骨下地用)</p> <p>ロングスターター</p> <p>巾木</p> <p>床材</p> <p>LGS下地</p>	<p>天井材</p> <p>直留め用ビス35(薄鉄骨下地用)</p> <p>スペーサー5</p> <p>SOLIDO typeF</p> <p>30~40程度</p> <p>LGS下地</p>
出隅部	入隅部
<p>留め金具(5mm)平板用</p> <p>留め金具用ビス16(薄鉄骨下地用)</p> <p>LGS下地</p> <p>SOLIDO typeF</p>	<p>SOLIDO typeF</p> <p>留め金具(5mm)平板用</p> <p>留め金具用ビス16(薄鉄骨下地用)</p> <p>30~40程度</p> <p>LGS下地</p>

# 3. 金具工法

## 【7】縦張り施工のポイント

### <1> 墨出し

- 本体施工用の垂直基準墨をうちます。
- 施工面各面に1カ所以上、本体上端取付け用水平基準墨をうちます。
- 最下端部に巾木を使用する場合（純正品または市販品）または巾木を使用しない場合によって下図Aの値が異なります。
  - ・ 純正品巾木の場合：本体は巾木に突付けて施工することが可能です。**ロングスターターは不要です。**
  - ・ 市販品巾木の場合：ロングスターターは巾木上端から1~2mm程度のすき間をあけて施工をしてください。  
(市販品巾木の破損防止のため)
  - ・ 巾木なしの場合：ロングスターターは床から1~2mm程度のすき間をあけて施工をしてください。  
(床の不陸の影響を受けないようにするため)
- ロングスターター上端の墨出し位置H2は下表の通りです。



	A
純正品巾木	巾木高さ (60mmまたは15mm)
市販品巾木	巾木高さ+5~6mm程度 (ロングスターター受け部の厚み4mm+1~2mm程度)
巾木なし	5~6mm程度 (ロングスターター受け部の厚み4mm+1~2mm程度)

	ロングスターター上端の墨出し位置 H2
ロングスターターなし (純正品巾木を使用する場合)	—
留め金具 (5mm)	35mm
通気留め金具 (15mm)	32mm



# 3. 金具工法

## 【7】縦張り施工のポイント

### <2>張り方のポイント（5mm金具留め施工の場合）

●本体は留め金具を使用して施工します。

	留め金具			ロングスターター		
	留付け仕様	留付け間隔	使用部位	留付け仕様	留付け間隔	使用部位
木下地	専用ビス・1本留め	500以下（下地毎）	一般部	専用ビス（同梱）	500以下（下地毎）	張出し部
鉄骨下地	専用ビス・1本留め	606以下（下地毎）		専用ビス （留め金具用ビス19）	606以下（下地毎）	
LGS下地	専用ビス・1本留め	606以下（下地毎）		専用ビス （留め金具用ビス16・30）	606以下（下地毎）	

●入隅部や開口部左右等、合いじゃくり部分が切断され留め金具が施工できない箇所は、スペーサー5を入れ、端打ち寸法（8ページ参照）を確保し、先孔（釘：φ2mm程度、ビス：φ4mm程度）をあけてから直留め用の専用ビスで下地に固定します。

（鉄骨下地の専用ビス（直留め用ビス50等）を使用する場合は先孔不要）

●留め金具には、複数のビス穴があいています。部位に合わせて穴を選び、必要本数を留付けます。

●張出し部1つ目の留め金具は、本体脱落防止のため、必ずロングスターターのすぐ上に取付けてください。

純正品巾木を使用し、ロングスターターを取付けない場合でも、張出し部1つ目の留め金具はなるべく下端部の方に取付けてください。

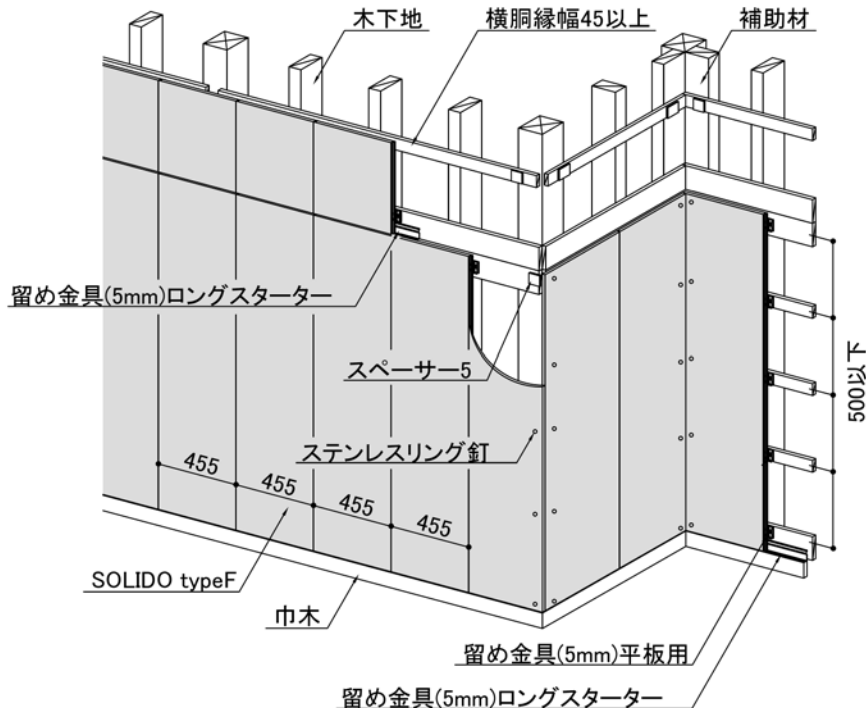
●合いじゃくりの部分の接合は、すき間ができないように差込みます。

●2段目以降の張り出し部にもロングスターターを使用します。

●LGS下地の場合：本体の割付けに合わせて金具の留付けができるようにLGS下地を設ける必要があります。本体を施工する前に、下地の設置位置の確認をしてください。

●木下地・鉄骨下地の場合：横目地部や張出し部には、下段最上部の留め金具、上段最下部または張出し部のロングスターターおよび留め金具の留付けができるように下地を設けてください。

木下地の場合

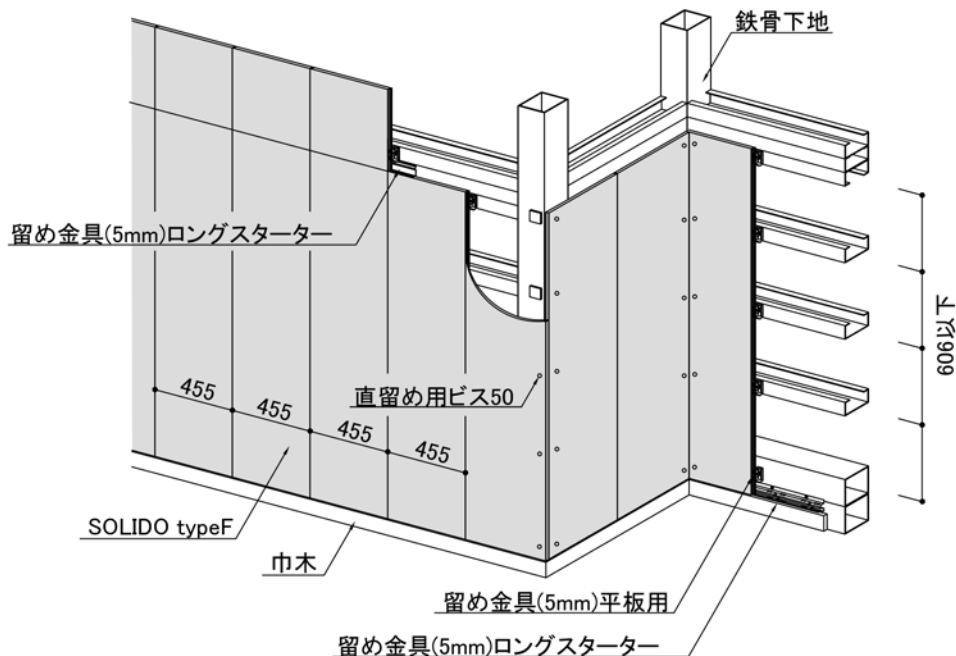


# 3. 金具工法

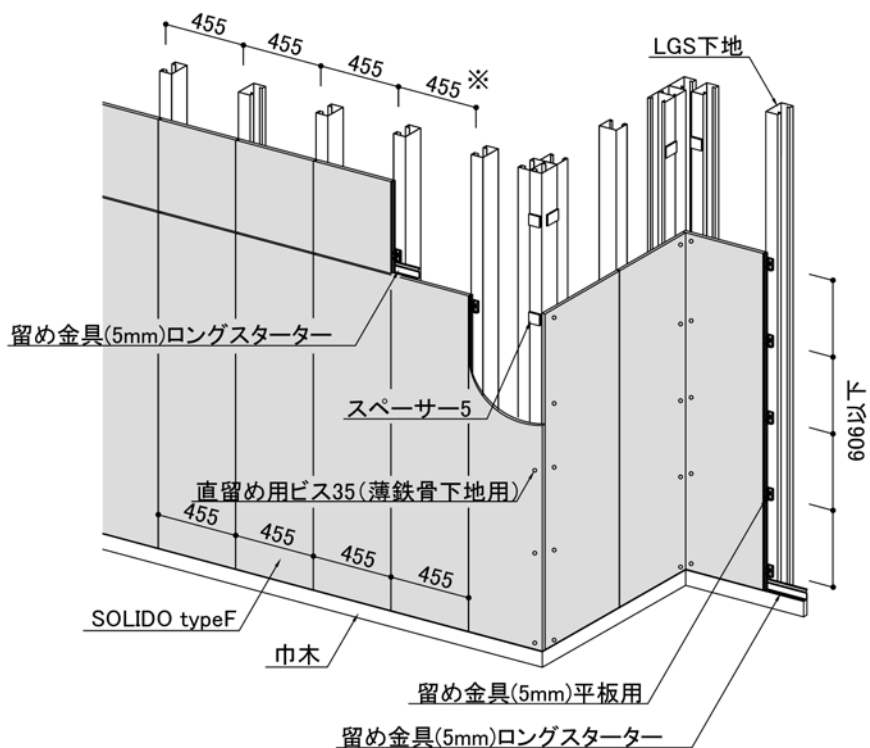
## 【7】縦張り施工のポイント

### <2>張り方のポイント (5mm金具留め施工の場合)

鉄骨下地の場合



LGS下地の場合



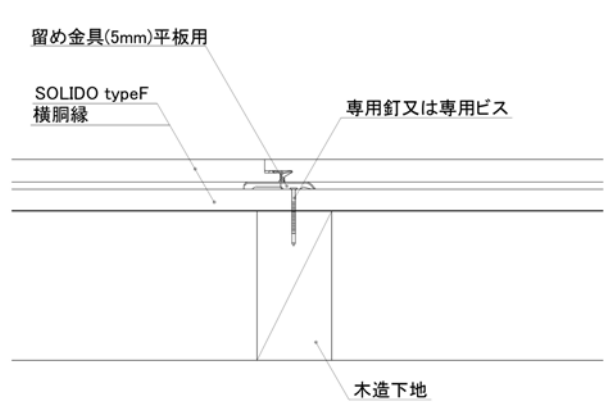
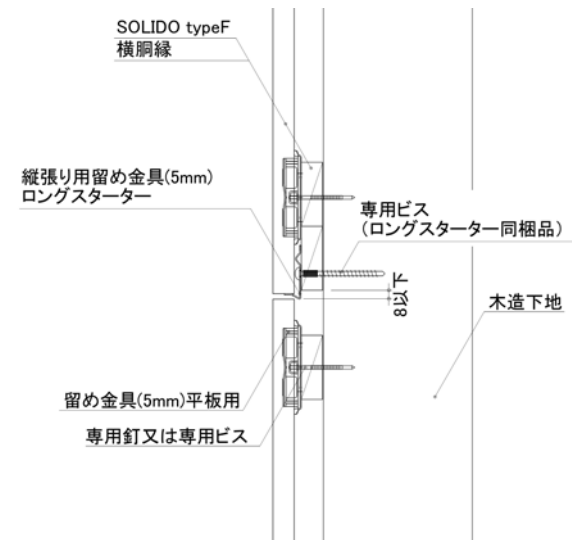
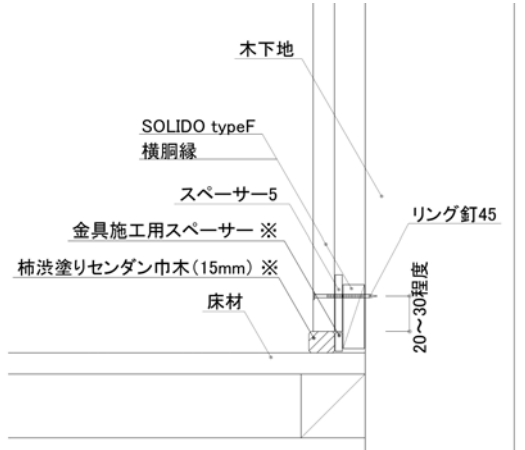
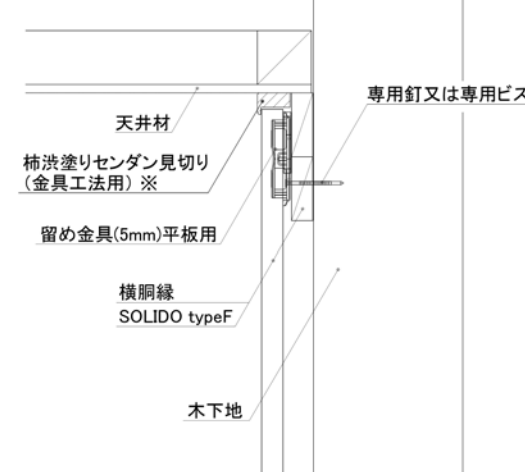
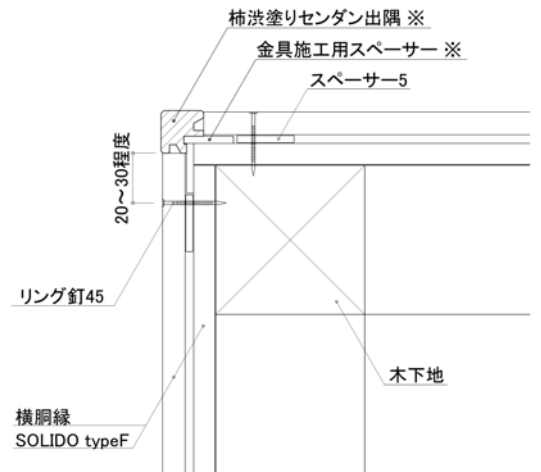
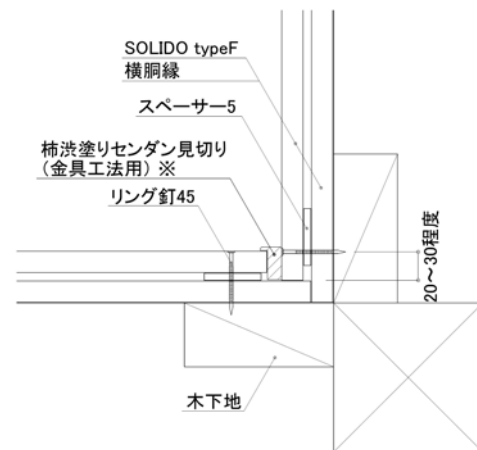
※本体の割付けに合わせて金具の留付けができるようにLGS下地を設ける必要があります。

# 3. 金具工法

## 【7】縦張り施工のポイント

### <3>木下地 (5mm金具留め施工の場合) 参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと接着剤(MPX-7)を併用して留付け

一般部 (横断面)	横目地部
 <p>留め金具(5mm)平板用 SOLIDO typeF 横胴縁 専用釘又は専用ビス 木造下地</p>	 <p>SOLIDO typeF 横胴縁 縦張り用留め金具(5mm)ロングスターター 専用ビス (ロングスターター同梱品) 1/2x8 木造下地 留め金具(5mm)平板用 専用釘又は専用ビス</p>
床取合い部	天井取合い部
 <p>木下地 SOLIDO typeF 横胴縁 スペーサー5 金具施工用スペーサー ※ 柿渋塗りセンダン巾木(15mm) ※ 床材 リング釘45 20~30程度</p>	 <p>天井材 専用釘又は専用ビス 柿渋塗りセンダン見切り(金具工法用) ※ 留め金具(5mm)平板用 横胴縁 SOLIDO typeF 木下地</p>
出隅部	入隅部
 <p>柿渋塗りセンダン出隅 ※ 金具施工用スペーサー ※ スペーサー5 20~30程度 リング釘45 木下地 横胴縁 SOLIDO typeF</p>	 <p>SOLIDO typeF 横胴縁 スペーサー5 柿渋塗りセンダン見切り(金具工法用) ※ リング釘45 20~30程度 木下地</p>

# 3. 金具工法

## 【7】縦張り施工のポイント

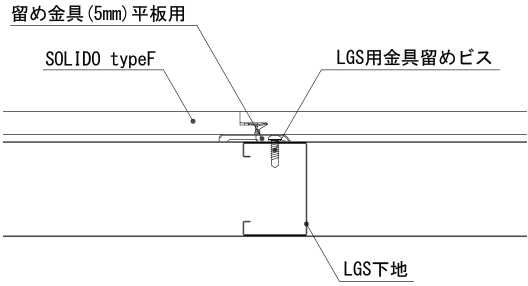
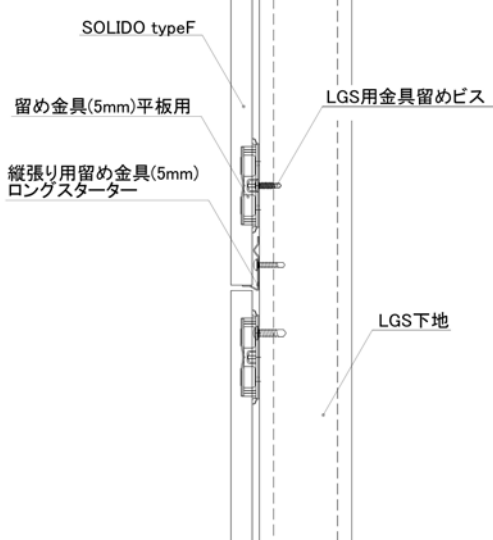
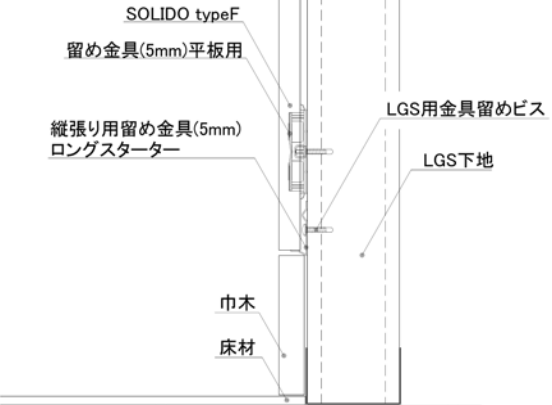
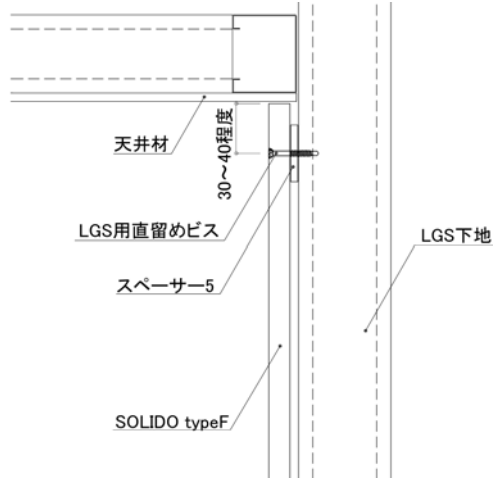
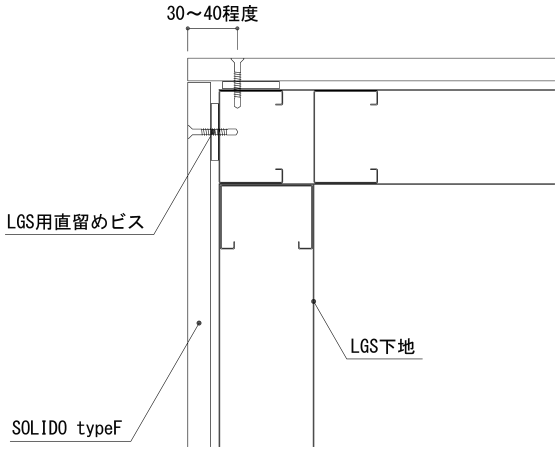
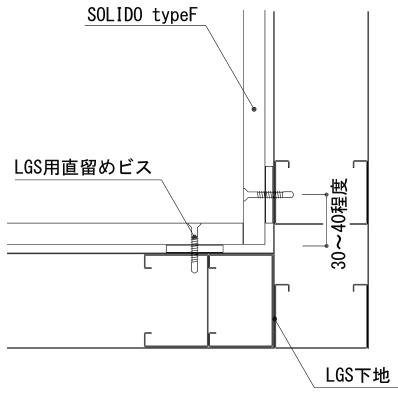
＜3＞鉄骨下地（5mm金具留め施工の場合）参考納まり図

一般部（横断面）	横目地部
<p>留め金具(5mm)平板用 SOLIDO typeF 専用ビス 鉄骨下地</p>	<p>SOLIDO typeF 縦張り用留め金具(5mm)ロングスターター 留め金具(5mm)平板用 専用ビス 鉄骨下地</p>
床取合い部	天井取合い部
<p>SOLIDO typeF 留め金具(5mm)平板用 縦張り用留め金具(5mm)ロングスターター 専用ビス 鉄骨下地 巾木 床材</p>	<p>天井材 専用ビス 鉄骨下地 留め金具(5mm)平板用 SOLIDO typeF</p>
出隅部	入隅部
<p>30～40程度 直留め用ビス スペーサー5 鉄骨下地 SOLIDO typeF</p>	<p>SOLIDO typeF スペーサー5 直留め用ビス 30～40程度 鉄骨下地</p>

# 3. 金具工法

## 【7】縦張り施工のポイント

### < 4 > LGS下地 (5mm金具留め施工の場合) 参考納まり図

一般部 (横断面)	横目地部
 <p>留め金具(5mm)平板用 SOLIDO typeF LGS用金具留めビス LGS下地</p>	 <p>SOLIDO typeF 留め金具(5mm)平板用 縦張り用留め金具(5mm)ロングスターター LGS用金具留めビス LGS下地</p>
床取合い部	天井取合い部
 <p>SOLIDO typeF 留め金具(5mm)平板用 縦張り用留め金具(5mm)ロングスターター LGS用金具留めビス LGS下地 巾木 床材</p>	 <p>天井材 30~40程度 LGS用直留めビス スペース5 SOLIDO typeF LGS下地</p>
出隅部	入隅部
 <p>30~40程度 LGS用直留めビス LGS下地 SOLIDO typeF</p>	 <p>SOLIDO typeF LGS用直留めビス 30~40程度 LGS下地</p>

# 4. 接着工法

## 【1】下地仕様

- 木下地、鉄骨下地、LGS下地に使用できます。
- 落下・脱落・破損等の不具合が起きないように、ご採用者様にて、本資料を参考に施工法や留付け部材、関連部材等を適切に設計・施工してください。
- 各下地の推奨仕様については下表の通りです。
- 施工高さが3.2m超6.2m以下で面材を使用する場合、本体の固定は「面材に接着」に加えて「釘またはビスで下地に留付け」となるため面材厚さの制約はありませんので、面材の種類のみご確認ください。

<面材なしの場合>

(単位:mm)

下地種類		木下地	鉄骨下地	LGS下地	
下地 (躯体)	寸法	幅	一般部：45以上 目地部：90以上	一般部：C-75×45×15以上 目地部：C-75×45×15以上 ダブル または □-100×100以上	一般部：45以上 目地部：45以上ダブル または幅90以上
		厚さ	米柄15厚、杉材18厚等と 同等の保持力を確保 できる寸法	1.6~2.3	一般材：約0.5~0.6 JIS材：0.8
	横張り	下地方向	縦		
		間隔	500以下 ※1		
	縦張り	下地方向	横		縦 ※2
		間隔	500以下 ※1		幅方向2本(両端) ※2
	固定方法	本体の荷重を十分に受けることができ、かつ割れや著しい反り、不陸等、経年において本体固定に影響を及ぼす劣化のない固定方法であること (LGS下地の場合のみ：スタッドがランナーにビス等で固定されており、水平方向へ移動しないこと)			
	不陸	2以下			

※1 施工高さが3.2m超6.2m以下の場合、固定材は下地に留付けるため、本体の目地位置や留付け材の留付け位置に合わせて下地を設ける必要があります。

※2 本体の割付けに合わせてLGS下地を設ける必要があります。

<面材ありの場合>


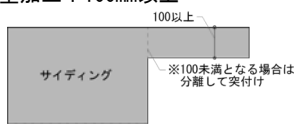
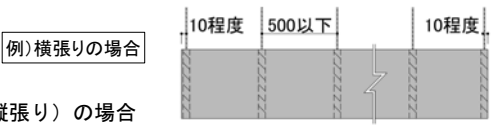
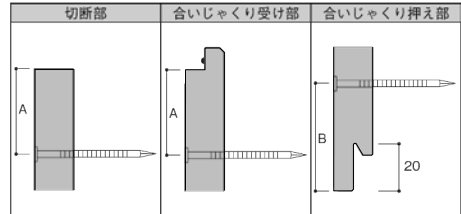

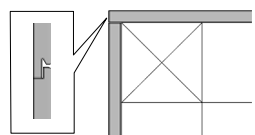
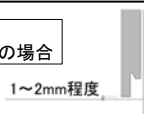
(単位:mm)

下地種類		木下地	鉄骨下地	LGS下地
下地(躯体)		面材が保持できるサイズ・間隔とすること ※3		
面材	種類・厚さ	下記のいずれかとする ・せっこうボード(GB-R、GB-F、GB-S) 厚9.5以上 ・構造用合板(1類以上) 厚9.0以上 ・けい酸カルシウム板 厚6.0以上		
	固定方法	下地(躯体)に固定されており、割れや著しい反り、不陸等、経年で本体固定に影響を及ぼす劣化のない固定方法であること		
	不陸	2以下		

※3 施工高さが3.2m超6.2m以下の場合、固定材は下地に留付けるため、本体の目地位置や留付け材の留付け位置に合わせて下地を設ける必要があります。

# 4. 接着工法

## 【2】施工仕様

本体加工	最小加工幅	<p>凹型加工：板幅の1/2以上</p>  <p>※1/2未満となる場合は分離して突付け</p> <p>L型加工：100mm以上</p>  <p>※100未満となる場合は分離して突付け</p> <p>※上記規定未滿となる場合は分離して突付け ※切断時は塗膜面を傷つけないよう配慮し、裏面を上側にして切断してください。</p>
		<p>接着剤</p> <p>MPX-7（品番：KLTMB） ※乾燥硬化型（エマルジョンタイプ、溶剤タイプ）は使用不可。</p>
接着剤	塗布面	本体裏面、下地（躯体）表面、面材表面のいずれか
	塗布方法	Φ8mmのビード状にて塗布
	塗布位置	<p>■木下地（縦・横張り）、鉄骨下地（縦・横張り）、LGS下地（横張り）の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・両端：本体端部より10mm程度内側に幅方向全長に塗布</li> <li>・中央：長手方向500mm以下の間隔（下地毎）で幅方向全長に塗布</li> <li>・接着剤の必要本数の目安：0.5本以上/枚・10尺品</li> </ul>  <p>例)横張りの場合</p> <p>例)縦張りの場合</p> <p>■LGS下地（縦張り）の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・両端：本体端部より10mm程度内側に長手方向全長に塗布</li> <li>・中央：なし</li> <li>・接着剤の必要本数の目安：1本以上/枚・10尺品</li> </ul> <p>※面材ありの場合、上記どちらの塗布位置でも施工可能です。</p>
		必要塗布量
	養生・施工環境条件	接着可能温度：5～35℃、張付け可能時間：15分以内/23℃ （推奨接着剤を使用する場合は、各々の規定に従うこと）
	留付け	留付け材・留付け間隔
端打ち寸法		<p>フィニッシュネイル（木・LGS下地（一般材）） A=15～25mm B=30～40mm</p> <p>ステンレスリング釘（木下地） A=20～30mm B=40～50mm</p> <p>ステンレスビス・直留め用ビス（鉄骨下地） A=30～40mm B=50～60mm</p> <p>軽天タッピングビス（LGS下地（JIS材）） A=30～40mm B=50～60mm</p> 
付帯物		下地に固定すること ※本体または保持力のない下地面材への固定は不可
各部納まり	目地部	<p>合いじゃくり接合 または 突付け</p> <p>※横張りの縦目地部では、横揺れによる本体木口面の欠け防止のため、10m毎に合計15mm以上のクリアランスをとってください。</p>  <p>10m毎に合計15mm以上のクリアランスをとること</p>
	出隅部	<p>純正品出隅部材納め（推奨/92ページ参照）</p> <p>※突付け納めも可能ですが、横張りでは右図のように勝ち側の木口に合いじゃくり部が露出しますのでご了承ください。（補修する場合は93～100ページ参照）</p> 
	床取合い部	<p>純正品巾木納め（推奨/31、90ページ参照）</p> <p>※巾木なしの場合は、本体下端の欠け防止および本体施工時に床の不陸の影響を受けないよう床面より1～2mm程度のすき間をあけてください。</p> <p>巾木なし ※横張りの場合</p>  <p>1～2mm程度</p>
	天井等 他部材取合い部	純正品見切り部材納め（推奨/91ページ参照）
補修・仕上げ		※本品は、1枚毎に色味が異なる商品のため、現場仕上げ塗料（補修塗料）は設定していません。補修・仕上げが必要な場合は、市販の補修剤（93～100ページ参照）をご検討ください。



## 4. 接着工法

### 【3】使用部材

#### < 1 > 接着剤

- 接着剤は下記のMPX-7（JIS A 5538適合）をご使用ください。
- MPX-7はコニシ株式会社の商品として通常販売されている商品です。コニシ株式会社設定品番はケイミュー設定品番とは異なります。ご注意ください。

品名（品番）	形状	主成分	シックハウス対応	容量
MPX-7 品番：KLTMB		一液型変成シリコン樹脂系接着剤	F☆☆☆☆ JAIA 4VOC基準適合	333ml/本 20本/箱
	塗布量：180g/㎡以上 ※本体1枚あたりの必要本数は、【6】～【9】の各張り方の施工のポイントをご参照ください			

- MPX-7以外では次の接着剤を推奨します。商品については各メーカーへお問合せください。
- 塗布量等、施工方法はMPX-7と同じです。
- 同一現場で種類の異なる接着剤を併用しないでください。
- 乾燥硬化型（エマルジョンタイプ、溶剤タイプ）の接着剤は使用しないでください。本体の反りや接着不良の原因となります。

品名	主成分	シックハウス対応	容量	問合せ先
MPX-1	一成分形 変成シリコン樹脂系接着剤	F☆☆☆☆ JAIA 4VOC基準適合	333ml/本	コニシ(株)接着相談室 TEL：0120-28-1168 土日祝日を除く 10：00～12：00 13：00～17：00
ペンギンセメント 937H	ウレタン樹脂系接着剤	F☆☆☆☆ JAIA 4VOC基準適合	320ml/本	サンスター技研(株) 品質保証グループ TEL：055-284-3761 土日祝日を除く 10：00～12：00 13：00～17：00

## 4. 接着工法

### 【3】使用部材

#### <2>留付け材（仮留め材・固定材）適用表

##### ①施工高さ3.2m以下

- 仮留め材は下表の釘またはビスを使用します。
- フィニッシュネイルを施工する時は**高圧フィニッシュネイラー**を使用してください。
- ビス頭の補修・仕上げが必要な場合は、市販の補修剤（76～83ページ参照）をご検討ください。
- 面材の仕様は25ページを参照してください。

##### (1) 木下地

(単位：mm)

面材	留付け材（仮留め材）		固定間隔	
	種類	サイズ	幅方向	長手方向
なし	フィニッシュネイル	25（長さ）	3本（両端、中央）以上	@500以下
あり	フィニッシュネイル	25（長さ）	3本（両端、中央）以上	@500以下
			2本（両端）以上	@300以下

##### (2) 鉄骨下地

(単位：mm)

面材	留付け材（仮留め材）			固定間隔	
	種類	サイズ	入数	幅方向	長手方向
なし	直留め用ビス50 （鉄骨下地用） 品番：B88501	φ4.2×50	200本/箱	2本（両端）以上	3本（両端、中央）以上 ※1
あり	フィニッシュネイル ※2	25（長さ）	—	3本（両端、中央）以上	@500以下
				2本（両端）以上	@300以下

※1 本体長さが1500以下の場合は2本（両端）以上とします。

※2 面材の厚みが9mm未満の場合、フィニッシュネイルは鉄骨下地に当たらない位置に留付けてください。  
鉄骨下地に当たる場合は、「面材なし」の場合の留付け材・固定間隔としてください。

##### (3) LGS下地（一般材：t=0.5～0.6）

(単位：mm)

面材	留付け材（仮留め材）			固定間隔	
	種類・入数	サイズ	入数	幅方向	長手方向
なし	フィニッシュネイル	25（長さ）	—	横張り：3本（両端、中央）以上	@500以下
				縦張り：2本（両端）以上	@300以下
あり	フィニッシュネイル	25（長さ）	—	2本（両端）以上	3本（両端、中央）以上 ※4
				3本（両端、中央）以上	@500以下
				2本（両端）以上	@300以下

※3 「直留め用ビス35/45/60（薄鉄骨下地用）」は使用不可です。

※4 本体長さが1500以下の場合は2本（両端）以上とします。

##### (4) LGS下地（JIS材：t=0.8）

(単位：mm)

面材	留付け材（仮留め材）			固定間隔	
	種類	サイズ	入数	幅方向	長手方向
なし	（現地調達品）※5	φ4.5×35以上	—	2本（両端）以上	3本（両端、中央）以上 ※6
あり	フィニッシュネイル ※7	25（長さ）	—	3本（両端、中央）以上	@500以下
				2本（両端）以上	@300以下

※5 「直留め用ビス35/45/60（薄鉄骨下地用）」は使用不可です。

※6 本体長さが1500以下の場合は2本（両端）以上とします。

※7 面材の厚みが9mm未満の場合、フィニッシュネイルはLGS下地に当たらない位置に留付けてください。  
LGS下地に当たる場合は「直留め用ビス45（薄鉄骨下地用）/B885245」を使用し、「面材なし」の場合の固定間隔と  
してください。

## 4. 接着工法

### 【3】使用部材

#### < 2 > 留付け材（仮留め材・固定材）適用表

##### ②施工高さ3.2m超 6.2m以下

●固定材は下表の釘またはビスを使用します。

※釘は近似色ですがビスは近似色ではありません。

●釘（ビス）頭の補修・仕上げが必要な場合は、市販の補修剤（93～100ページ参照）をご検討ください。

●面材の仕様は25ページを参照してください。（面材厚さの制約はありませんので、面材種類のみご確認ください）

##### （1）木下地

（単位：mm）

面材		留付け材（固定材）			固定間隔	
		種類	サイズ	入数	幅方向	長手方向
なし	coffee	リング釘40 品番：B8740W1559	φ2.3×40	36本/袋	2本（両端）以上	本体長さ1500mm超え： 3本（両端、中央）以上  本体長さ1500mm以下： 2本（両端）以上
	shirasu	リング釘45（直留め用） 品番：B8745R400	φ2.4×45	40本/袋		
あり ※1	coffee	リング釘75（直留め用） 品番：B8775W1559	φ3.0×75	36本/袋		
	shirasu	リング釘65（直留め用） 品番：B8765R400	φ3.0×65	40本/袋		

※1 現場調達品の場合は、径2.3mm以上 長さ＝面材厚さ+35mm以上のステンレスリング釘としてください。

##### （2）鉄骨下地

（単位：mm）

面材		留付け材（固定材）			固定間隔	
		種類	サイズ	入数	幅方向	長手方向
なし		直留め用ビス50 （鉄骨下地用） 品番：B88501	φ4.2×50	200本/箱	2本（両端）以上	本体長さ1500mm超え： 3本（両端、中央）以上  本体長さ1500mm以下： 2本（両端）以上
あり ※2	面材厚さ 20mm以下	直留め用ビス50 （鉄骨下地用） 品番：B88501	φ4.2×50	200本/箱		
	面材厚さ 30mm以下	直留め用ビス60 （鉄骨下地用） 品番：B8860	φ5.0×60	200本/箱		
	面材厚さ 50mm以下	直留め用ビス80 （鉄骨下地用） 品番：B8880	φ5.0×80	200本/箱		

※2 現場調達品の場合は、径3.5mm以上 長さ＝面材厚さ+30mm以上のステンレスビスとしてください。

##### （3）LGS下地（一般材・JIS材共通）

（単位：mm）


面材		留付け材（固定材）			固定間隔	
		種類	サイズ	入数	幅方向	長手方向
なし		（現地調達品）※3	φ4.5×35以上	—	2本（両端）以上	本体長さ1500mm超え： 3本（両端、中央）以上  本体長さ1500mm以下： 2本（両端）以上
あり ※4	面材厚さ 10mm以下	直留め用ビス45 （薄鉄骨下地用） 品番：B885245	φ4.5×45	300本/箱		
	面材厚さ 10mm超え 30mm以下	直留め用ビス60 （薄鉄骨下地用） 品番：B885260	φ4.5×60	200本/箱		

※3 「直留め用ビス35/45/60（薄鉄骨下地用）」は使用不可です。

※4 面材厚さが30mmを超える場合は現地調達品としてください。

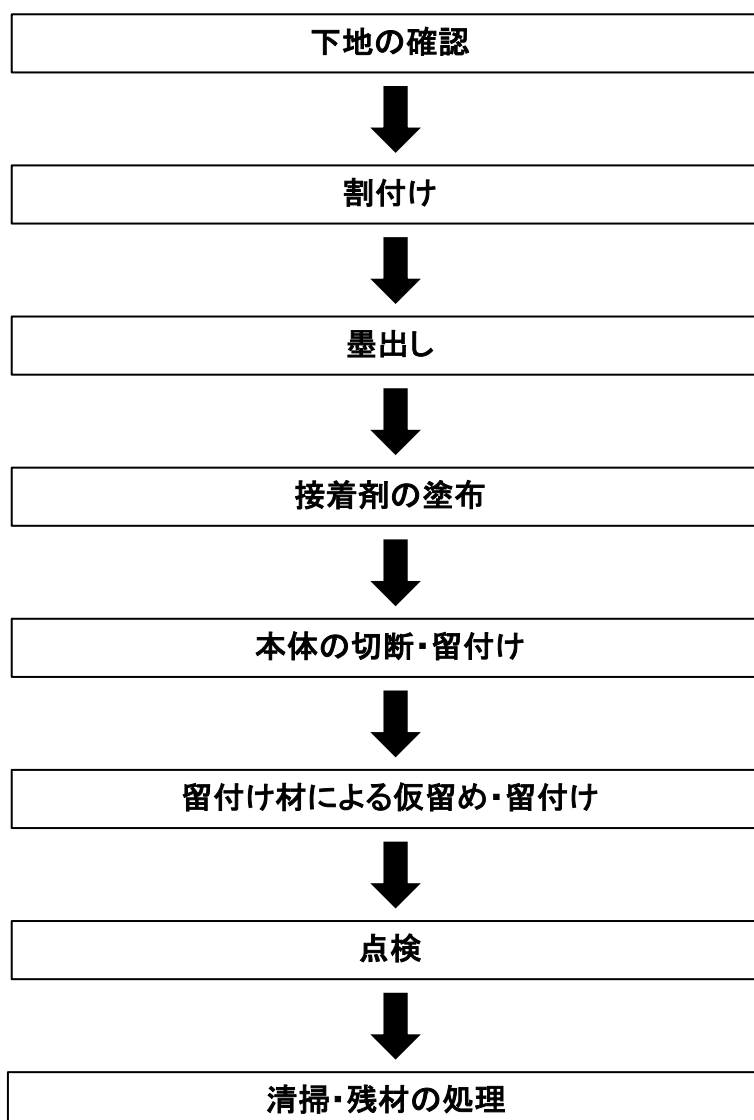
## 4. 接着工法

### 【4】推奨切断刃

品名	品番	形状・寸法	材質	入数 (出荷単位)
ダイヤモンド <sup>テン</sup> 10(φ100)	B491	 外径:100mm 内径:20mm 刃厚:1.5mm 刃数:10	ダイヤモンドチップ	1枚
ダイヤモンド <sup>テン</sup> 10(φ125)	B492	 外径:125mm 内径:20mm 刃厚:1.5mm 刃数:10	ダイヤモンドチップ	1枚

- 切断の際に粉じんがでますので、工具連動集じん機をセットした防じんカッターの使用、防じんマスク・メガネの着用等の対策をお願いします。
- 切断方法等に関しては、ケイミューの「外壁材設計施工マニュアル」の最新版をご確認ください。

### 【5】施工手順

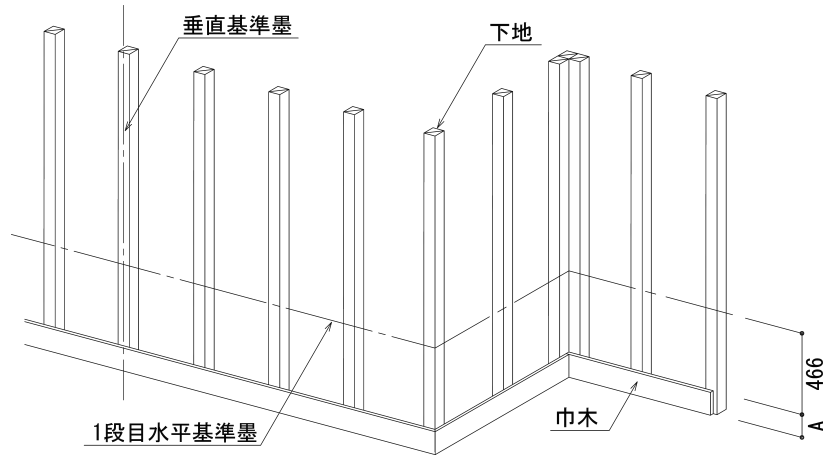


# 4. 接着工法

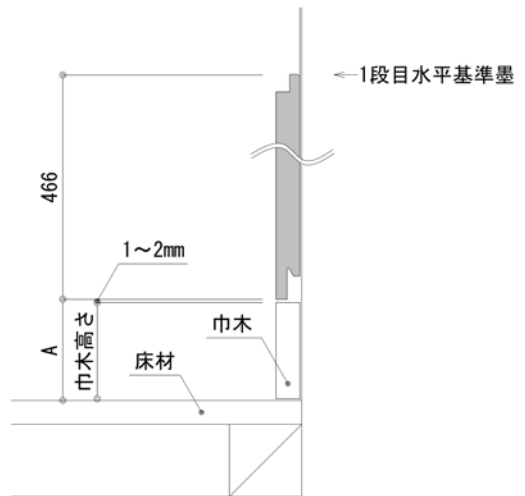
## 【6】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

### <1> 墨出し

- 本体の水平基準を出すため、本体1段目の水平基準墨をうちます。
- 施工面各面に1カ所以上、縦目地部の位置に垂直基準墨をうちます。
- 最下端部に巾木を使用する場合（純正品または市販品）または巾木を使用しない場合によって下図Aの値が異なります。
  - ・ 純正品巾木の場合：本体は巾木に突付けて施工することが可能です。
  - ・ 市販品巾木の場合：本体は巾木上端から1～2mm程度のすき間をあけて施工をしてください。（本体下端の欠け防止のため）
  - ・ 巾木なしの場合：本体は床から1～2mm程度のすき間をあけて施工をしてください。  
（本体下端の欠け防止のためおよび床の不陸の影響を受けないようにするため）



	A
純正品巾木	巾木高さ（60mmまたは15mm）
市販品巾木	巾木高さ+1～2mm程度
巾木なし	1～2mm程度



※図は市販品巾木を使用した場合

# 4. 接着工法

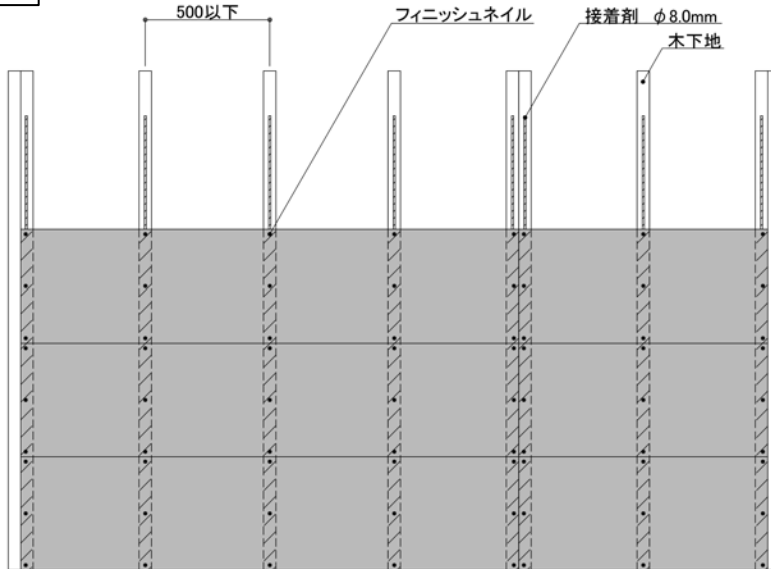
## 【6】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

### <2>張り方のポイント

- 本仕様は、施工高さが3.2m以下の場合にのみ使用可能です。施工高さが3.2m超6.2m以下の場合は、接着剤と固定材を併用した剥落防止処置が必要です。（44～52ページ参照）
- 本体は、接着剤（MPX-7）または推奨接着剤と、仮留め材（フィニッシュネイル、ビス）を併用して施工します。  
※接着剤、仮留め材：27～28ページ参照
- 接着剤（MPX-7）の塗布方法は、Φ8mmのビード状にて、塗布量180g/㎡以上を推奨しています。
- 仮留め材は下地（躯体）または面材（25ページ参照）に仮留め固定してください。（仮留めの間隔は28ページ参照）
- 留付けは端打ち寸法（26ページ参照）を確保してください。（接着剤塗布位置と仮留め位置をそろえる必要はありません。）
- LGS下地で専用ビスを使用する場合は、先孔（Φ4mm程度）をあけてから固定してください。

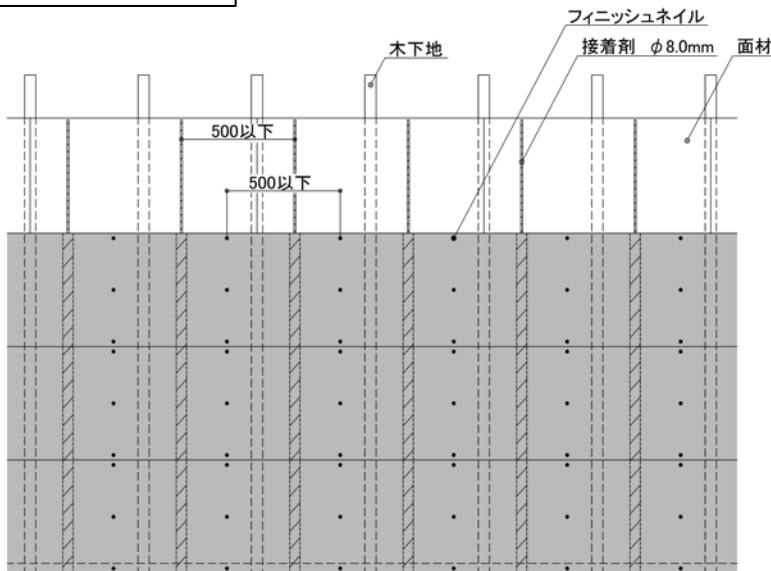
木下地 面材なしの場合

接着剤の必要本数の目安：0.5本以上/枚・10尺品



木下地 面材ありの場合

接着剤の必要本数の目安：0.5本以上/枚・10尺品



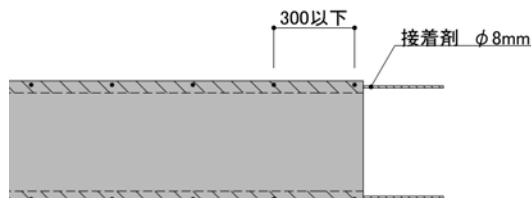
※左図は下記の施工方法の場合

- <接着剤>
  - ・両端：幅方向全長
  - ・中央：長さ方向@500mm以下で幅方向全長
- <仮留め材>
  - ・幅方向：3本（両端、中央）以上
  - ・長さ方向：@500mm以下

※面材ありの場合、下図の接着剤、仮留め材の施工方法でもそれぞれ施工可能です。接着剤の必要本数の目安：1本以上/枚・10尺品

- <接着剤>
  - ・両端：長さ方向全長
  - ・中央：なし

- <仮留め材>
  - ・幅方向：2本（両端）以上
  - ・長さ方向：@300mm以下



※上図の接着剤、仮留め材の施工方法とそれぞれ組合せても可

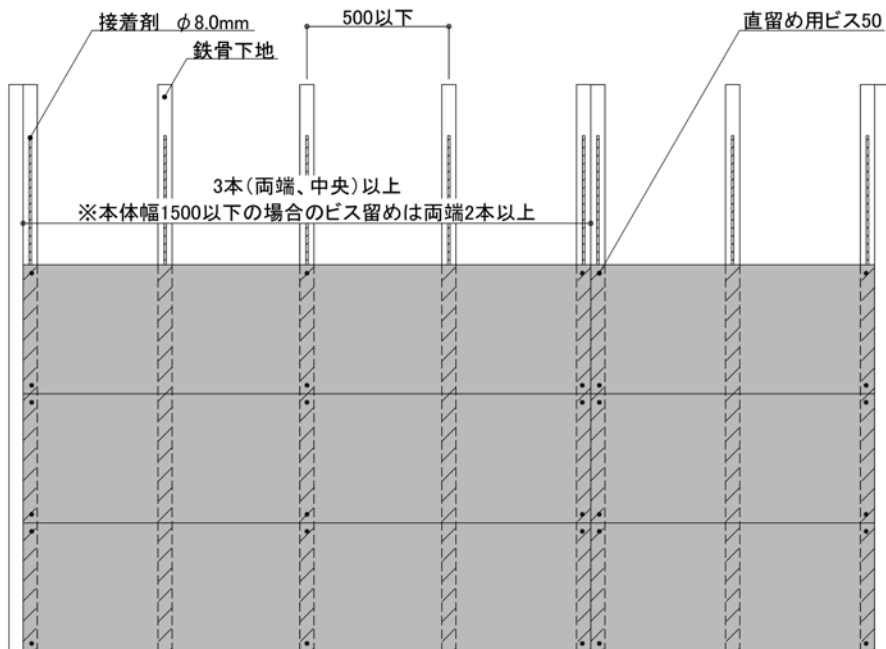
# 4. 接着工法

## 【6】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

### <2>張り方のポイント

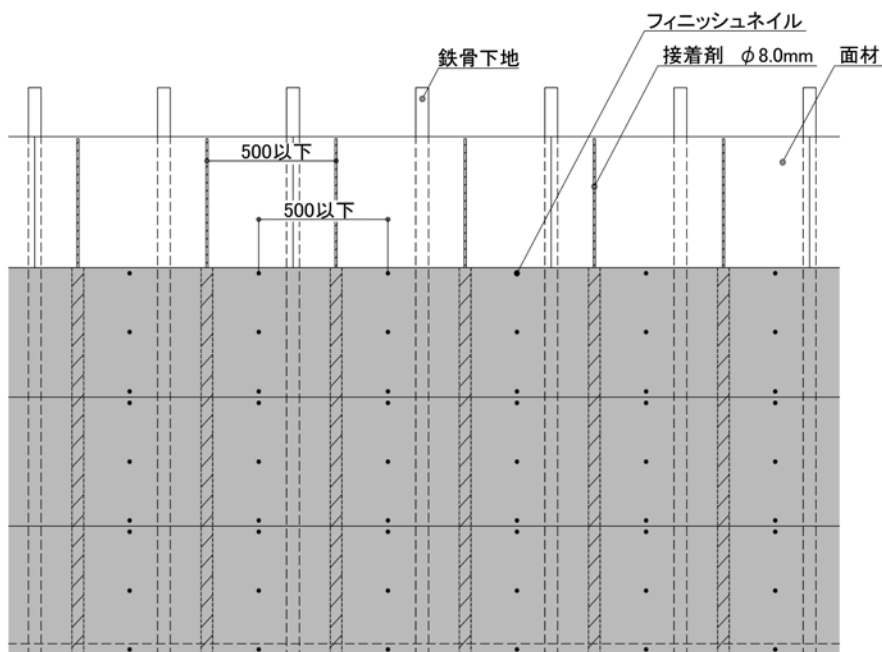
鉄骨下地 面材なしの場合

接着剤の必要本数の目安:0.5本以上/枚・10尺品



鉄骨下地 面材ありの場合

接着剤の必要本数の目安:0.5本以上/枚・10尺品



※左図は下記の施工方法の場合

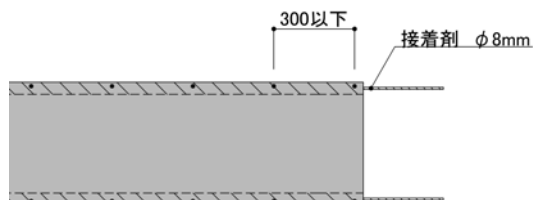
- <接着剤>
- ・両端:幅方向全長
  - ・中央:長さ方向@500mm以下で幅方向全長

- <仮留め材>
- ・幅方向:3本(両端、中央)以上
  - ・長手方向:@500mm以下

※面材ありの場合、下図の接着剤、仮留め材の施工方法でもそれぞれ施工可能です。接着剤の必要本数の目安:1本以上/枚・10尺品

- <接着剤>
- ・両端:長手方向全長
  - ・中央:なし

- <仮留め材>
- ・幅方向:2本(両端)以上
  - ・長手方向:@300mm以下



※上図の接着剤、仮留め材の施工方法とそれぞれ組合せても可

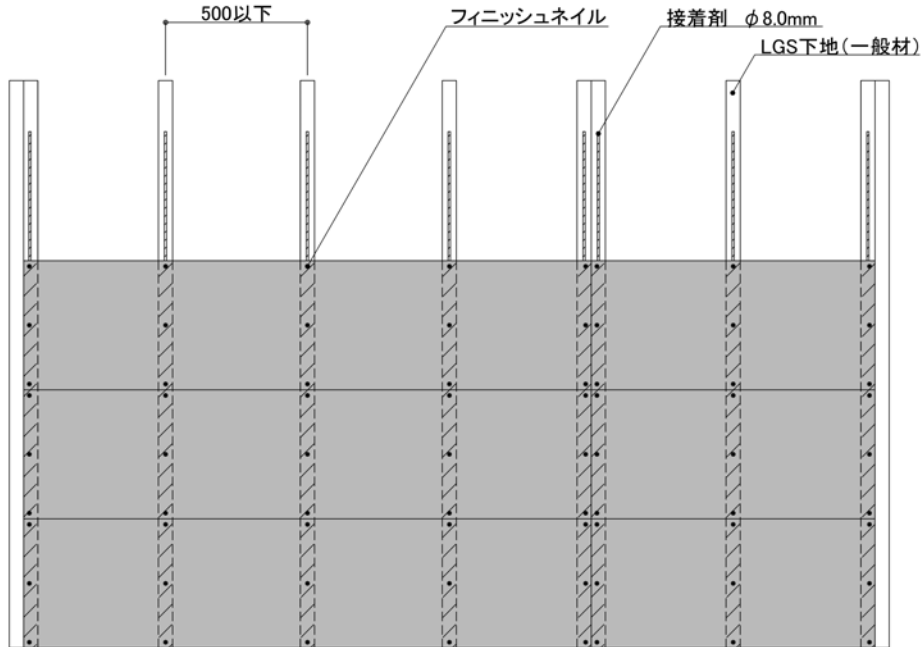
# 4. 接着工法

## 【6】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

### <2>張り方のポイント

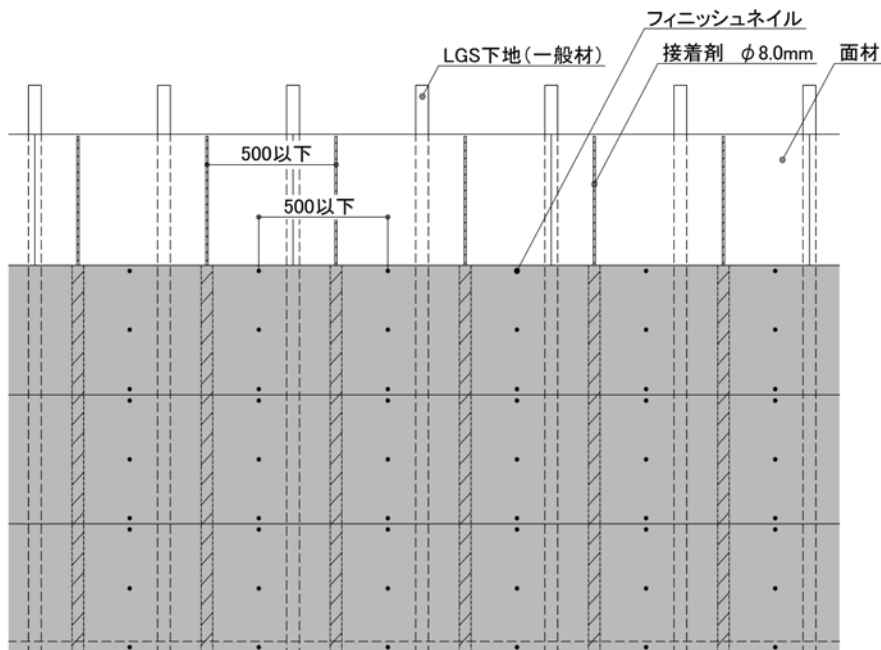
LGS下地（一般材） 面材なしの場合

接着剤の必要本数の目安：0.5本以上/枚・10尺品



LGS下地（一般材） 面材ありの場合

接着剤の必要本数の目安：0.5本以上/枚・10尺品



※左図は下記の施工方法の場合

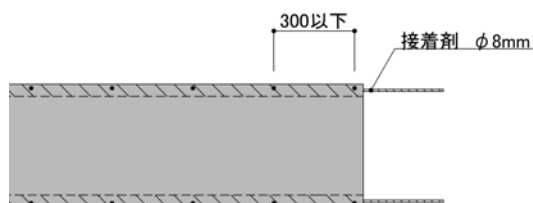
- <接着剤>
- ・両端：幅方向全長
  - ・中央：長さ方向@500mm以下で幅方向全長

- <仮留め材>
- ・幅方向：3本（両端、中央）以上
  - ・長手方向：@500mm以下

※面材ありの場合、下図の接着剤、仮留め材の施工方法でもそれぞれ施工可能です。接着剤の必要本数の目安：1本以上/枚・10尺品

- <接着剤>
- ・両端：長手方向全長
  - ・中央：なし

- <仮留め材>
- ・幅方向：2本（両端）以上
  - ・長手方向：@300mm以下



※上図の接着剤、仮留め材の施工方法とそれぞれ組合せても可



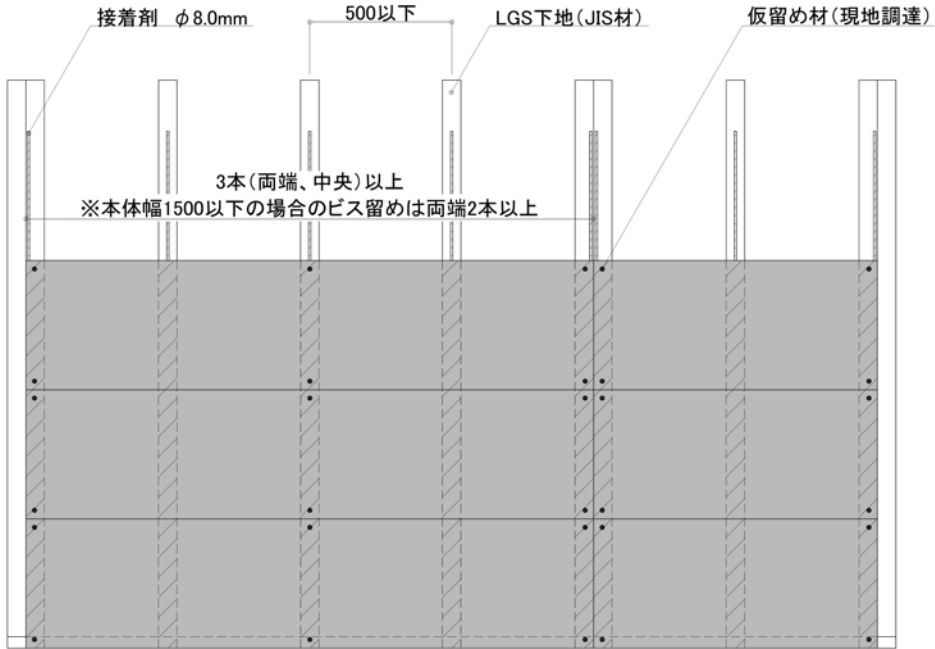
# 4. 接着工法

## 【6】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

### <2>張り方のポイント

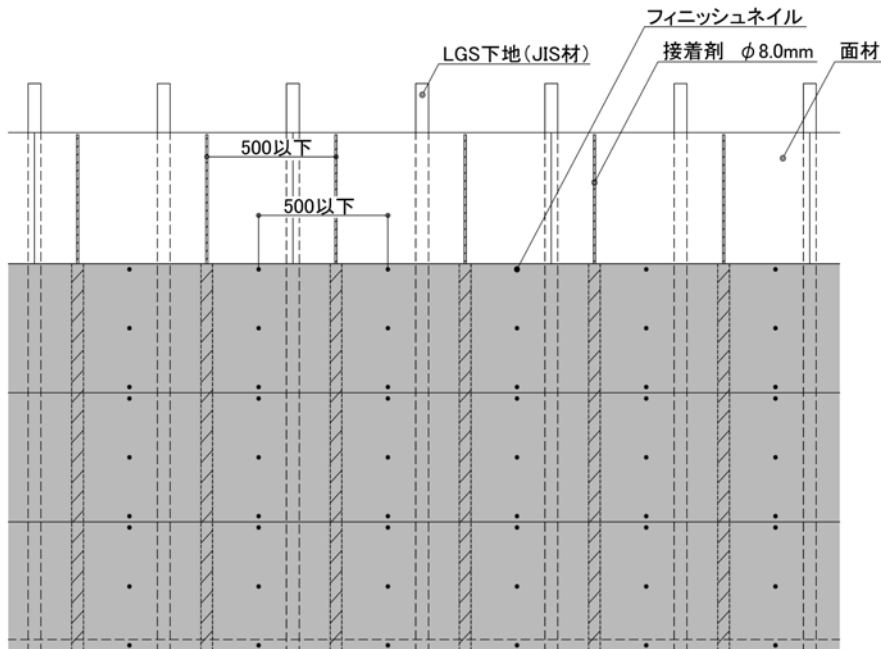
LGS下地 (JIS材) 面材なしの場合

接着剤の必要本数の目安: 0.5本以上/枚・10尺品



LGS下地 (JIS材) 面材ありの場合

接着剤の必要本数の目安: 0.5本以上/枚・10尺品



※左図は下記の施工方法の場合

<接着剤>

- ・両端: 幅方向全長
- ・中央: 長さ方向@500mm以下で幅方向全長

<仮留め材>

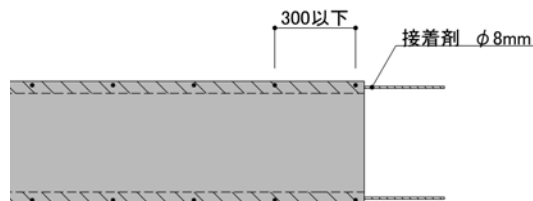
- ・幅方向: 3本 (両端、中央) 以上
- ・長さ方向: @500mm以下

※面材ありの場合、下図の接着剤、仮留め材の施工方法でもそれぞれ施工可能です。接着剤の必要本数の目安: 1本以上/枚・10尺品

- <接着剤>
- ・両端: 長さ方向全長
  - ・中央: なし

<仮留め材>

- ・幅方向: 2本 (両端) 以上
- ・長さ方向: @300mm以下



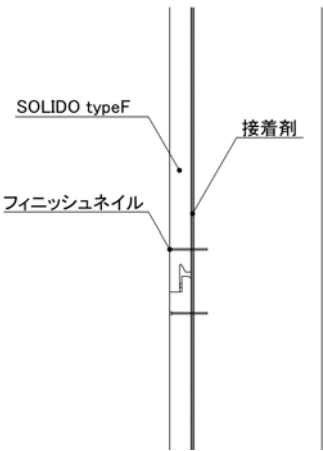
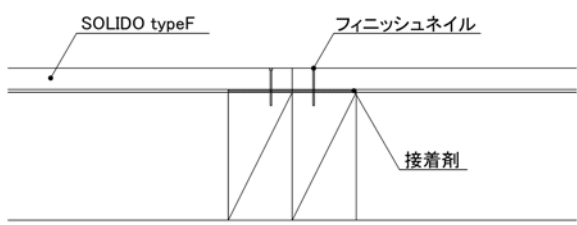
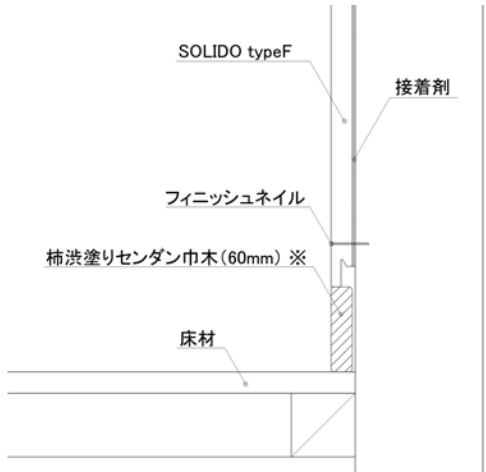
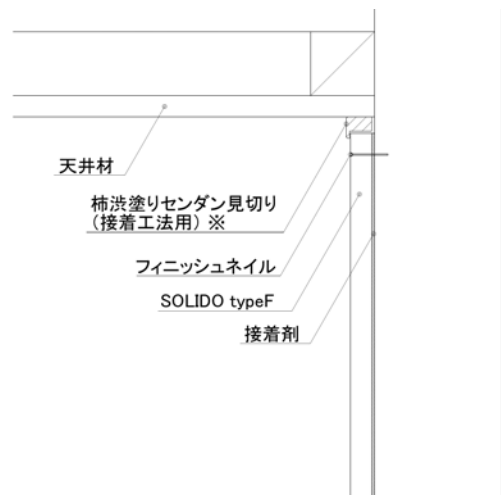
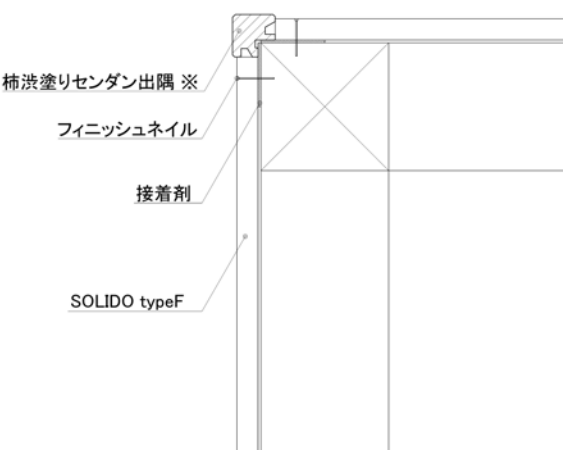
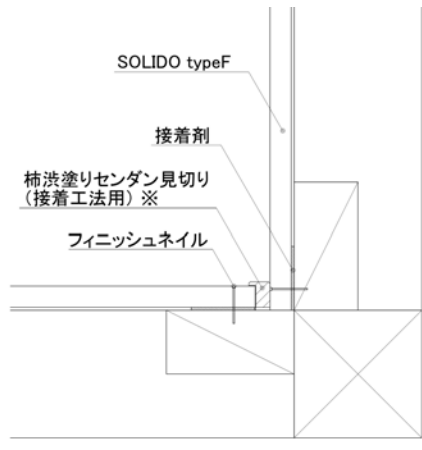
※上図の接着剤、仮留め材の施工方法とそれぞれ組合せても可

# 4. 接着工法

## 【6】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

＜3＞木下地：面材なし 参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと  
接着剤(MPX-7)を併用して留付け

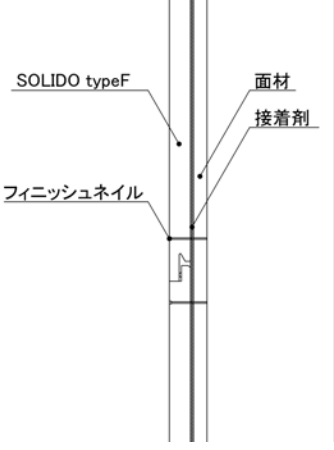
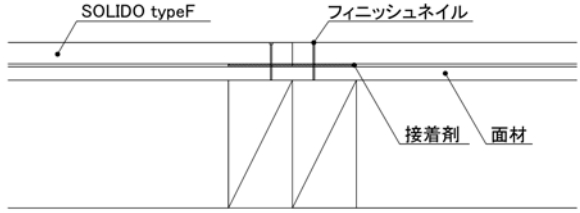
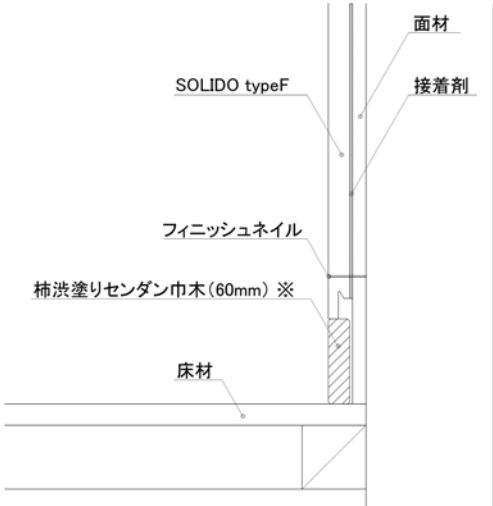
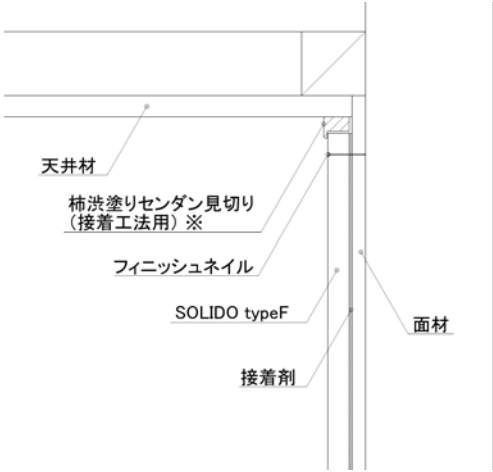
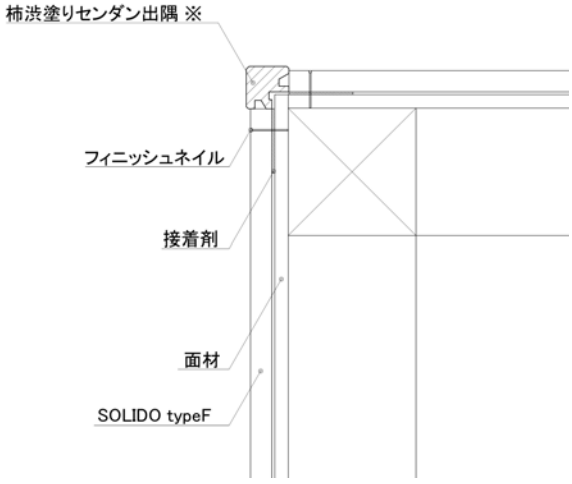
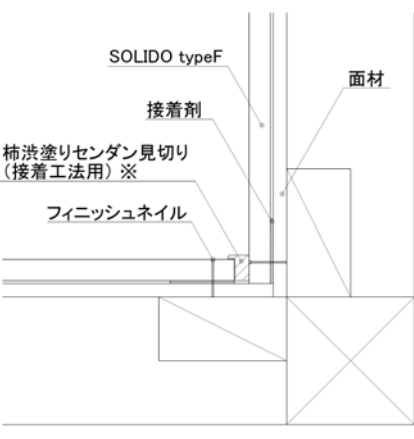
一般部（縦断面）	縦目地部
 <p>SOLIDO typeF 接着剤 フィニッシュネイル</p>	 <p>SOLIDO typeF フィニッシュネイル 接着剤</p>
床取合い部	天井取合い部
 <p>SOLIDO typeF 接着剤 フィニッシュネイル 柿渋塗りセンダン巾木(60mm) ※ 床材</p>	 <p>天井材 柿渋塗りセンダン見切り(接着工法用) ※ フィニッシュネイル SOLIDO typeF 接着剤</p>
出隅部	入隅部
 <p>柿渋塗りセンダン出隅 ※ フィニッシュネイル 接着剤 SOLIDO typeF</p>	 <p>SOLIDO typeF 接着剤 柿渋塗りセンダン見切り(接着工法用) ※ フィニッシュネイル</p>

# 4. 接着工法

## 【6】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

＜4＞木下地：面材あり 参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと接着剤(MPX-7)を併用して留付け

一般部（縦断面）	縦目地部
	
床取合い部	天井取合い部
	
出隅部	入隅部
	

# 4. 接着工法

## 【6】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

### <5>鉄骨下地：面材なし 参考納まり図

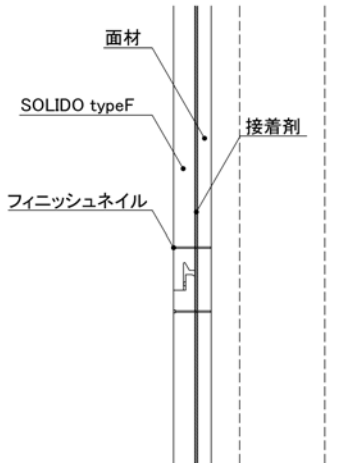
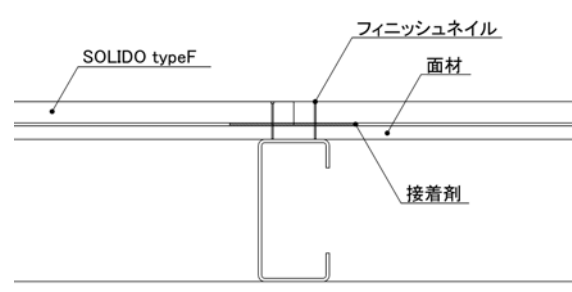
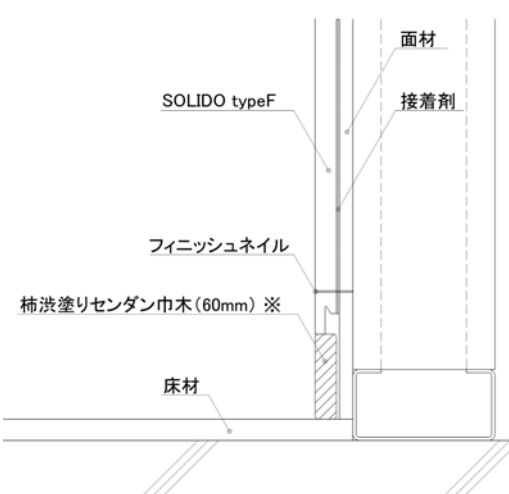
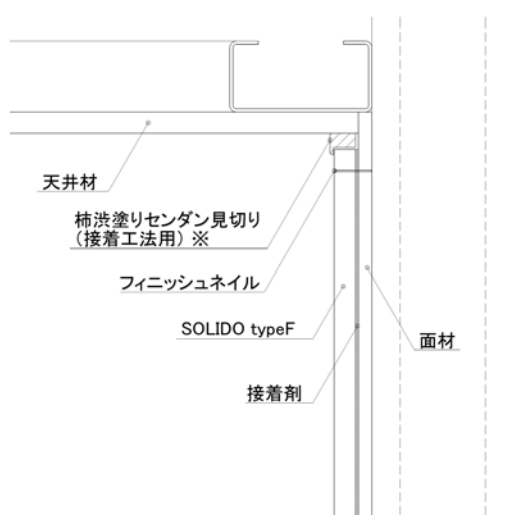
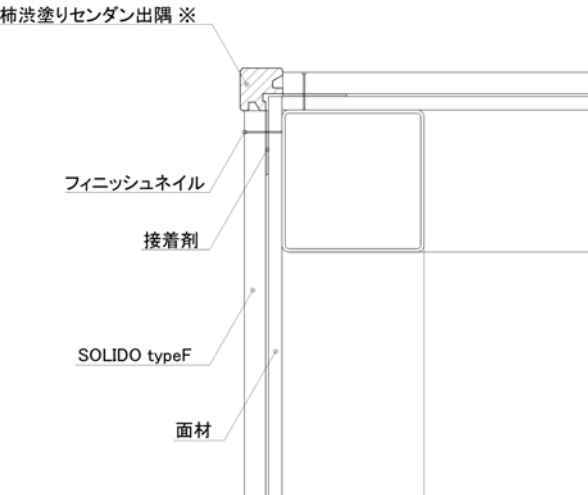
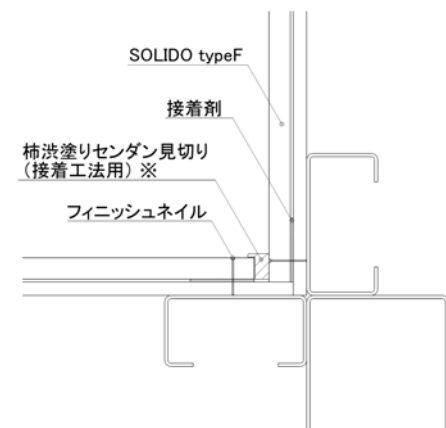
一般部（縦断面）	縦目地部
床取合い部	天井取合い部
出隅部	入隅部

# 4. 接着工法

## 【6】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

### <6>鉄骨下地：面材あり 参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと接着剤(MPX-7)を併用して留付け

一般部（縦断面）	縦目地部
	
床取合い部	天井取合い部
	
出隅部	入隅部
	

# 4. 接着工法

## 【6】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

<7>LGS下地（一般材）：面材なし 参考納まり図

一般部（縦断面）	縦目地部
<p>SOLIDO typeF 接着剤 フィニッシュネイル</p>	<p>SOLIDO typeF フィニッシュネイル 接着剤</p>
床取合い部	天井取合い部
<p>SOLIDO typeF 接着剤 フィニッシュネイル 巾木 床材</p>	<p>天井材 フィニッシュネイル SOLIDO typeF 接着剤</p>
出隅部	入隅部
<p>フィニッシュネイル 接着剤 SOLIDO typeF</p>	<p>SOLIDO typeF 接着剤 フィニッシュネイル</p>

# 4. 接着工法

## 【6】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

< 8 > LGS下地（一般材）：面材あり 参考納まり図

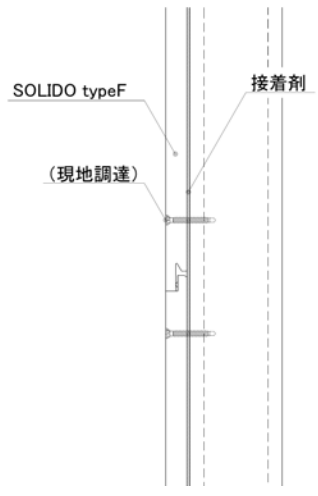
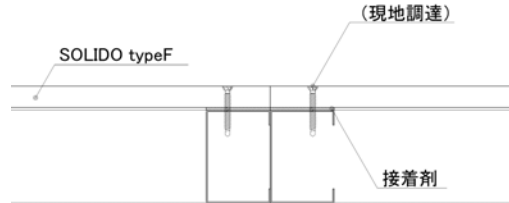
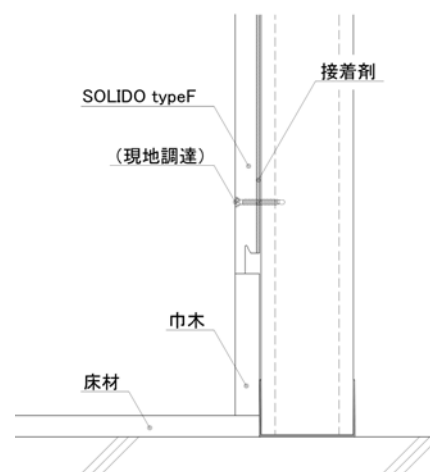
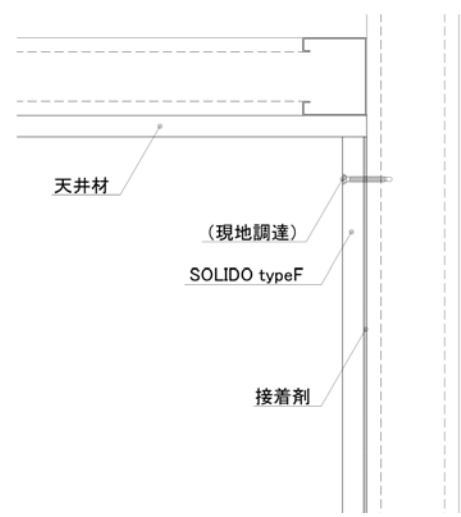
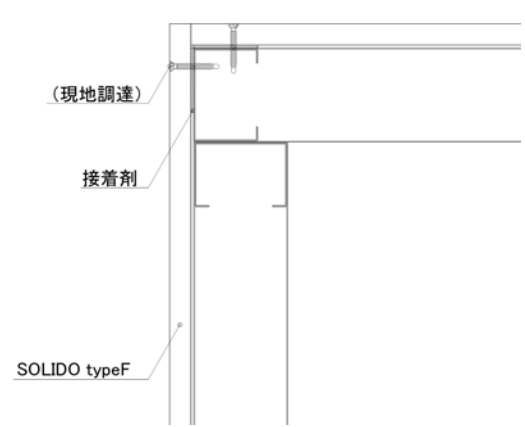
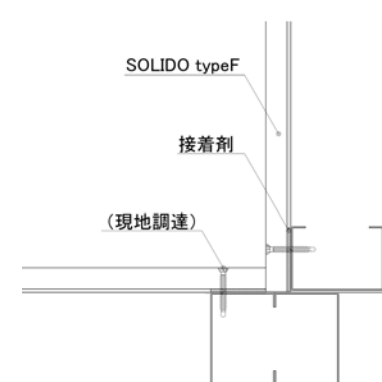
※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと接着剤(MPX-7)を併用して留付け

一般部（縦断面）	縦目地部
<p>SOLIDO typeF フィニッシュネイル 面材 接着剤</p>	<p>SOLIDO typeF フィニッシュネイル 接着剤 面材</p>
床取合い部	天井取合い部
<p>SOLIDO typeF 面材 接着剤 フィニッシュネイル 柿洪塗りセンダン巾木(60mm) ※ 床材</p>	<p>天井材 柿洪塗りセンダン見切り(接着工法用) ※ フィニッシュネイル SOLIDO typeF 接着剤 面材</p>
出隅部	入隅部
<p>柿洪塗りセンダン出隅 ※ フィニッシュネイル 接着剤 面材 SOLIDO typeF</p>	<p>SOLIDO typeF 接着剤 柿洪塗りセンダン見切り(接着工法用) ※ フィニッシュネイル</p>

# 4. 接着工法

## 【6】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

<9>LGS下地（JIS材）：面材なし 参考納まり図一

一般部（縦断面）	縦目地部
	
床取合い部	天井取合い部
	
出隅部	入隅部
	



# 4. 接着工法

## 【6】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

<10>LGS下地（JIS材）：面材あり 参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと接着剤(MPX-7)を併用して留付け

一般部（縦断面）	縦目地部
床取合い部	天井取合い部
出隅部	入隅部

## 4. 接着工法

### 【7】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

※施工高さ3.2mを超える部分では、固定材（釘・ビス）による剥落防止処置が必要です。  
仮留め材（フィニッシュネイル等）による留付けや面材への固定は不可ですので、ご注意ください。

#### <1> 墨出し

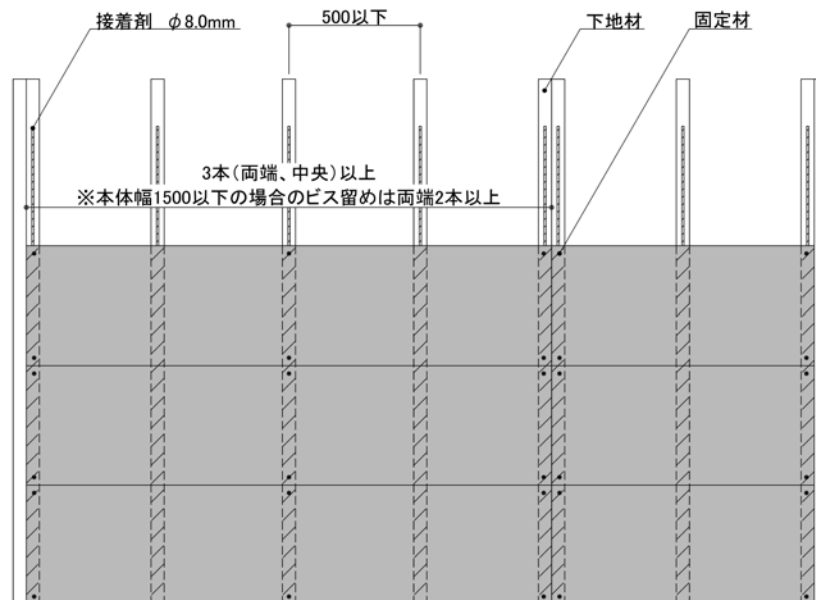
● 「【6】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）」と同様です。（31ページ参照）

#### <2> 張り方のポイント

- 本体は、接着剤（MPX-7）または推奨接着剤と、固定材（釘、ビス）を併用して施工します。  
※接着剤、固定材：27、29ページ参照
- 接着剤（MPX-7）の塗布方法は、 $\phi 8\text{mm}$ のビード状にて、塗布量 $180\text{g}/\text{m}^2$ 以上を推奨しています。
- 固定材は下地（躯体）に固定してください。
- 留付けは端打ち寸法（26ページ参照）を確保してください。（接着剤塗布位置と仮留め位置をそろえる必要はありません。）
- 先孔（釘： $\phi 2\text{mm}$ 程度、ビス： $\phi 4\text{mm}$ 程度）をあけてから固定してください。（鉄骨下地でリーマ付ビス（直留め用ビス50等）を使用する場合は先孔不要）
- 本体の割付けや固定材の留付け位置に合わせて下地を設ける必要があります。本体を施工する前に、下地位置の確認をしてください。

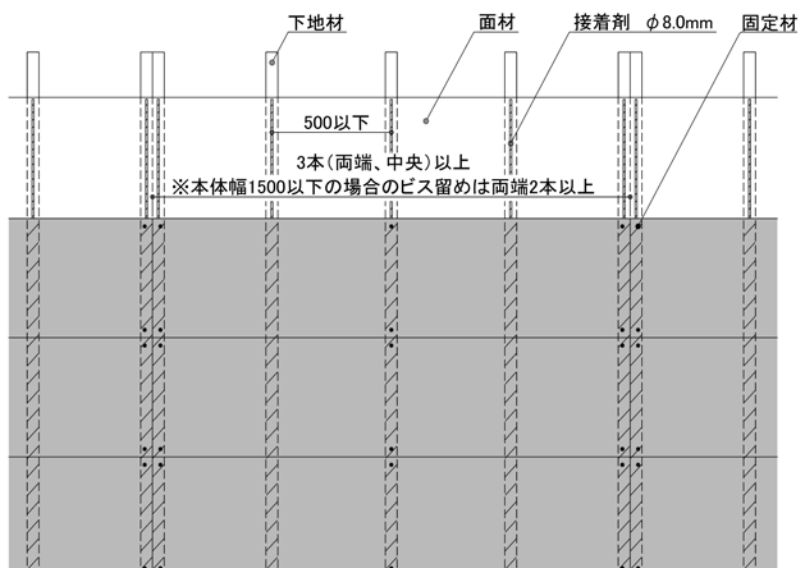
木・鉄骨・LGS下地（一般材、JIS材） 面材なしの場合

接着剤の必要本数の目安：0.5本以上/枚・10尺品

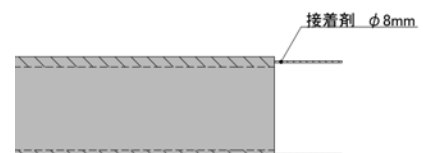


木・鉄骨・LGS下地（一般材、JIS材） 面材ありの場合

接着剤の必要本数の目安：0.5本以上/枚・10尺品



※下図の接着剤の塗布方法でも施工可能です。  
接着剤の必要本数の目安：1本以上/枚・10尺品

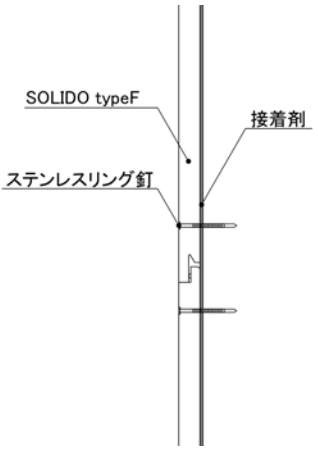
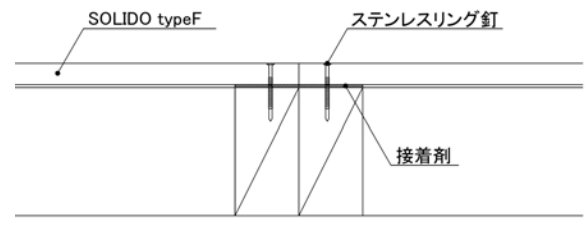
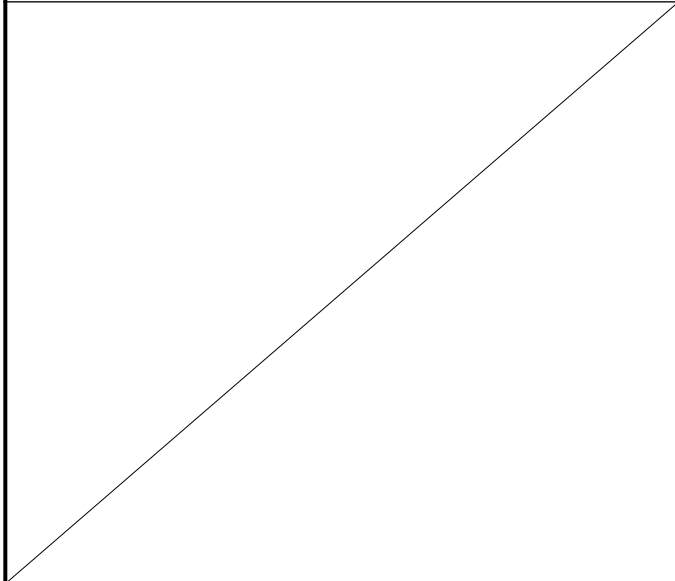
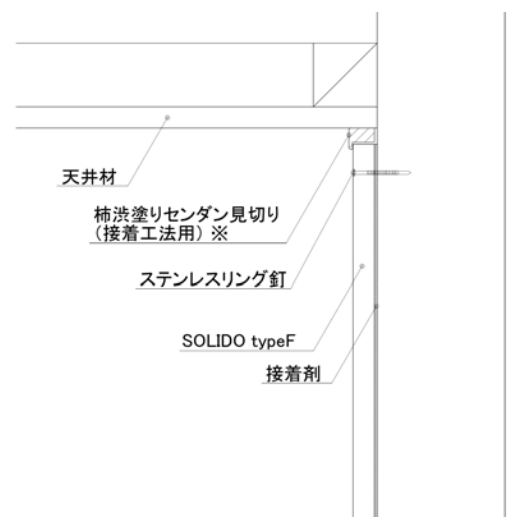
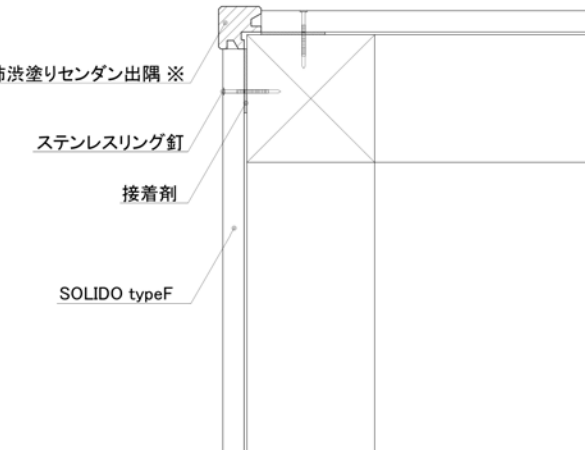
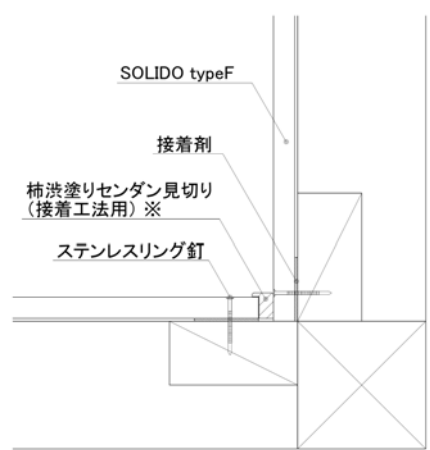


# 4. 接着工法

## 【7】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

<3>木下地：面材なし 参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと接着剤(MPX-7)を併用して留付け

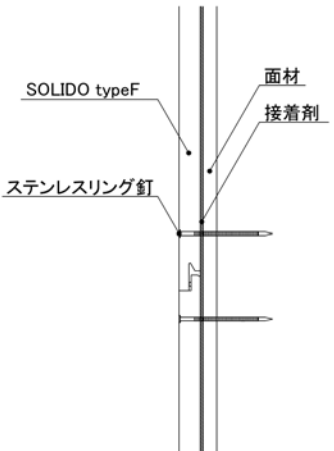
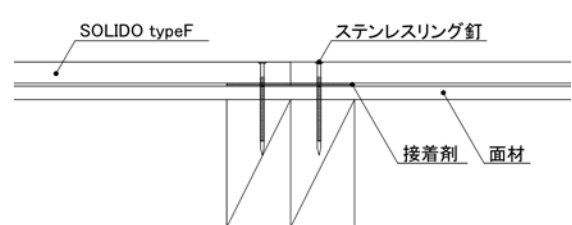
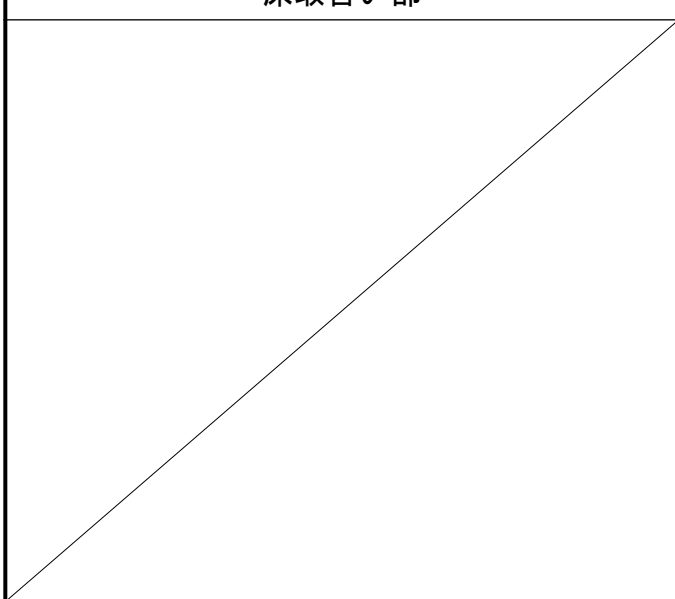
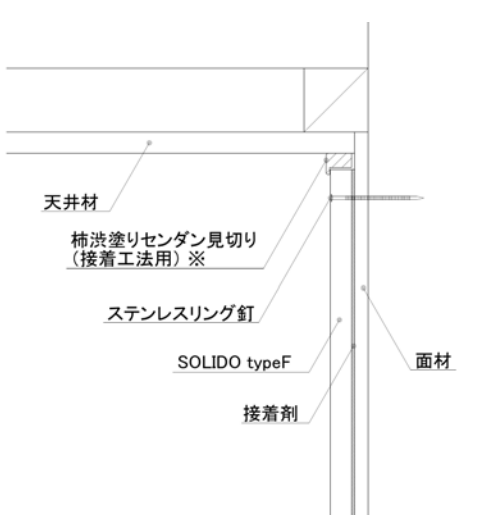
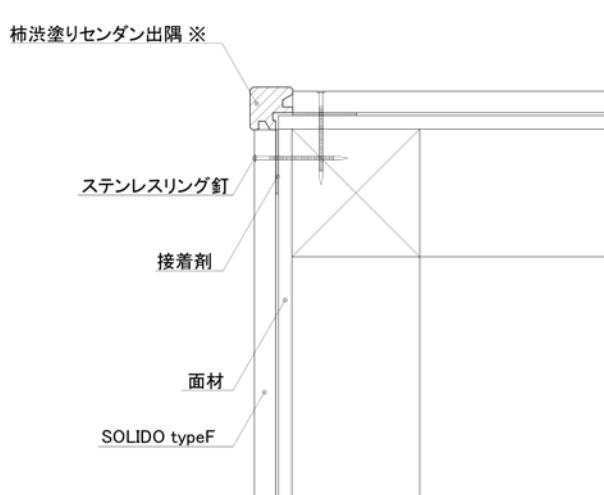
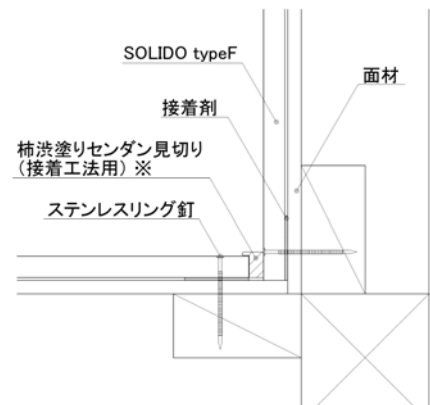
一般部（縦断面）	縦目地部
 <p>SOLIDO typeF ステンレスリング釘 接着剤</p>	 <p>SOLIDO typeF ステンレスリング釘 接着剤</p>
床取合い部	天井取合い部
	 <p>天井材 柿渋塗りセンダン見切り （接着工法用）※ ステンレスリング釘 SOLIDO typeF 接着剤</p>
出隅部	入隅部
 <p>柿渋塗りセンダン出隅 ※ ステンレスリング釘 接着剤 SOLIDO typeF</p>	 <p>SOLIDO typeF 接着剤 柿渋塗りセンダン見切り （接着工法用）※ ステンレスリング釘</p>

# 4. 接着工法

## 【7】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

＜4＞木下地：面材あり 参考納まり図

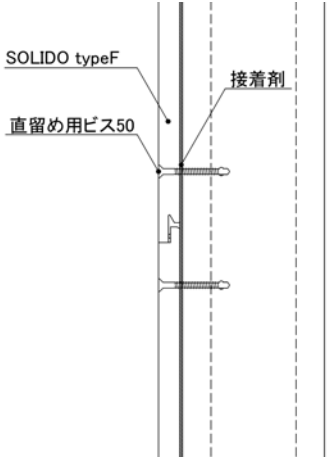
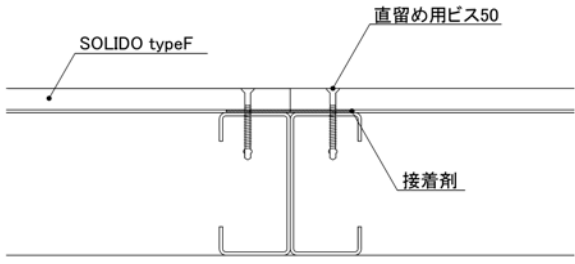
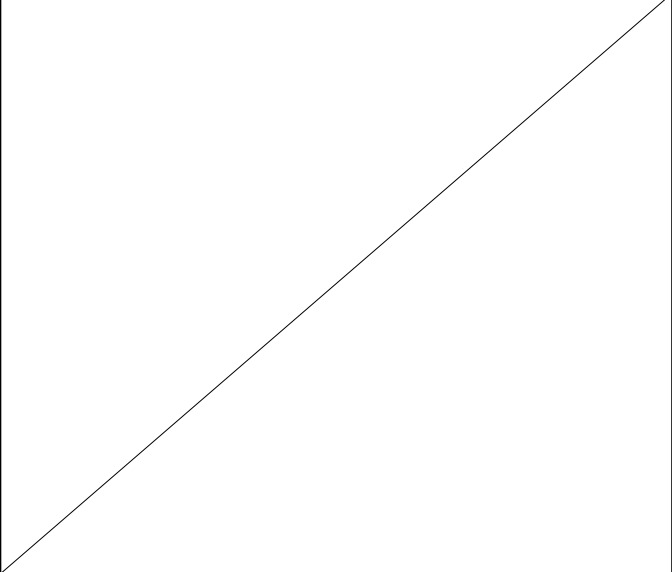
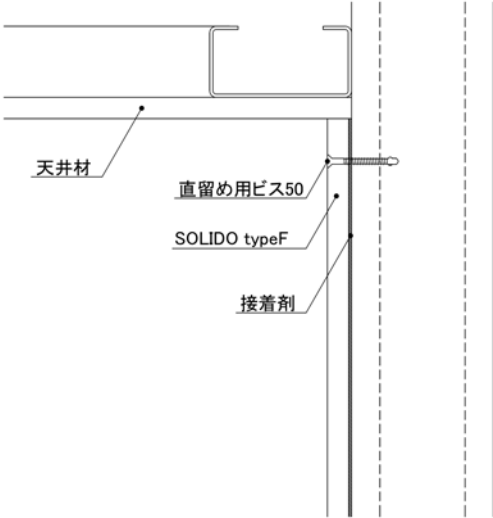
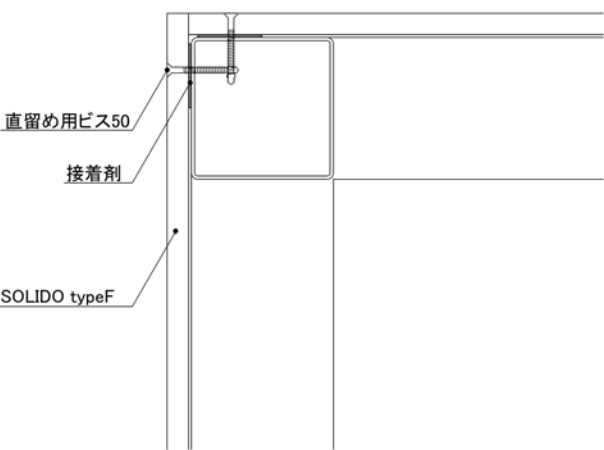
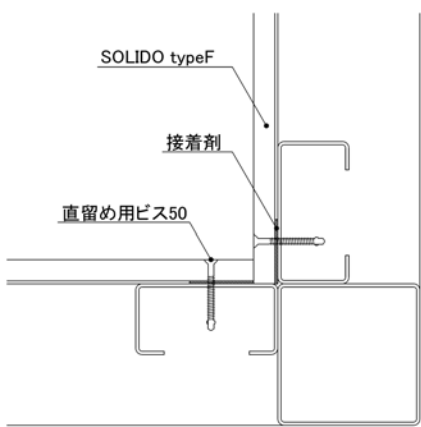
※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと  
接着剤(MPX-7)を併用して留付け

一般部（縦断面）	縦目地部
	
	
	

# 4. 接着工法

## 【7】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

<5>鉄骨下地：面材なし 参考納まり図

一般部（縦断面）	縦目地部
 <p>SOLIDO typeF 直留め用ビス50 接着剤</p>	 <p>SOLIDO typeF 直留め用ビス50 接着剤</p>
床取合い部	天井取合い部
	 <p>天井材 直留め用ビス50 SOLIDO typeF 接着剤</p>
出隅部	入隅部
 <p>直留め用ビス50 接着剤 SOLIDO typeF</p>	 <p>SOLIDO typeF 接着剤 直留め用ビス50</p>

# 4. 接着工法

## 【7】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

### <6>鉄骨下地：面材あり 参考納まり図

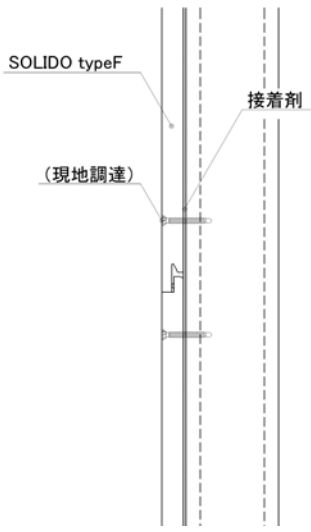
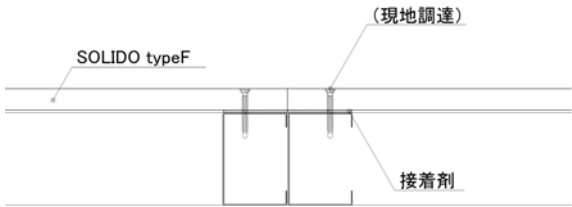
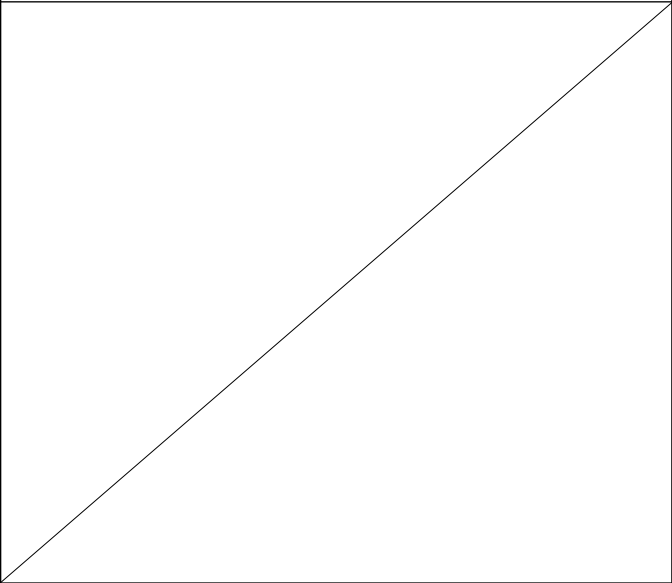
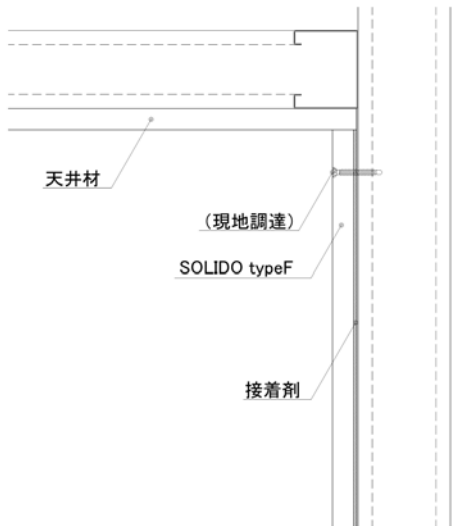
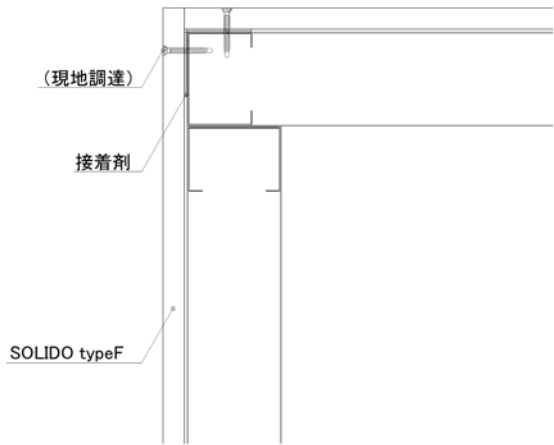
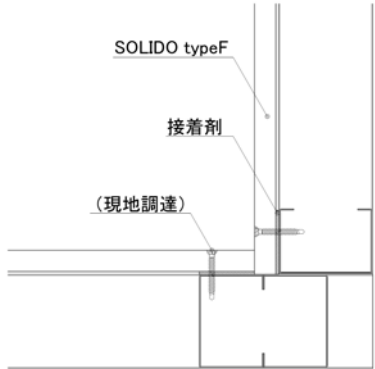
※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと接着剤(MPX-7)を併用して留付け

一般部（縦断面）	縦目地部
床取合い部	

# 4. 接着工法

## 【7】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

<7>LGS下地（一般材）：面材なし 参考納まり図

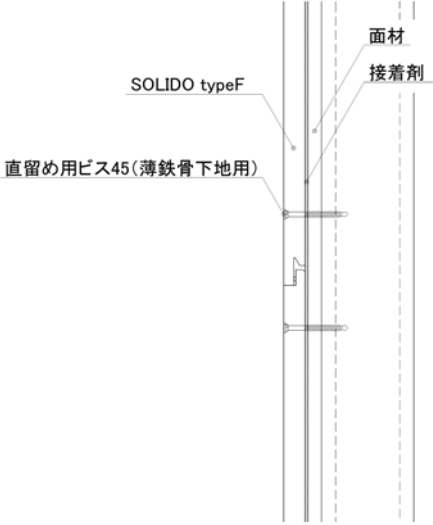
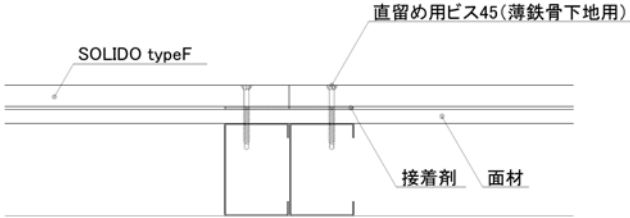
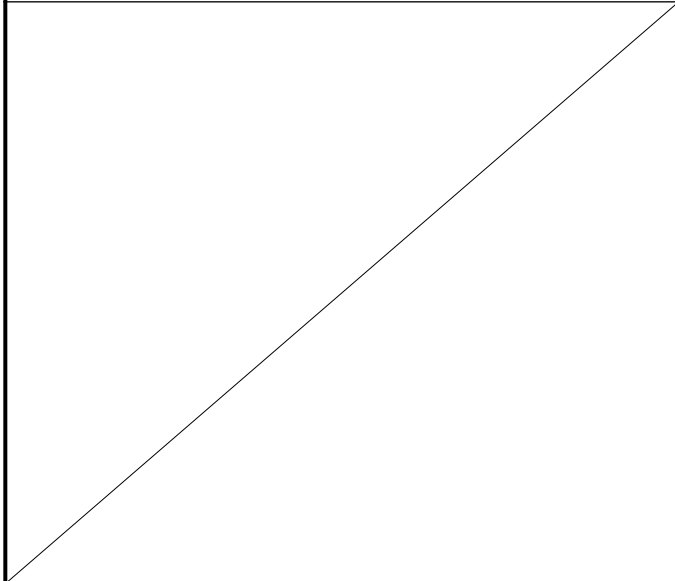
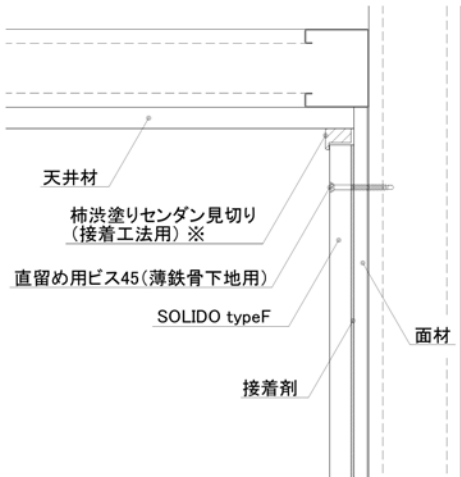
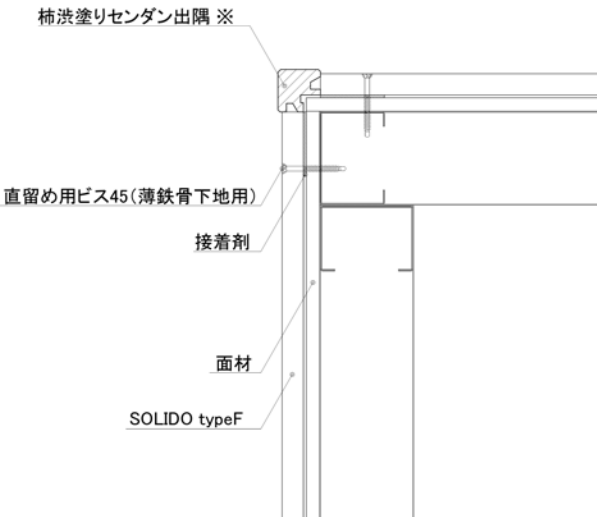
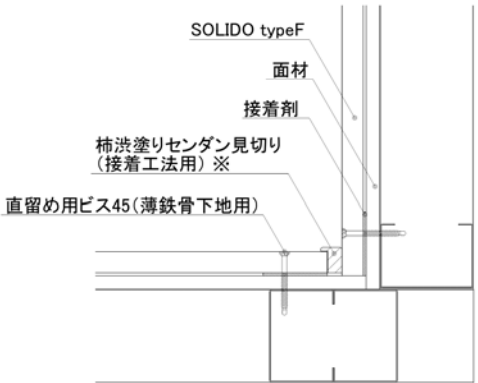
一般部（縦断面）	縦目地部
 <p>SOLIDO typeF 接着剤 (現地調達)</p>	 <p>SOLIDO typeF 接着剤 (現地調達)</p>
床取合い部	天井取合い部
	 <p>天井材 接着剤 SOLIDO typeF (現地調達)</p>
出隅部	入隅部
 <p>接着剤 SOLIDO typeF (現地調達)</p>	 <p>SOLIDO typeF 接着剤 (現地調達)</p>

# 4. 接着工法

## 【7】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

< 8 > LGS下地（一般材）：面材あり 参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと接着剤(MPX-7)を併用して留付け

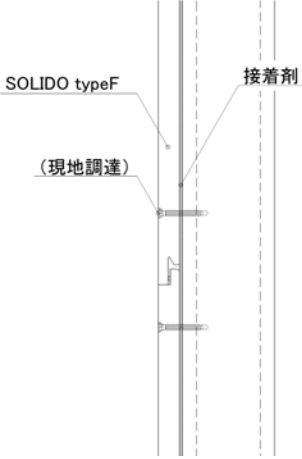
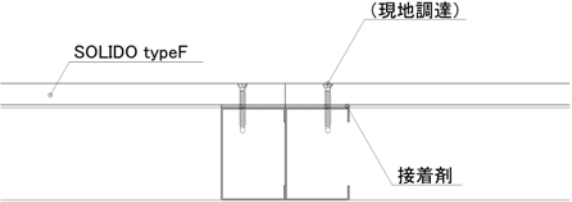
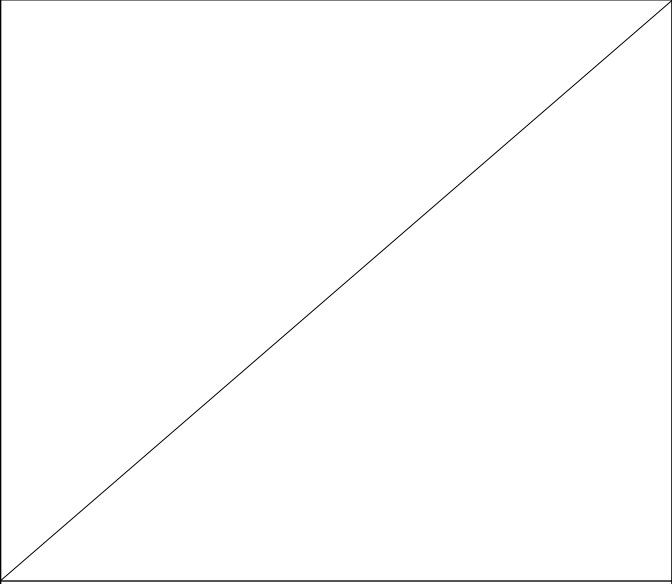
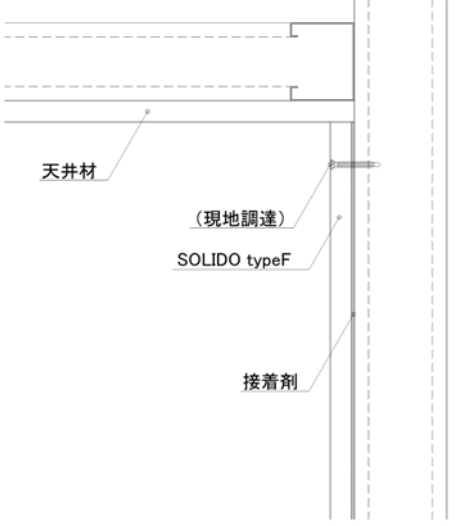
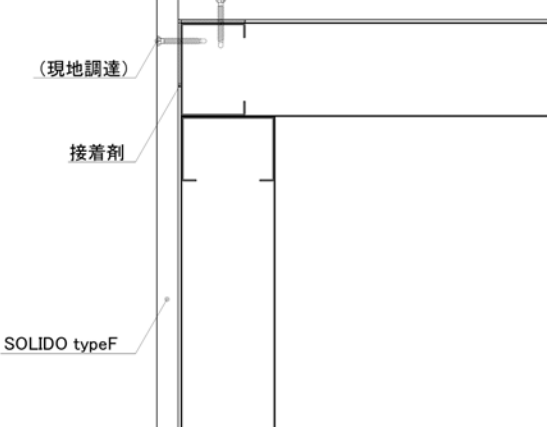
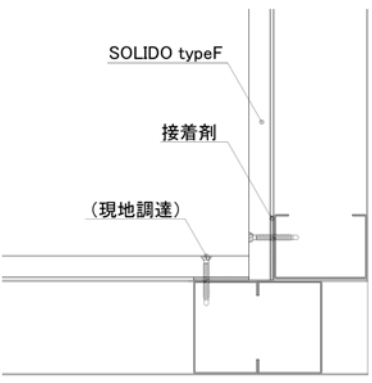
一般部（縦断面）	縦目地部
 <p>SOLIDO typeF 直留め用ビス45(薄鉄骨下地用) 面材 接着剤</p>	 <p>SOLIDO typeF 直留め用ビス45(薄鉄骨下地用) 接着剤 面材</p>
<p>床取合い部</p> 	<p>天井取合い部</p>  <p>天井材 柿渋塗りセンダン見切り(接着工法用)※ 直留め用ビス45(薄鉄骨下地用) SOLIDO typeF 接着剤 面材</p>
<p>出隅部</p>  <p>柿渋塗りセンダン出隅※ 直留め用ビス45(薄鉄骨下地用) 接着剤 面材 SOLIDO typeF</p>	<p>入隅部</p>  <p>SOLIDO typeF 面材 接着剤 柿渋塗りセンダン見切り(接着工法用)※ 直留め用ビス45(薄鉄骨下地用)</p>



# 4. 接着工法

## 【7】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

<9>LGS下地（JIS材）：面材なし 参考納まり図

一般部（縦断面）	縦目地部
	
床取合い部	天井取合い部
	
出隅部	入隅部
	

# 4. 接着工法

## 【7】横張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

<10>LGS下地（JIS材）：面材あり 参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと接着剤(MPX-7)を併用して留付け

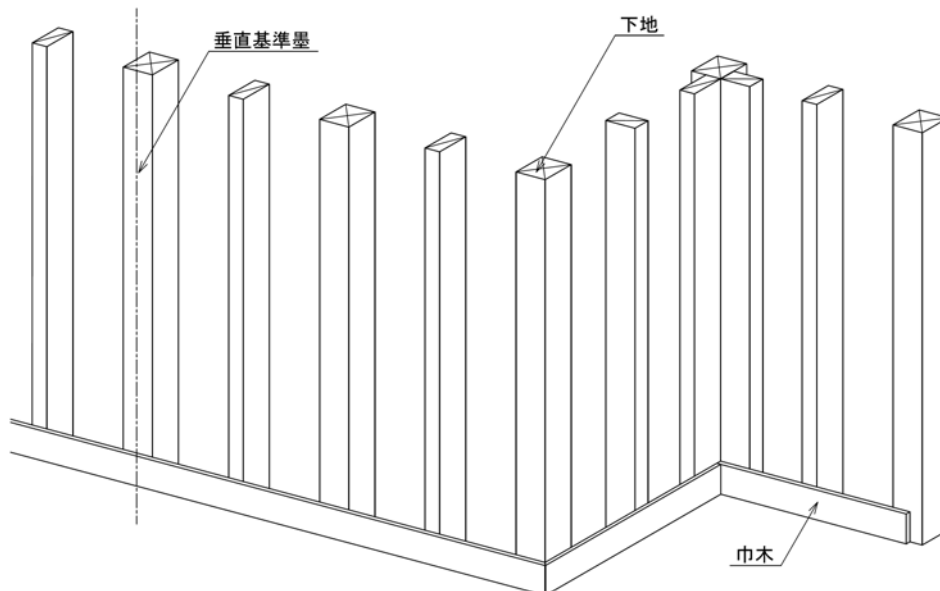
一般部（縦断面）	縦目地部		
	天井取合い部		
<th data-bbox="113 1536 791 1599">出隅部</th> <td data-bbox="791 1536 1476 2168"> <th data-bbox="791 1536 1476 1599">入隅部</th> </td>	出隅部	<th data-bbox="791 1536 1476 1599">入隅部</th>	入隅部

## 4. 接着工法

### 【8】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

#### <1>墨出し

- 施工面各面に1カ所、垂直基準墨をうちます。



# 4. 接着工法

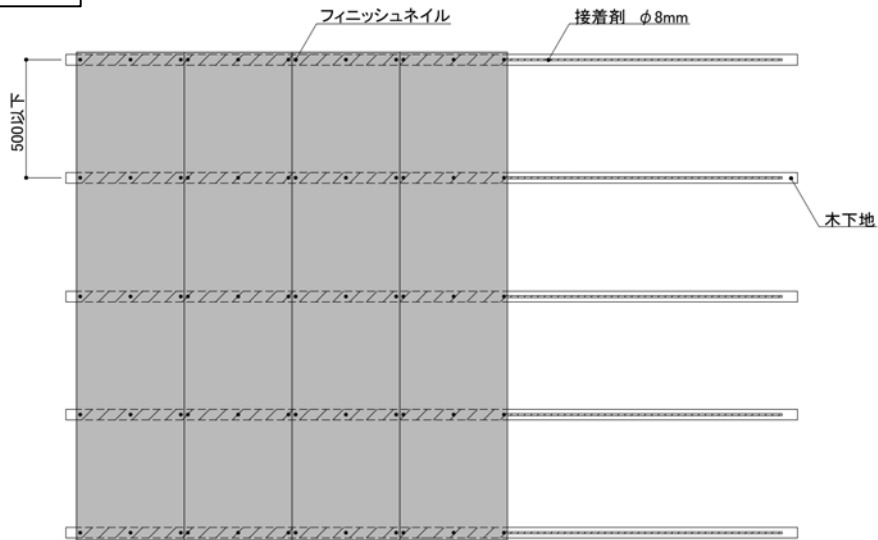
## 【8】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

### <2>張り方のポイント

- 本仕様は、施工高さが3.2m以下の場合にのみ使用可能です。施工高さが3.2m超6.2m以下の場合は、接着剤と固定材を併用した剥落防止処置が必要です。（66～75ページ参照）
- 本体は、接着剤（MPX-7）または推奨接着剤と、仮留め材（フィニッシュネイル、ビス）を併用して施工します。  
※接着剤、仮留め材：27～28ページ参照
- 接着剤（MPX-7）の塗布方法は、Φ8mmのビード状にて、塗布量180g/㎡以上を推奨しています。
- 仮留め材は下地（躯体）または面材（25ページ参照）に仮留め固定してください。（仮留めの間隔は28ページ参照）
- 留付けは端打ち寸法（26ページ参照）を確保してください。（接着剤塗布位置と仮留め位置をそろえる必要はありません。）
- LGS下地で専用ビスを使用する場合は、先孔（φ4mm程度）をあけてから固定してください。
- LGS下地（一般材、JIS材）で面材なしの場合、本体の割付けに合わせてLGS下地を設ける必要があります。本体を施工する前に、下地位置の確認をしてください。

木下地 面材なしの場合

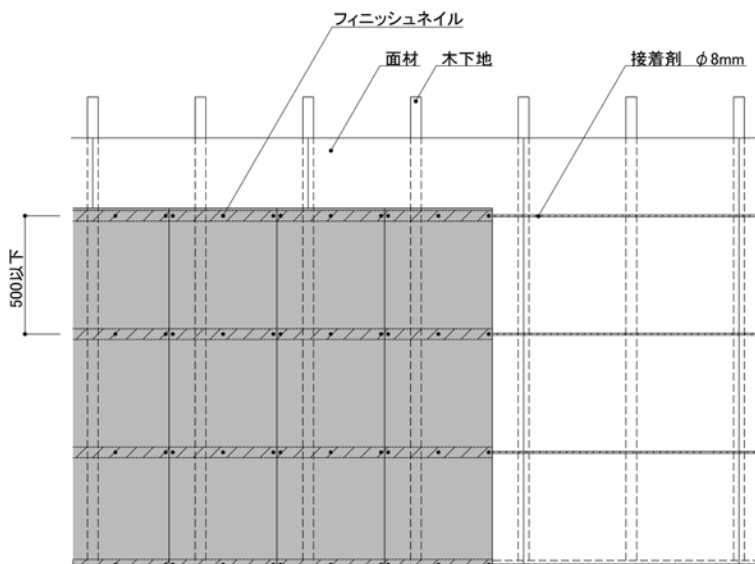
接着剤の必要本数の目安: 0.5本以上/枚・10尺品



木下地 面材ありの場合

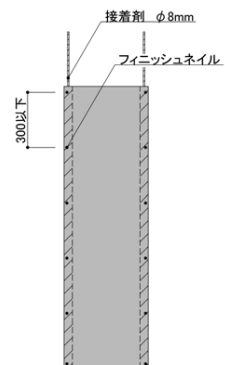
接着剤の必要本数の目安: 0.5本以上/枚・10尺品

- ※下図は下記の施工方法の場合
- <接着剤>
- ・両端: 幅方向全長
  - ・中央: 長さ方向@500mm以下で幅方向全長
- <仮留め材>
- ・幅方向: 3本(両端、中央)以上
  - ・長手方向: @500mm以下



※下図の接着剤、仮留め材の施工方法でもそれぞれ施工可能です。  
接着剤の必要本数の目安: 1本以上/枚・10尺品

- <接着剤>
- ・両端: 長手方向全長
  - ・中央: なし
- <仮留め材>
- ・幅方向: 2本(両端)以上
  - ・長手方向: @300mm以下



※左図の接着剤、仮留め材の施工方法とそれぞれ組合せても可

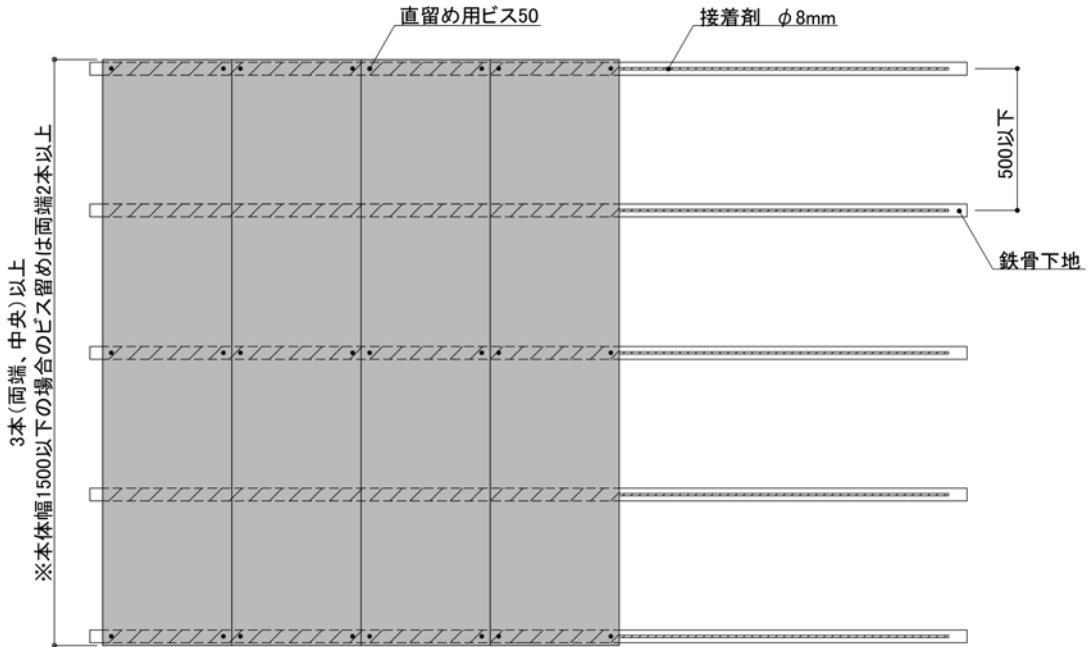
# 4. 接着工法

## 【8】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

### <2>張り方のポイント

鉄骨下地 面材なしの場合

接着剤の必要本数の目安: 0.5本以上/枚・10尺品



鉄骨下地 面材ありの場合

接着剤の必要本数の目安: 0.5本以上/枚・10尺品

※下図は下記の施工方法の場合

<接着剤>

- ・両端: 幅方向全長
- ・中央: 長さ方向@500mm以下で幅方向全長

<仮留め材>

- ・幅方向: 3本(両端、中央)以上
- ・長さ方向: @500mm以下

※下図の接着剤、仮留め材の施工方法でもそれぞれ施工可能です。

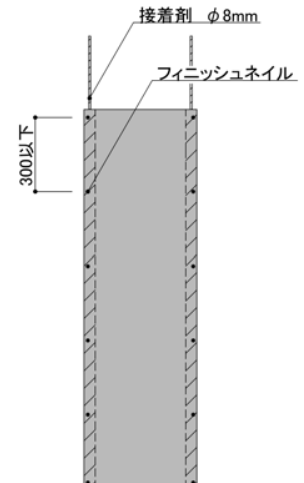
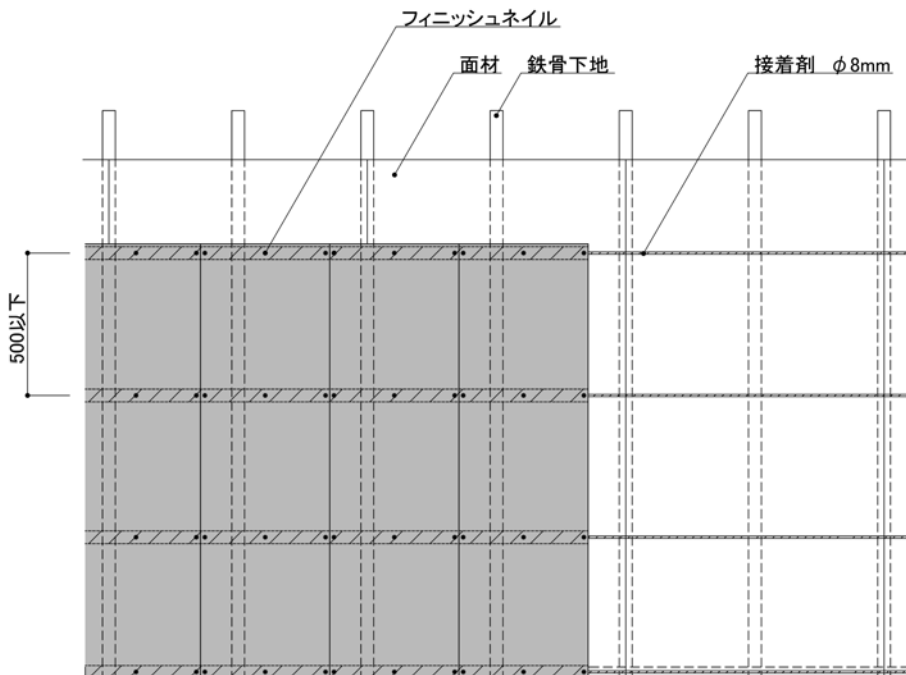
接着剤の必要本数の目安: 1本以上/枚・10尺品

<接着剤>

- ・両端: 長さ方向全長
- ・中央: なし

<仮留め材>

- ・幅方向: 2本(両端)以上
- ・長さ方向: @300mm以下



※左図の接着剤、仮留め材の施工方法とそれぞれ組合せても可

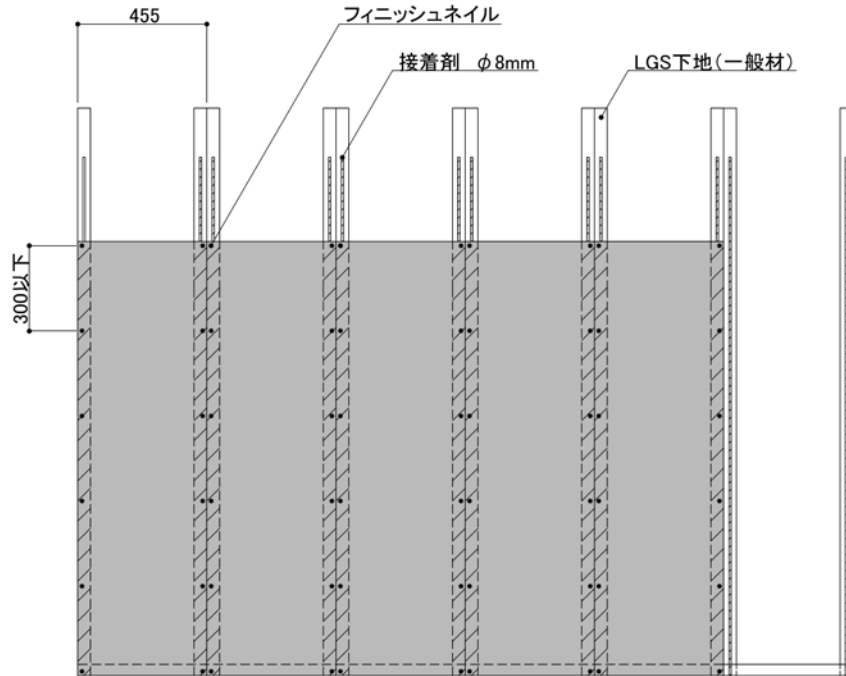
# 4. 接着工法

## 【8】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

### <2>張り方のポイント

LGS下地（一般材） 面材なしの場合

接着剤の必要本数の目安：1本以上/枚・10尺品



LGS下地（一般材） 面材ありの場合

接着剤の必要本数の目安：0.5本以上/枚・10尺品

※下図は下記の施工方法の場合

<接着剤>

- ・両端：幅方向全長
- ・中央：長さ方向@500mm以下で幅方向全長

<仮留め材>

- ・幅方向：3本（両端、中央）以上
- ・長さ方向：@500mm以下

※下図の接着剤、仮留め材の施工方法でもそれぞれ施工可能です。

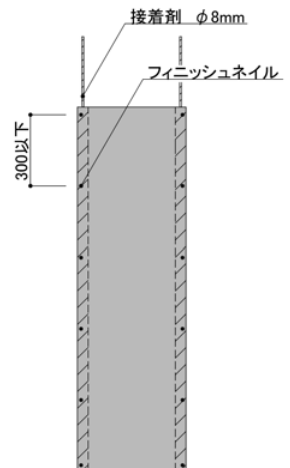
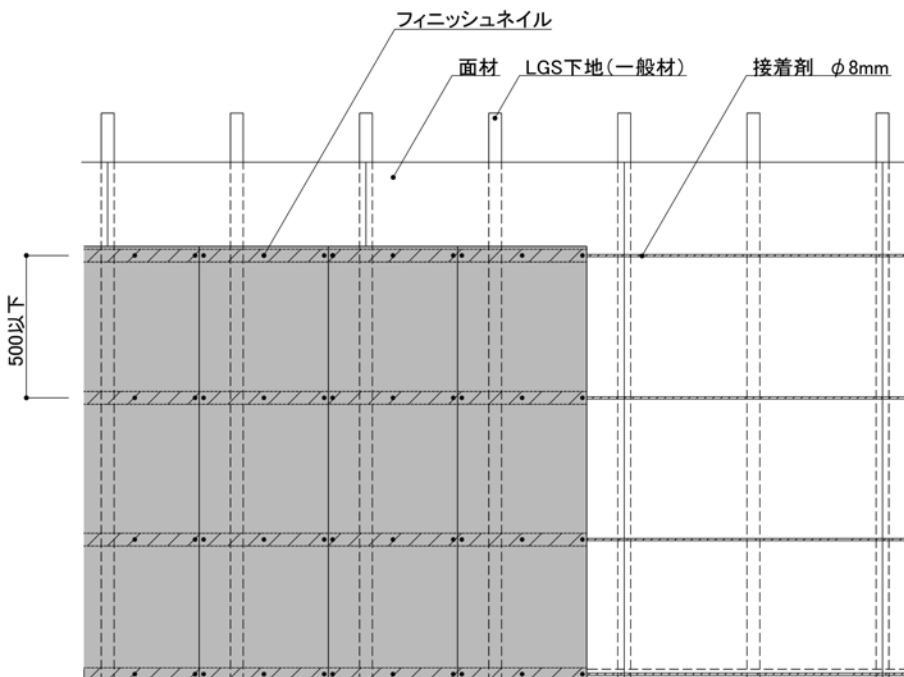
接着剤の必要本数の目安：  
1本以上/枚・10尺品

<接着剤>

- ・両端：長手方向全長
- ・中央：なし

<仮留め材>

- ・幅方向：2本（両端）以上
- ・長さ方向：@300mm以下



※左図の接着剤、仮留め材の施工方法とそれぞれ組合せても可

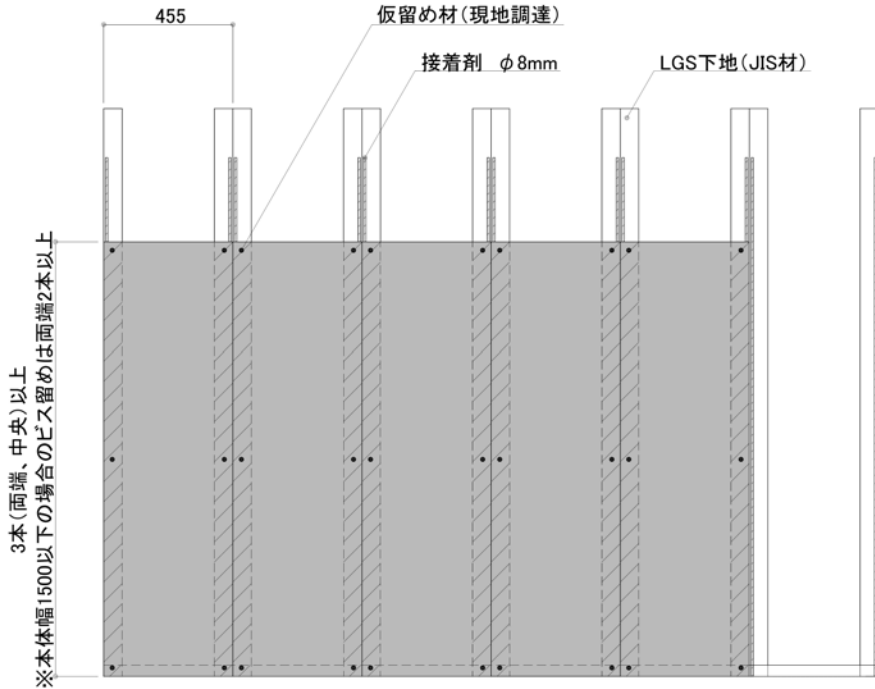
# 4. 接着工法

## 【8】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

### <2>張り方のポイント

LGS下地 (JIS材) 面材なしの場合

接着剤の必要本数の目安: 1本以上/枚・10尺品



LGS下地 (JIS材) 面材ありの場合

接着剤の必要本数の目安: 0.5本以上/枚・10尺品

※下図は下記の施工方法の場合

<接着剤>

- ・両端: 幅方向全長
- ・中央: 長さ方向@500mm以下で幅方向全長

<仮留め材>

- ・幅方向: 3本 (両端、中央) 以上
- ・長手方向: @500mm以下

※下図の接着剤、仮留め材の施工方法でもそれぞれ施工可能です。

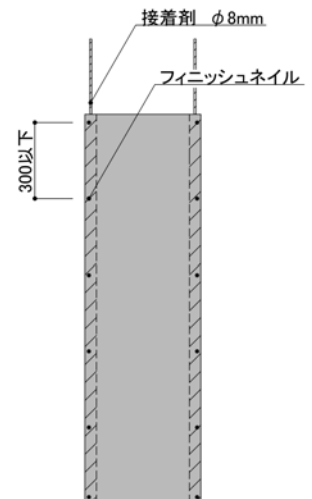
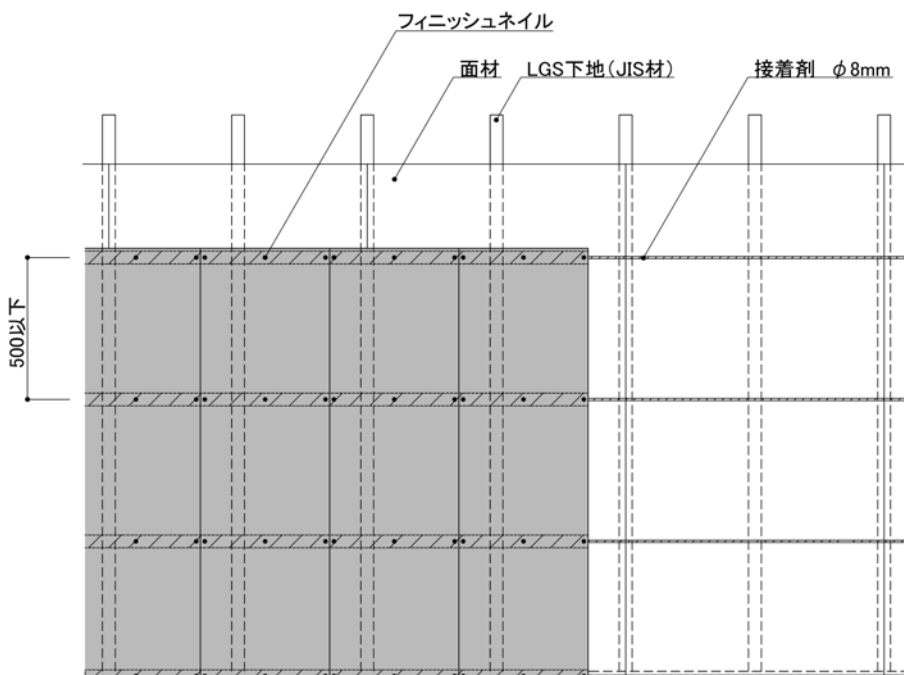
接着剤の必要本数の目安: 1本以上/枚・10尺品

<接着剤>

- ・両端: 長手方向全長
- ・中央: なし

<仮留め材>

- ・幅方向: 2本 (両端) 以上
- ・長手方向: @300mm以下



※左図の接着剤、仮留め材の施工方法とそれぞれ組合せても可

# 4. 接着工法

## 【8】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

### <3>木下地：面材なし 参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと接着剤(MPX-7)を併用して留付け

一般部（横断面）	横目地部
<p>フィニッシュネイル SOLIDO typeF 接着剤 木下地</p>	<p>SOLIDO typeF 木下地 接着剤 フィニッシュネイル</p> <p>注) 施工高さが3.2mを超える部分の施工については68ページ参照</p>
床取合い部	天井取合い部
<p>SOLIDO typeF 木下地 接着剤 フィニッシュネイル 柿渋塗りセンダン巾木(15mm) ※ 床材</p>	<p>天井材 柿渋塗りセンダン見切り(接着工法用) ※ フィニッシュネイル 接着剤 木下地 SOLIDO typeF</p>
出隅部	入隅部
<p>柿渋塗りセンダン出隅 ※ フィニッシュネイル 接着剤 SOLIDO typeF 木下地</p>	<p>木下地 SOLIDO typeF フィニッシュネイル 柿渋塗りセンダン見切り(接着工法用) ※ 接着剤</p>

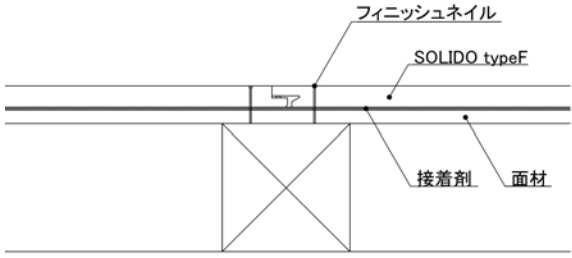
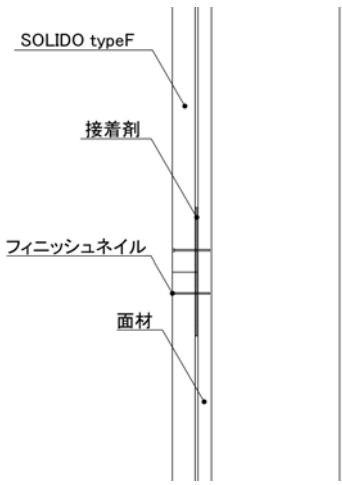
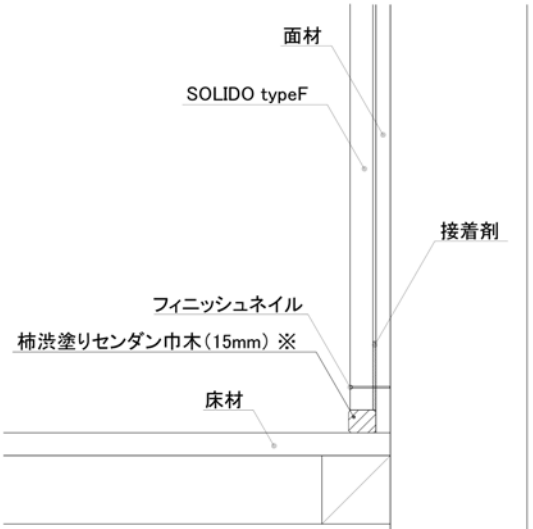
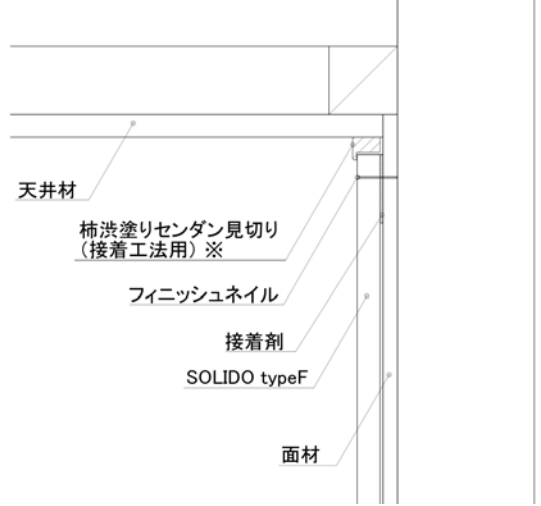
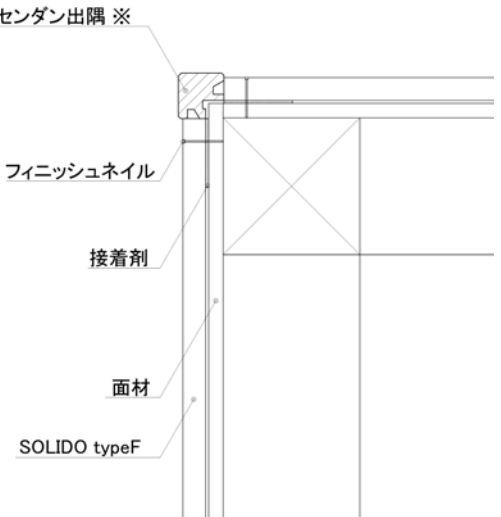
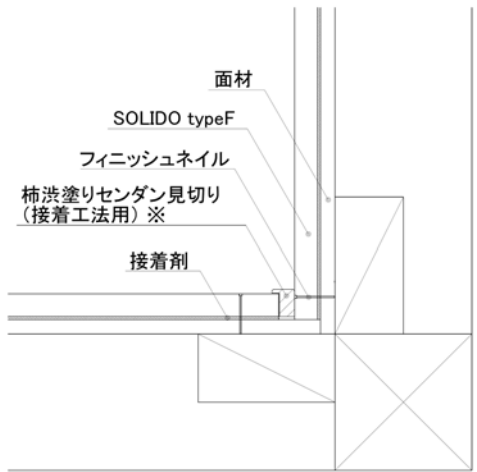


# 4. 接着工法

## 【8】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

＜4＞木下地：面材あり 参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと接着剤(MPX-7)を併用して留付け

一般部（横断面）	横目地部
	 <p data-bbox="829 862 1428 891">注) 施工高さが3.2mを超える部分の施工については69ページ参照</p>
床取合い部	天井取合い部
	
出隅部	入隅部
	

# 4. 接着工法

## 【8】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

### <5>鉄骨下地：面材なし 参考納まり図

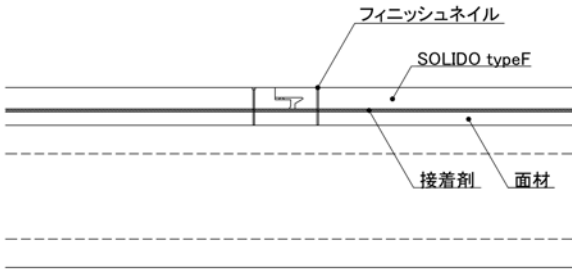
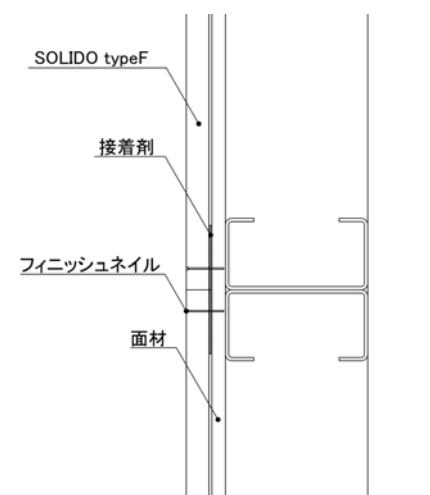
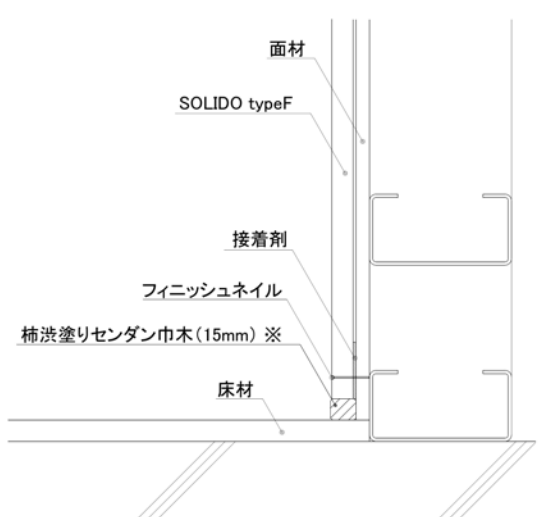
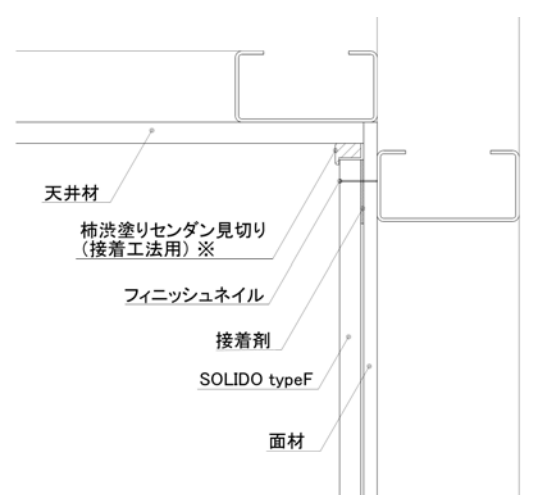
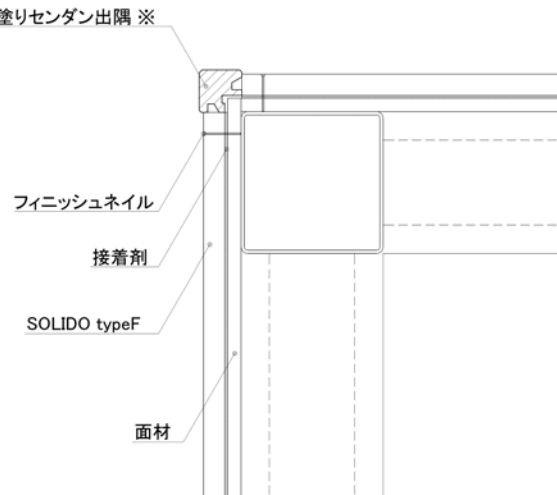
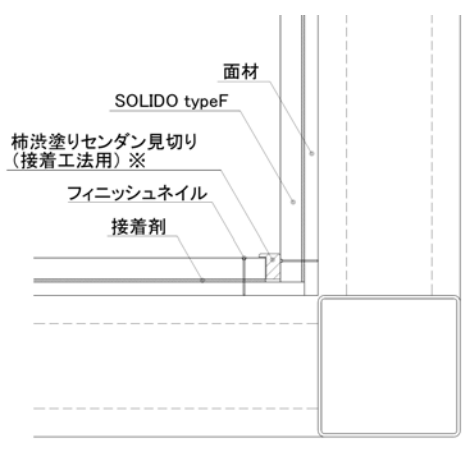
一般部（横断面）	横目地部
<p>直留め用ビス50 SOLIDO typeF 接着剤</p>	<p>SOLIDO typeF 接着剤 直留め用ビス50</p> <p>注) 施工高さが3.2mを超える部分の施工については70ページ参照</p>
床取合い部	天井取合い部
<p>SOLIDO typeF 直留め用ビス50 接着剤 巾木 床材</p>	<p>天井材 直留め用ビス50 接着剤 SOLIDO typeF</p>
出隅部	入隅部
<p>直留め用ビス50 接着剤 SOLIDO typeF</p>	<p>SOLIDO typeF 直留め用ビス50 接着剤</p>

# 4. 接着工法

## 【8】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

### <6>鉄骨下地：面材あり 参考納まり図

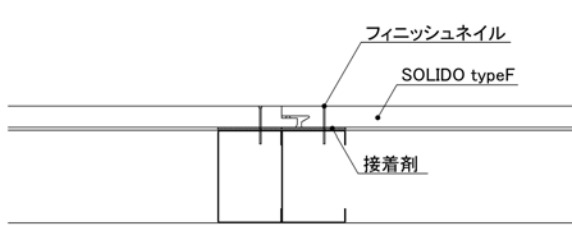
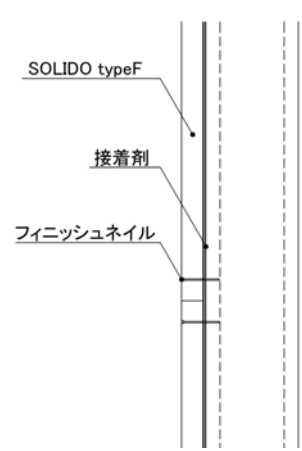
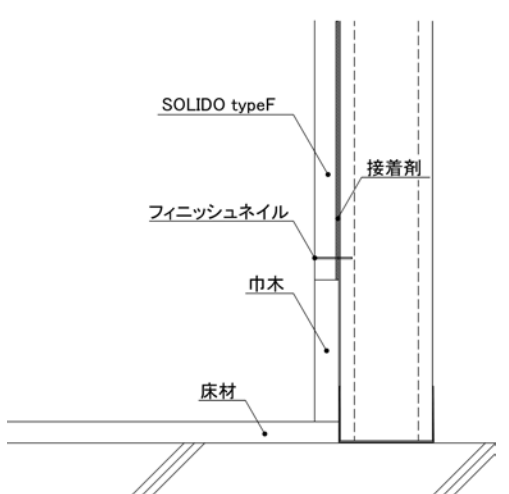
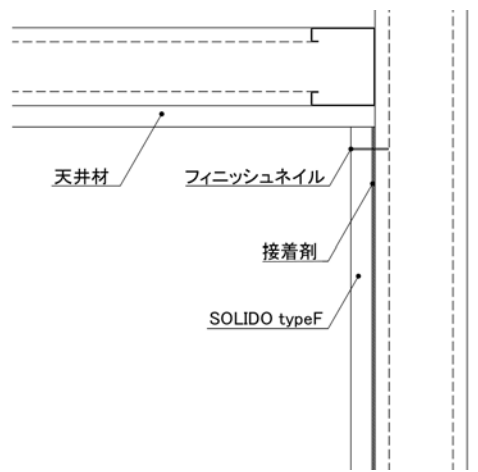
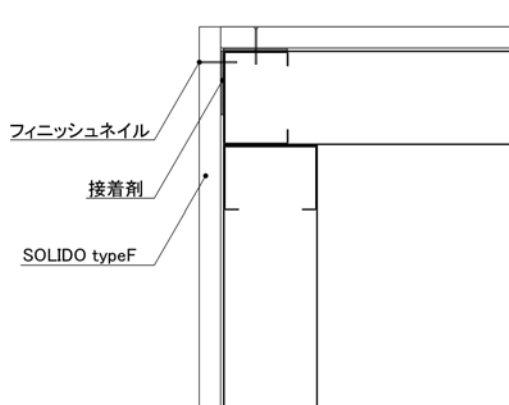
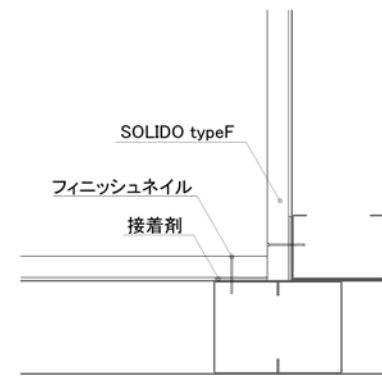
※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと接着剤(MPX-7)を併用して留付け

一般部（横断面）	横目地部
 <p>フィニッシュネイル SOLIDO typeF 接着剤 面材</p>	 <p>SOLIDO typeF 接着剤 フィニッシュネイル 面材</p> <p>注) 施工高さが3.2mを超える部分の施工については71ページ参照</p>
床取合い部	天井取合い部
 <p>面材 SOLIDO typeF 接着剤 フィニッシュネイル 柿洪塗りセンダン巾木(15mm)※ 床材</p>	 <p>天井材 柿洪塗りセンダン見切り(接着工法用)※ フィニッシュネイル 接着剤 SOLIDO typeF 面材</p>
出隅部	入隅部
 <p>柿洪塗りセンダン出隅※ フィニッシュネイル 接着剤 SOLIDO typeF 面材</p>	 <p>面材 SOLIDO typeF 柿洪塗りセンダン見切り(接着工法用)※ フィニッシュネイル 接着剤</p>

# 4. 接着工法

## 【8】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

<7>LGS下地（一般材）：面材なし 参考納まり図

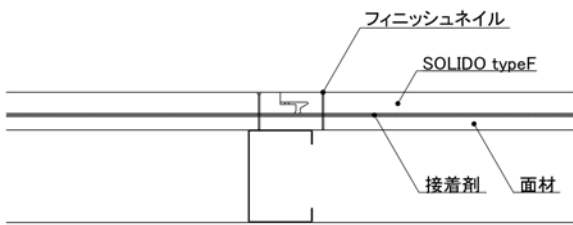
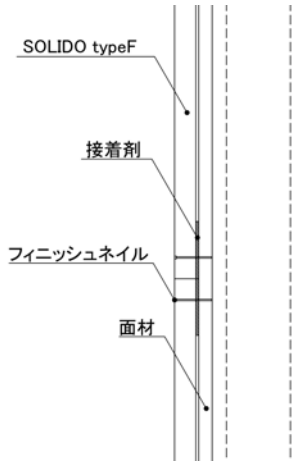
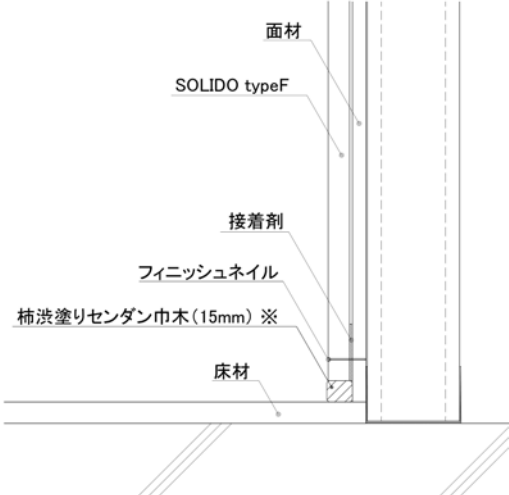
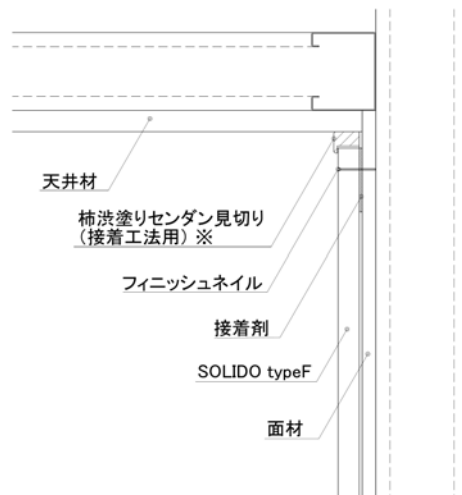
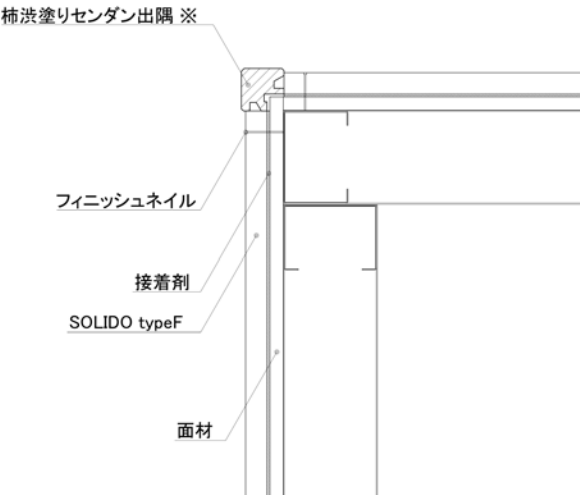
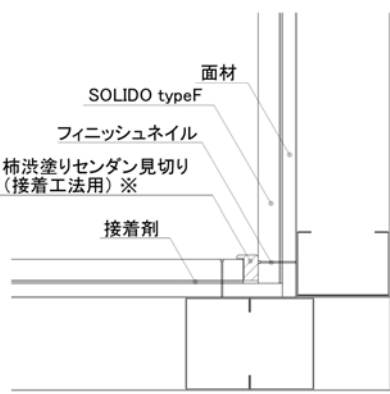
一般部（横断面）	横目地部
	 <p data-bbox="829 851 1436 896">注) 施工高さが3.2mを超える部分の施工については72ページ参照</p>
床取合い部	天井取合い部
	
出隅部	入隅部
	

# 4. 接着工法

## 【8】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

<8>LGS下地（一般材）：面材あり 参考納まり図

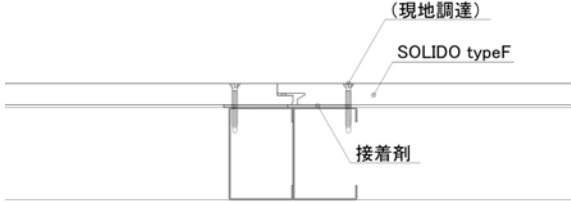
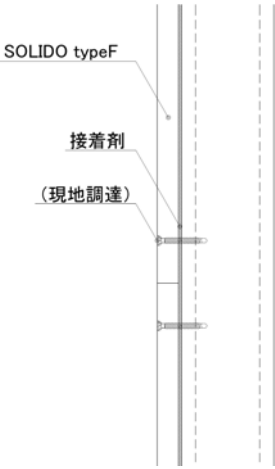
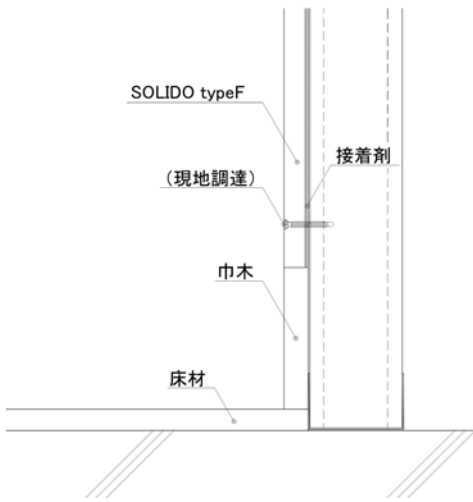
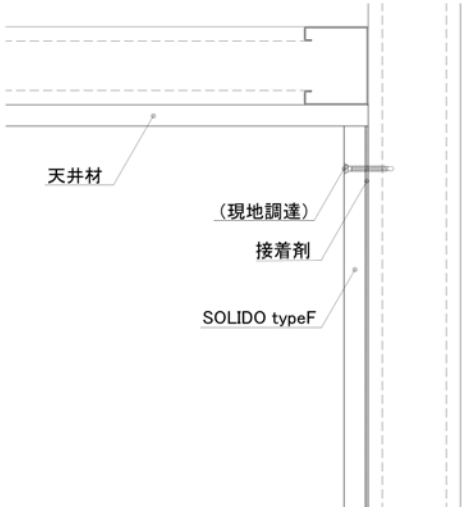
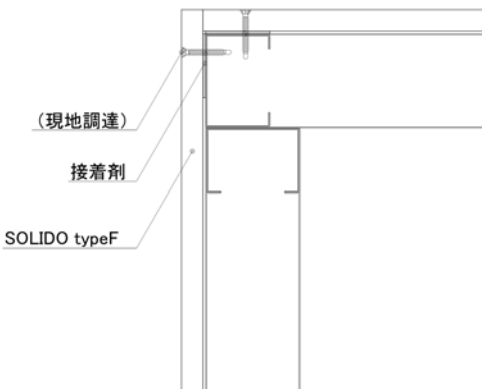
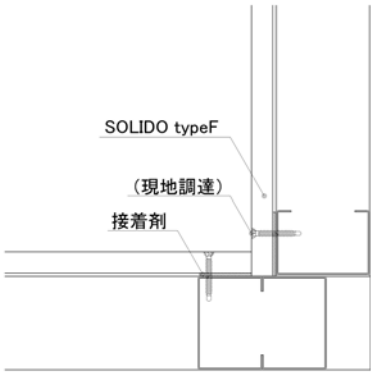
※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと接着剤(MPX-7)を併用して留付け

一般部（横断面）	横目地部
	 <p data-bbox="829 862 1428 891">注) 施工高さが3.2mを超える部分の施工については73ページ参照</p>
床取合い部	天井取合い部
	
出隅部	入隅部
	

# 4. 接着工法

## 【8】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

<9>LGS下地（JIS材）：面材なし 参考納まり図

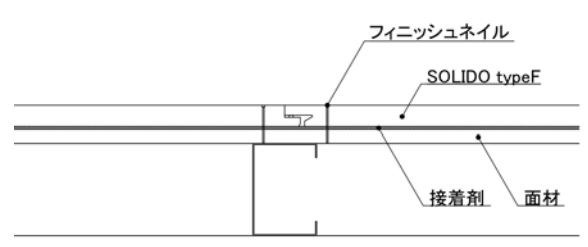
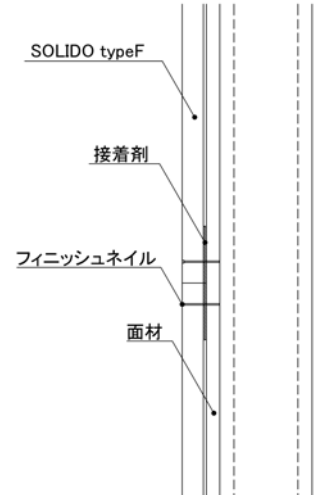
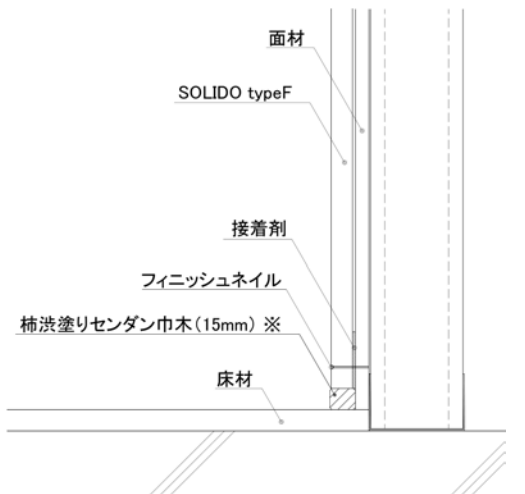
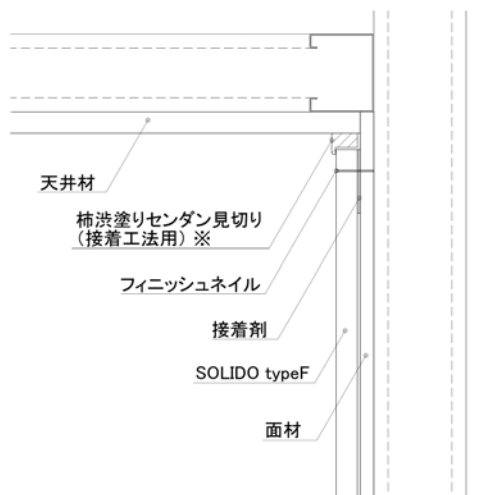
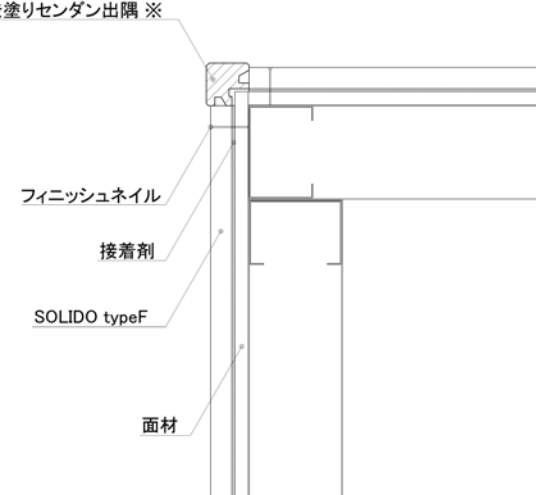
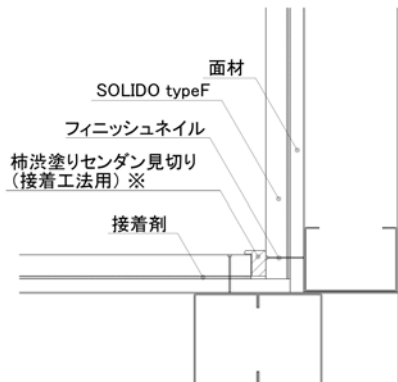
一般部（横断面）	横目地部
	 <p data-bbox="831 860 1430 887">注) 施工高さが3.2mを超える部分の施工については74ページ参照</p>
床取合い部	天井取合い部
	
出隅部	入隅部
	

# 4. 接着工法

## 【8】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）

<10>LGS下地（JIS材）：面材あり 参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと接着剤(MPX-7)を併用して留付け

一般部（横断面）	横目地部
	 <p data-bbox="829 851 1436 896">注) 施工高さが3.2mを超える部分の施工については75ページ参照</p>
床取合い部	天井取合い部
	
出隅部	入隅部
	

## 4. 接着工法

### 【9】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

※施工高さ3.2mを超える部分では、固定材（釘・ビス）による剥落防止処置が必要です。  
 仮留め材（フィニッシュネイル等）による留付けや面材への固定は不可ですので、ご注意ください。

#### <1>墨出し

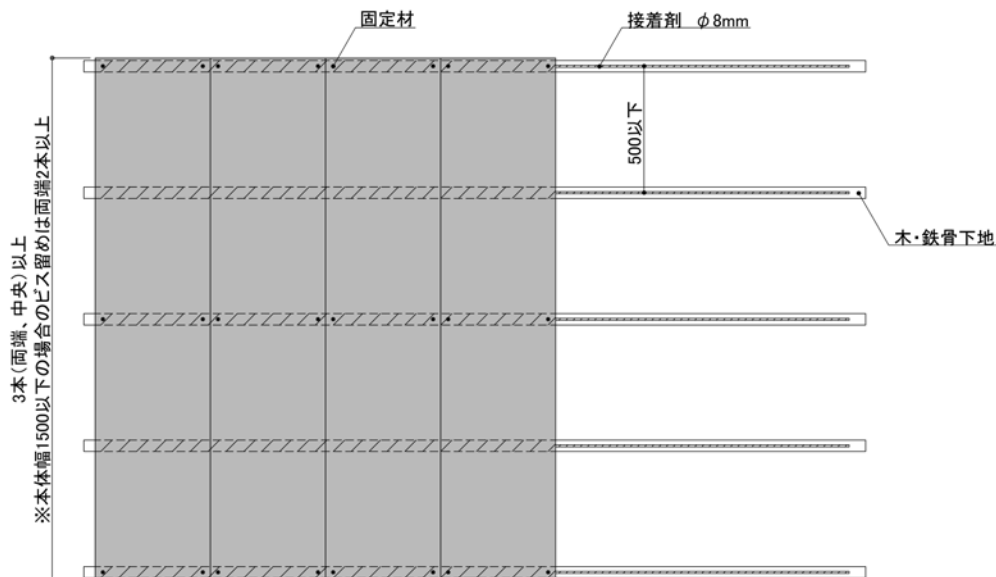
●「【8】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m以下の場合）」と同様です。（53ページ参照）

#### <2>張り方のポイント

- 本体は、接着剤（MPX-7）または推奨接着剤と、固定材（釘、ビス）を併用して施工します。  
 ※接着剤、固定材：27、29ページ参照
- 接着剤（MPX-7）の塗布方法は、Φ8mmのビード状にて、塗布量180g/m<sup>2</sup>以上を推奨しています。
- 固定材は下地（躯体）に固定してください。
- 留付けは端打ち寸法（26ページ参照）を確保してください。（接着剤塗布位置と仮留め位置をそろえる必要はありません。）
- 先孔（釘：Φ2mm程度、ビス：Φ4mm程度）をあけてから固定してください。（鉄骨下地でリーマ付ビス（直留め用ビス50等）を使用する場合は先孔不要）
- 本体の割付けや固定材の留付け位置に合わせて下地を設ける必要があります。本体を施工する前に、下地位置の確認をしてください。

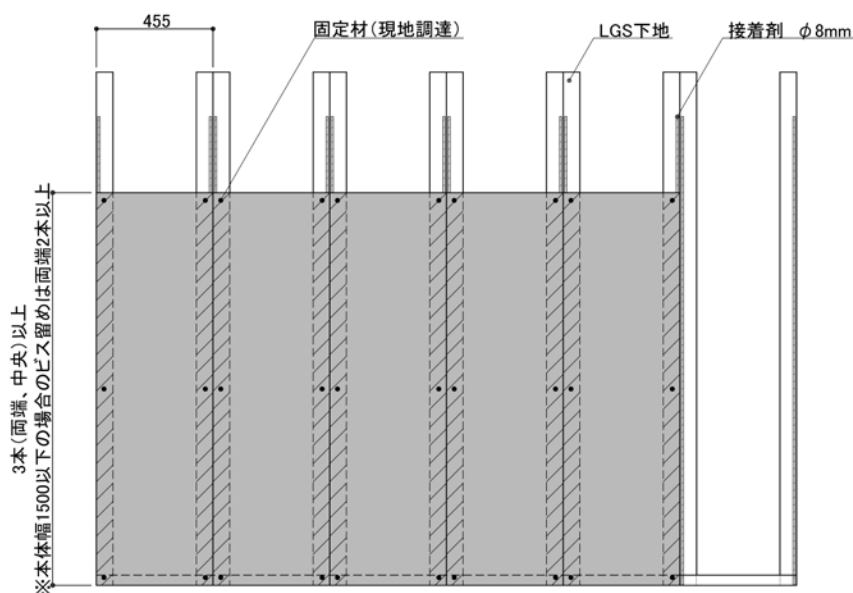
木・鉄骨下地 面材なしの場合

接着剤の必要本数の目安：0.5本以上/枚・10尺品



LGS下地（一般材、JIS材）面材なしの場合

接着剤の必要本数の目安：1本以上/枚・10尺品





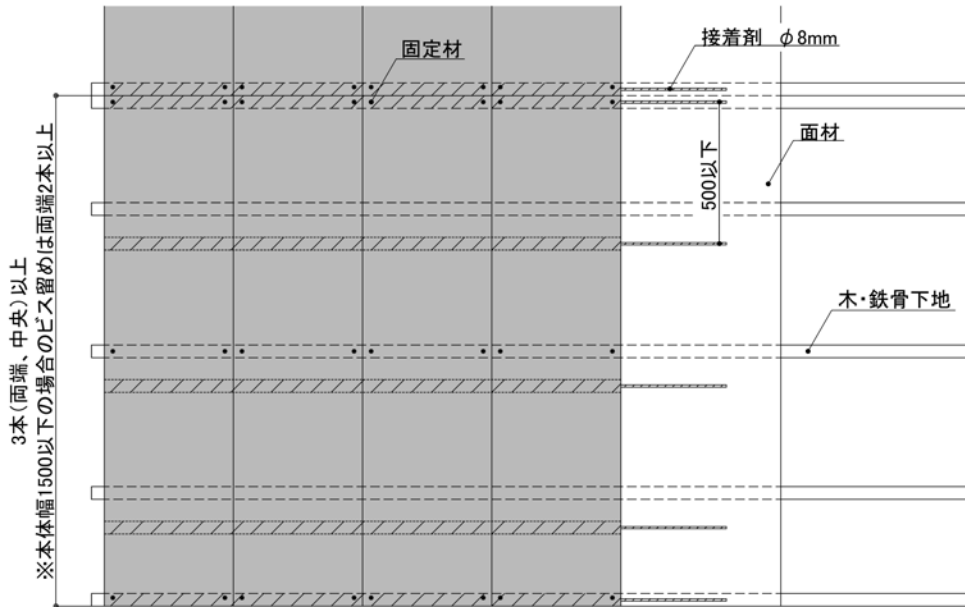
# 4. 接着工法

## 【9】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

### <2>張り方のポイント

木・鉄骨下地 面材ありの場合

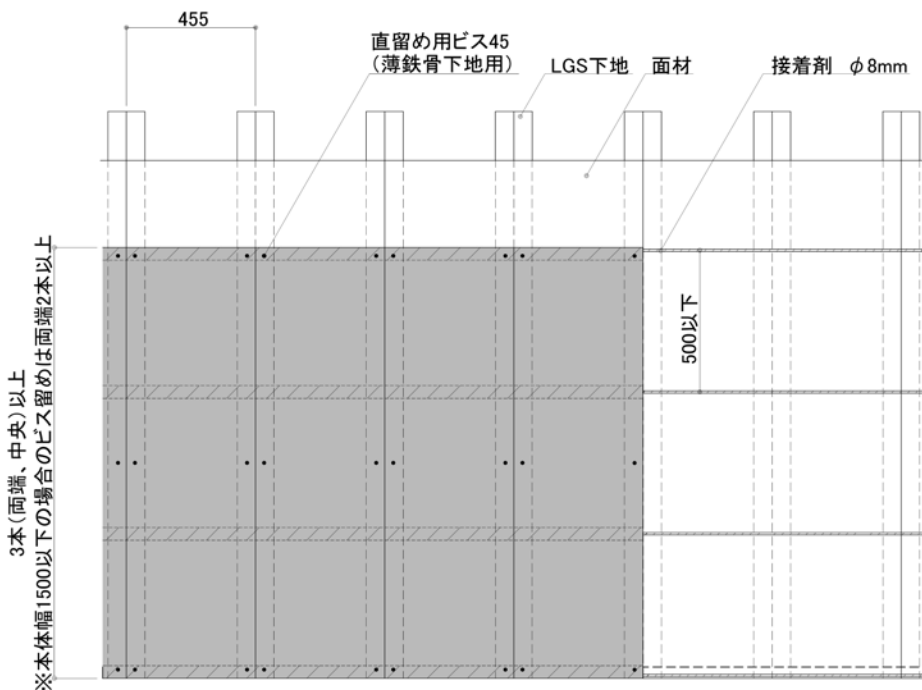
接着剤の必要本数の目安:0.5本以上/枚・10尺品



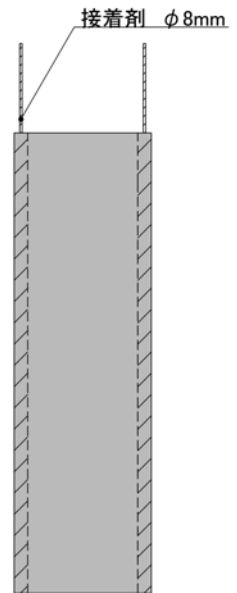
※本体の割付けや固定材の留付け位置に合わせて下地を設ける必要があります。  
 本体を施工する前に、下地位置の確認をしてください。

LGS下地（一般材、JIS材）面材ありの場合

接着剤の必要本数の目安:0.5本以上/枚・10尺品



※下図の接着剤の塗布方法でも施工可能です。  
 接着剤の必要本数の目安:  
 1本以上/枚(10尺品)

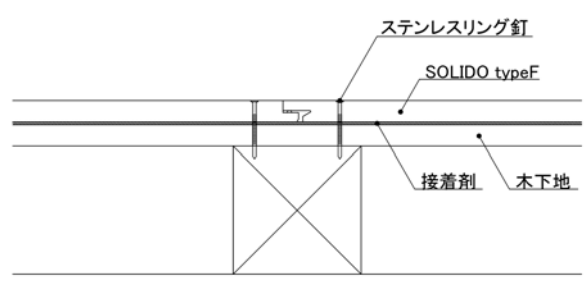
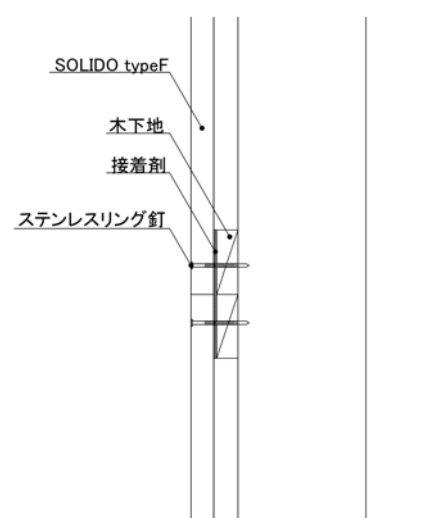
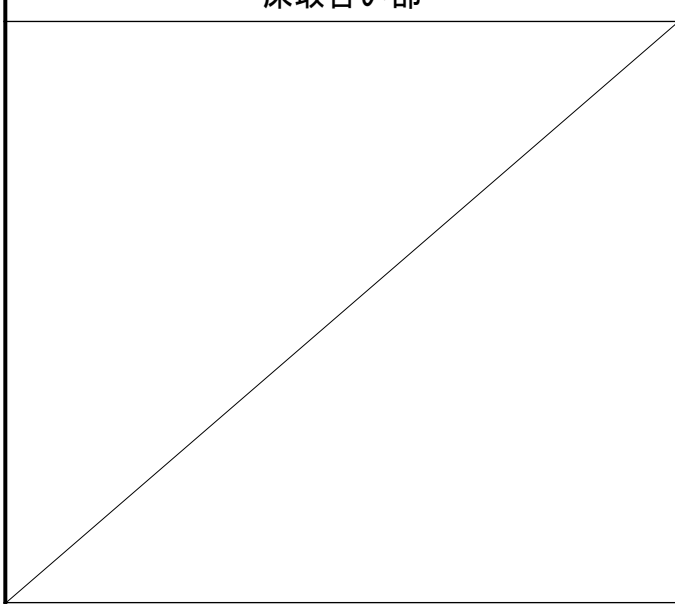
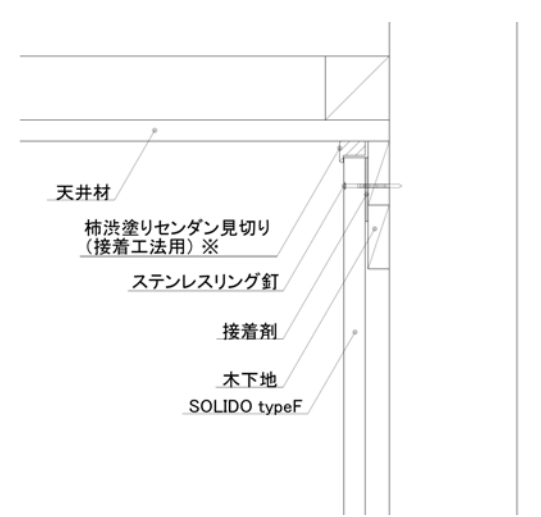
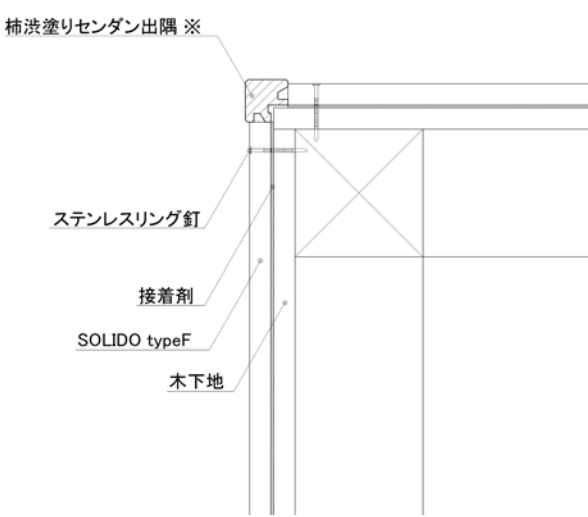
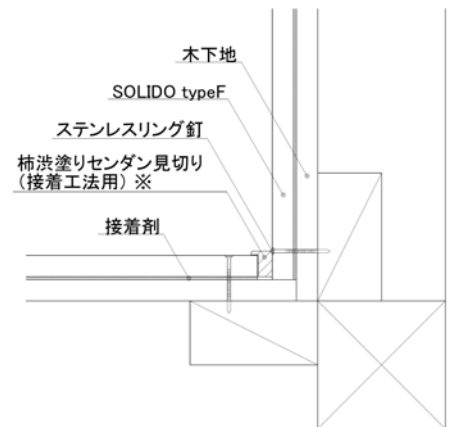


# 4. 接着工法

## 【9】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

＜3＞木下地：面材なし 参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと接着剤(MPX-7)を併用して留付け

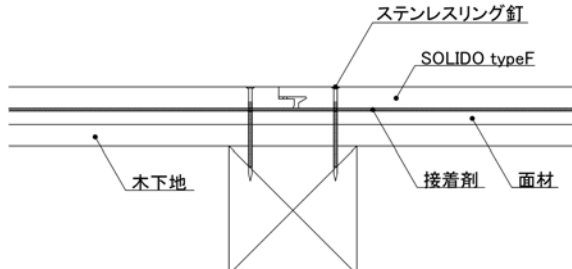
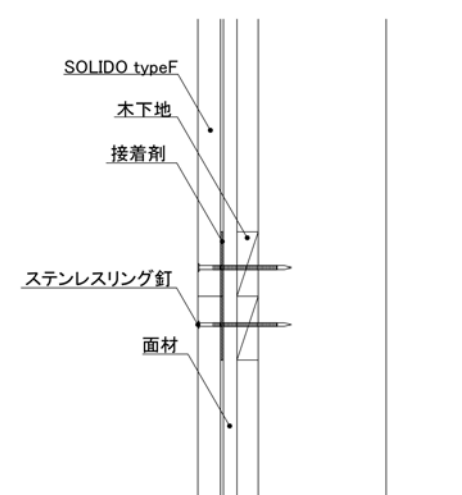
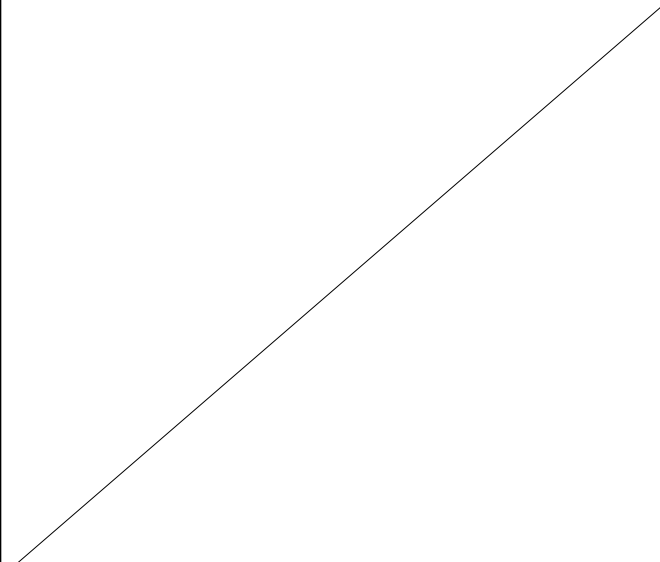
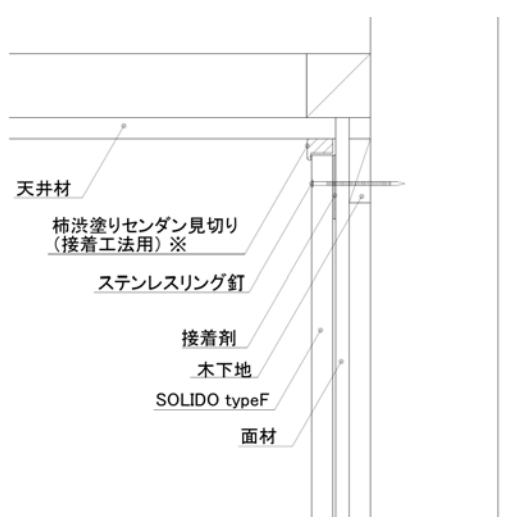
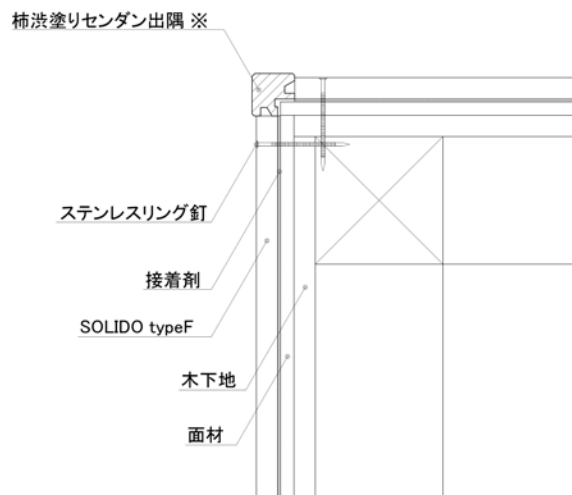
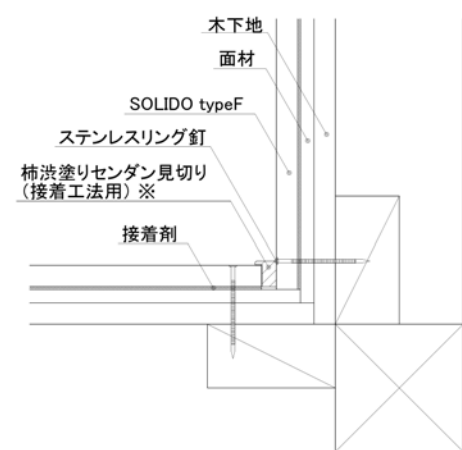
一般部（横断面）	横目地部
 <p>ステンレスリング釘 SOLIDO typeF 接着剤 木下地</p>	 <p>SOLIDO typeF 木下地 接着剤 ステンレスリング釘</p> <p>注) 施工高さが6.2mを超える部分は接着工法での施工不可</p>
<p>床取合い部</p> 	<p>天井取合い部</p>  <p>天井材 柿洪塗りセンダン見切り (接着工法用) ※ ステンレスリング釘 接着剤 木下地 SOLIDO typeF</p>
<p>出隅部</p>  <p>柿洪塗りセンダン出隅 ※ ステンレスリング釘 接着剤 SOLIDO typeF 木下地</p>	<p>入隅部</p>  <p>木下地 SOLIDO typeF ステンレスリング釘 柿洪塗りセンダン見切り (接着工法用) ※ 接着剤 木下地</p>

# 4. 接着工法

## 【9】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

<4>木下地：面材あり 参考納まり図

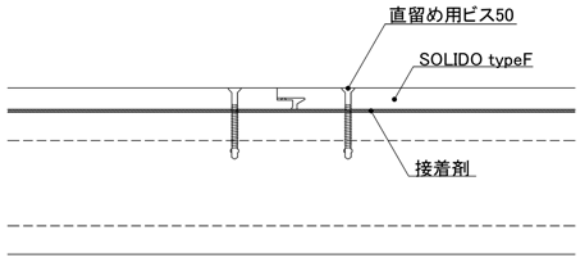
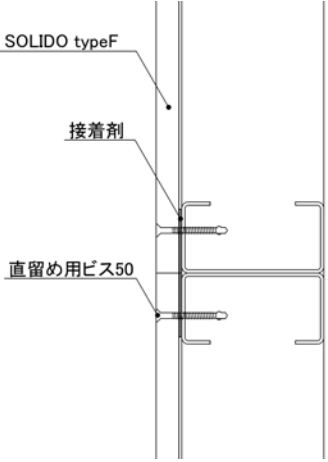
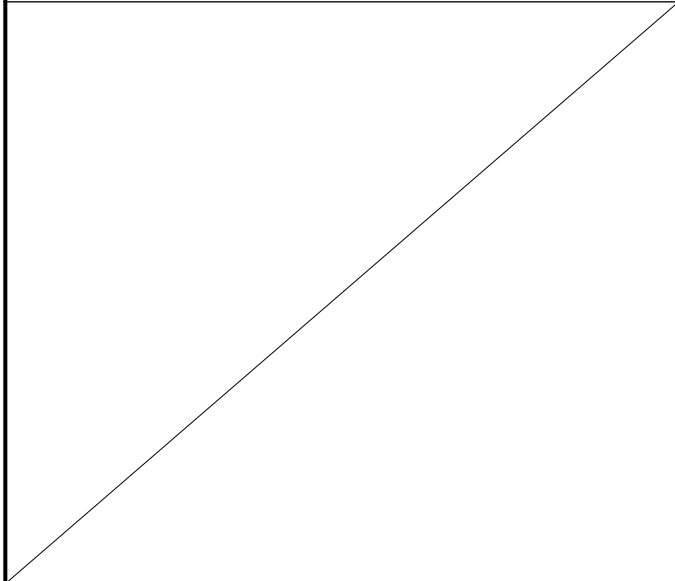
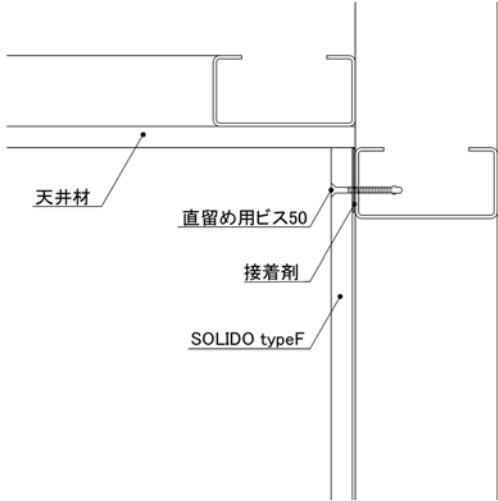
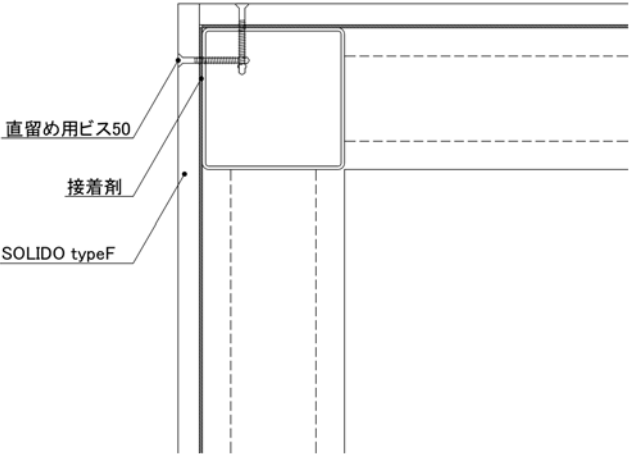
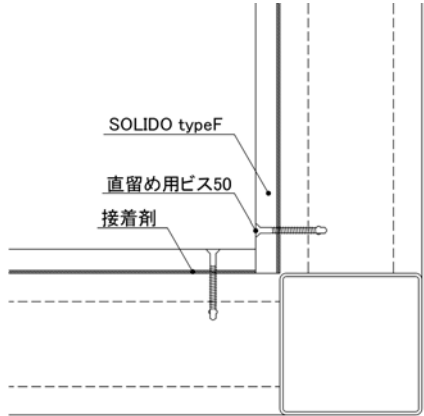
※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと接着剤(MPX-7)を併用して留付け

一般部（横断面）	横目地部
	 <p data-bbox="829 851 1372 896">注) 施工高さが6.2mを超える部分は接着工法での施工不可</p>
床取合い部	天井取合い部
	
出隅部	入隅部
	

# 4. 接着工法

## 【9】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

### <5>鉄骨下地：面材なし 参考納まり図

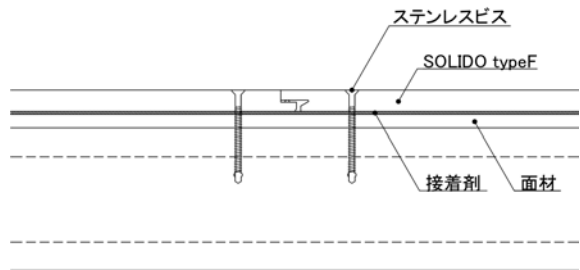
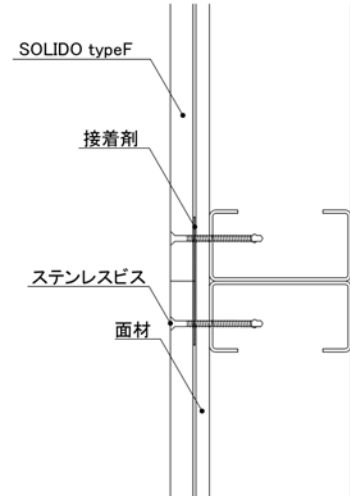
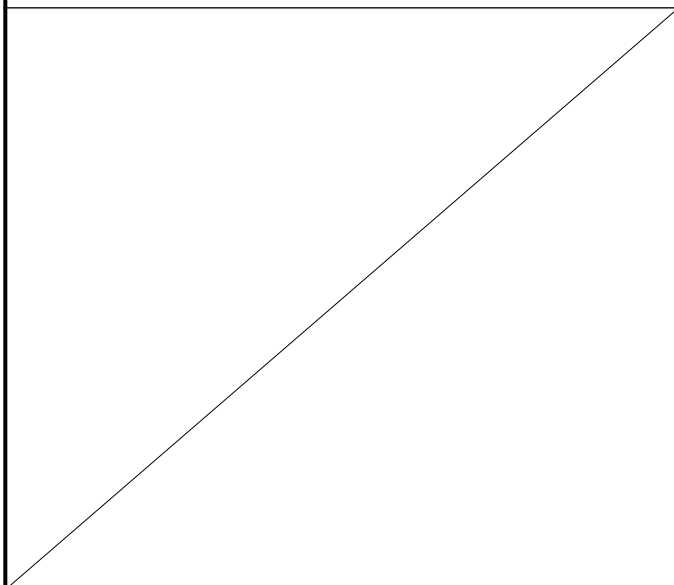
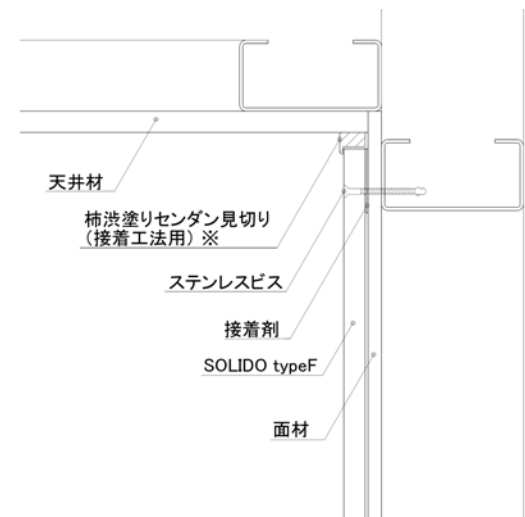
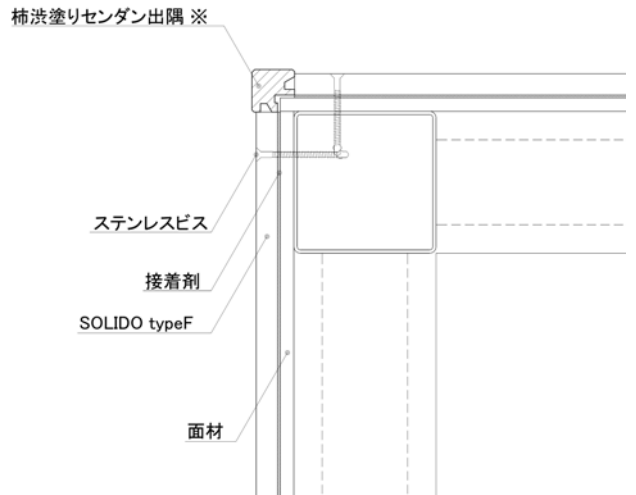
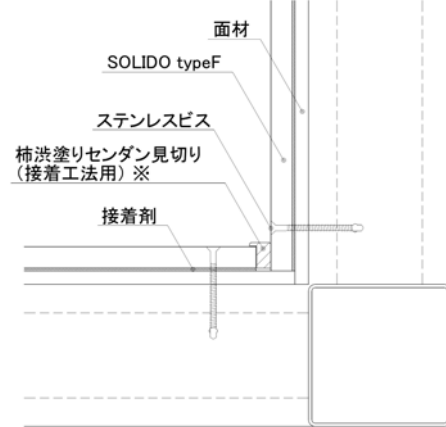
一般部（横断面）	横目地部
 <p>直留め用ビス50 SOLIDO typeF 接着剤</p>	 <p>SOLIDO typeF 接着剤 直留め用ビス50</p> <p>注) 施工高さが6.2mを超える部分は接着工法での施工不可</p>
床取合い部	天井取合い部
	 <p>天井材 直留め用ビス50 接着剤 SOLIDO typeF</p>
出隅部	入隅部
 <p>直留め用ビス50 接着剤 SOLIDO typeF</p>	 <p>SOLIDO typeF 直留め用ビス50 接着剤</p>

# 4. 接着工法

## 【9】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

<6>鉄骨下地：面材あり 参考納まり図

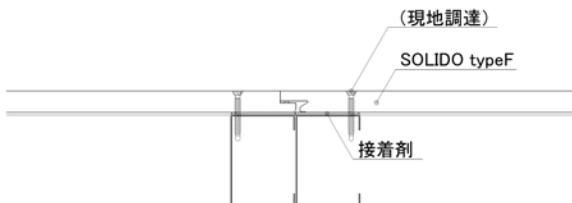
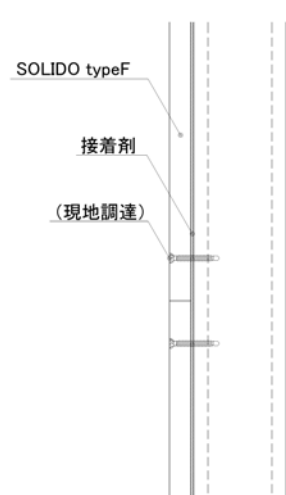
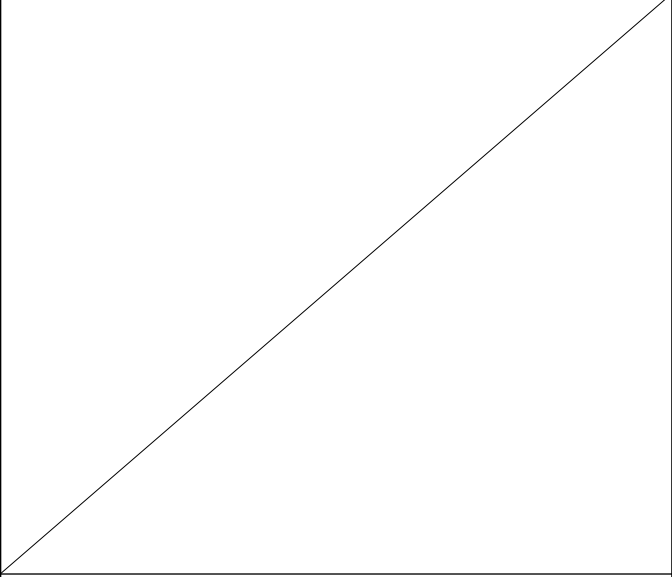
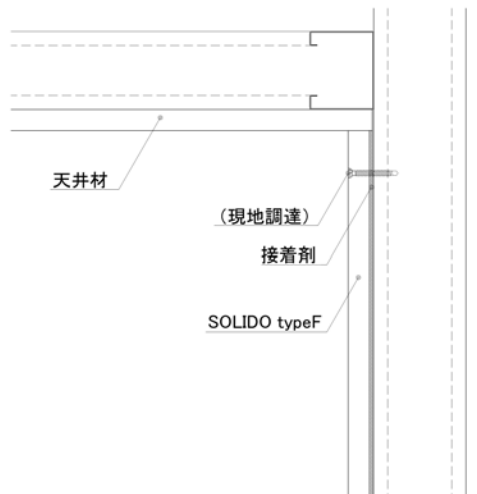
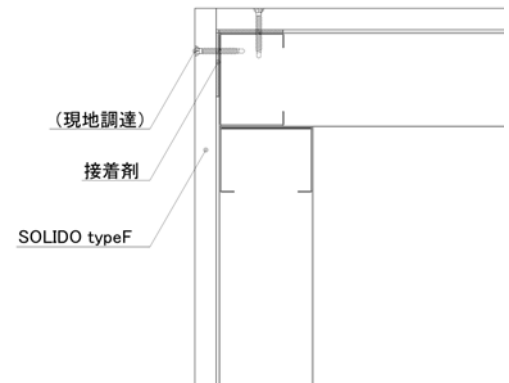
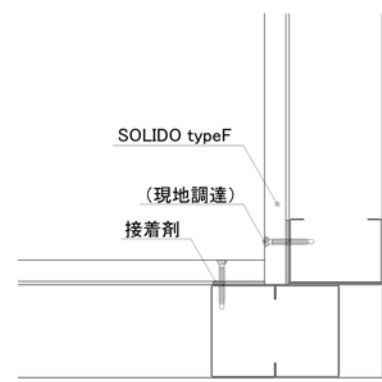
※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと接着剤(MPX-7)を併用して留付け

一般部（横断面）	横目地部
 <p>ステンレスビス SOLIDO typeF 接着剤 面材</p>	 <p>SOLIDO typeF 接着剤 ステンレスビス 面材</p> <p>注) 施工高さが6.2mを超える部分は接着工法での施工不可</p>
<p>床取合い部</p> 	<p>天井取合い部</p>  <p>天井材 柿洪塗りセンダン見切り (接着工法用) ※ ステンレスビス 接着剤 SOLIDO typeF 面材</p>
<p>出隅部</p>  <p>柿洪塗りセンダン出隅 ※ ステンレスビス 接着剤 SOLIDO typeF 面材</p>	<p>入隅部</p>  <p>面材 SOLIDO typeF ステンレスビス 柿洪塗りセンダン見切り (接着工法用) ※ 接着剤</p>

# 4. 接着工法

## 【9】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

<7>LGS下地（一般材）：面材なし 参考納まり図

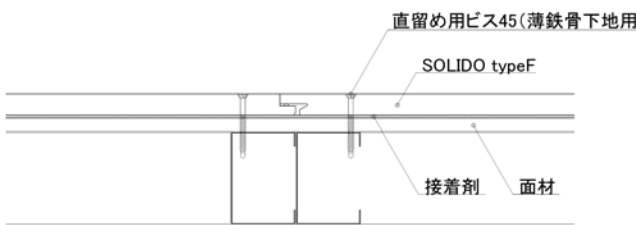
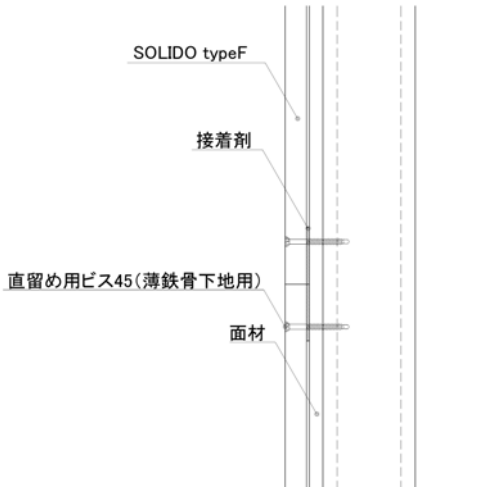
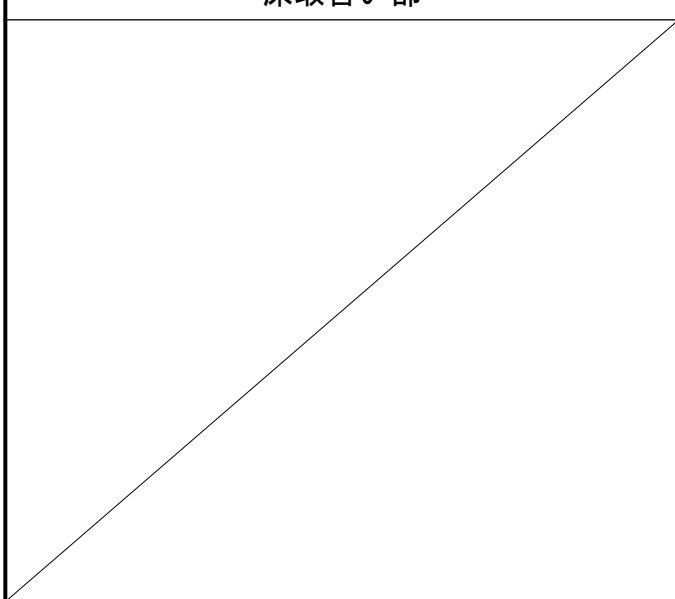
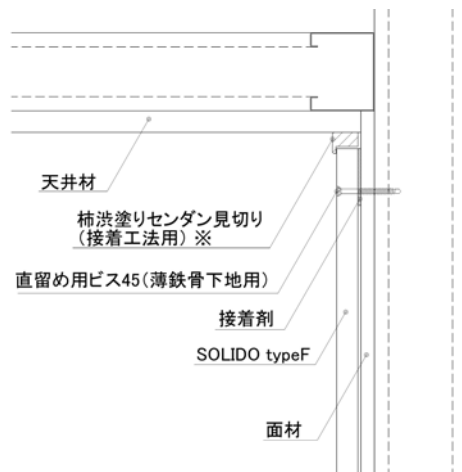
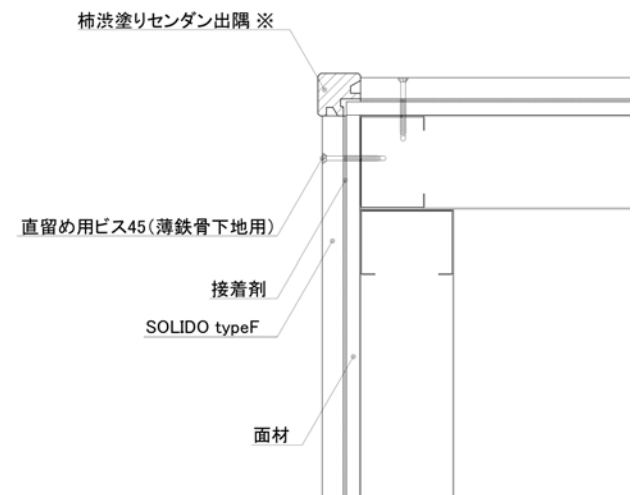
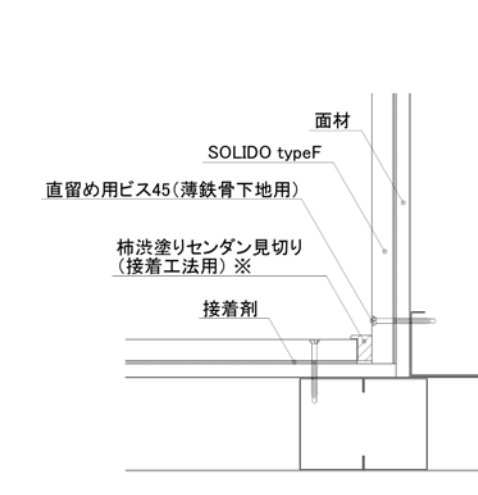
一般部（横断面）	横目地部
 <p>(現地調達) SOLIDO typeF 接着剤</p>	 <p>SOLIDO typeF 接着剤 (現地調達)</p> <p>注) 施工高さが6.2mを超える部分は接着工法での施工不可</p>
床取合い部	天井取合い部
	 <p>天井材 (現地調達) 接着剤 SOLIDO typeF</p>
出隅部	入隅部
 <p>(現地調達) 接着剤 SOLIDO typeF</p>	 <p>SOLIDO typeF (現地調達) 接着剤</p>

# 4. 接着工法

## 【9】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

< 8 > LGS下地（一般材）：面材あり 参考納まり図

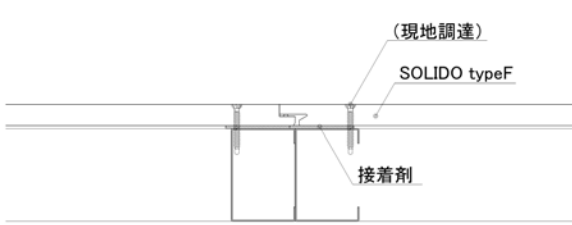
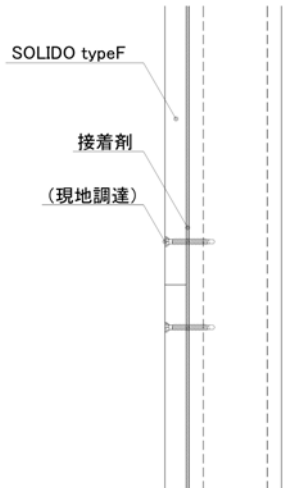
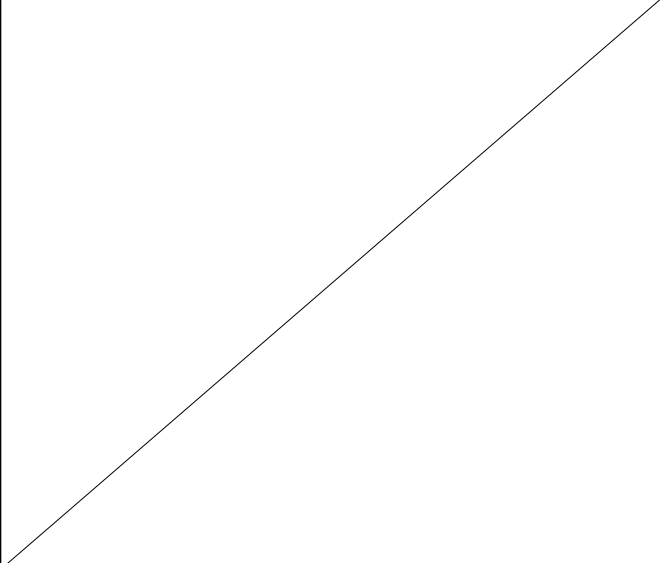
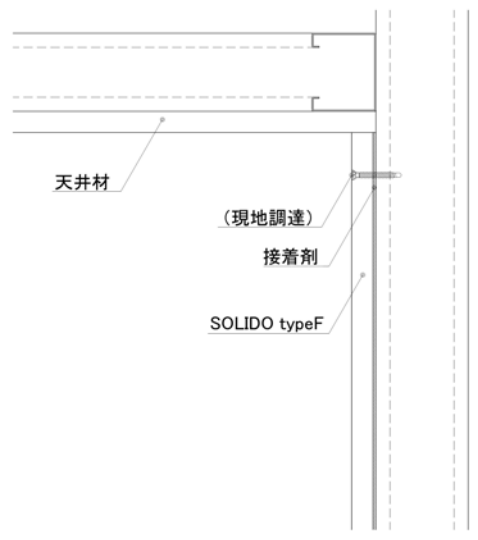
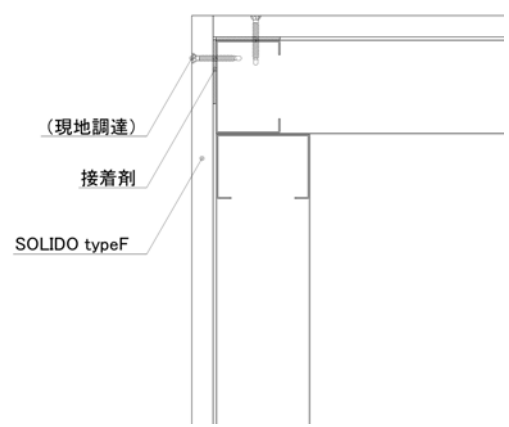
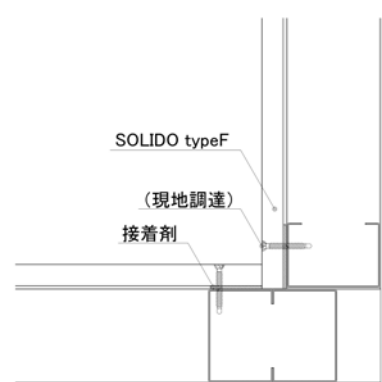
※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと接着剤(MPX-7)を併用して留付け

一般部（横断面）	横目地部
 <p>直留め用ビス45(薄鉄骨下地用) SOLIDO typeF 接着剤 面材</p>	 <p>SOLIDO typeF 接着剤 直留め用ビス45(薄鉄骨下地用) 面材</p> <p>注) 施工高さが6.2mを超える部分は接着工法での施工不可</p>
<p>床取合い部</p> 	<p>天井取合い部</p>  <p>天井材 柿渋塗りセンダン見切り(接着工法用)※ 直留め用ビス45(薄鉄骨下地用) 接着剤 SOLIDO typeF 面材</p>
<p>出隅部</p>  <p>柿渋塗りセンダン出隅※ 直留め用ビス45(薄鉄骨下地用) 接着剤 SOLIDO typeF 面材</p>	<p>入隅部</p>  <p>面材 SOLIDO typeF 直留め用ビス45(薄鉄骨下地用) 柿渋塗りセンダン見切り(接着工法用)※ 接着剤</p>

# 4. 接着工法

## 【9】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

<9>LGS下地（JIS材）：面材なし 参考納まり図

一般部（横断面）	横目地部
 <p>(現地調達) SOLIDO typeF 接着剤</p>	 <p>SOLIDO typeF 接着剤 (現地調達)</p> <p>注) 施工高さが6.2mを超える部分は接着工法での施工不可</p>
床取合い部	天井取合い部
	 <p>天井材 (現地調達) 接着剤 SOLIDO typeF</p>
出隅部	入隅部
 <p>(現地調達) 接着剤 SOLIDO typeF</p>	 <p>SOLIDO typeF (現地調達) 接着剤</p>

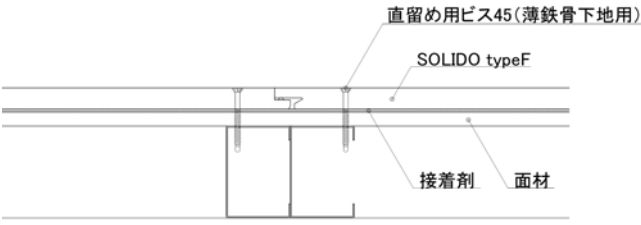
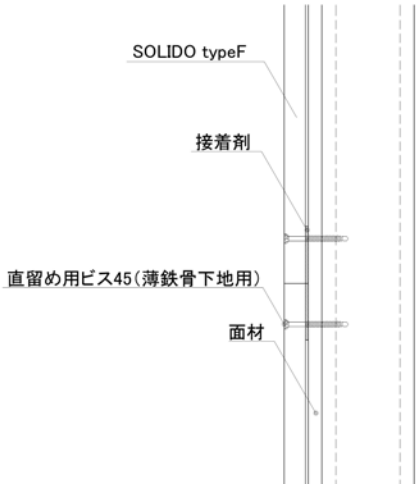
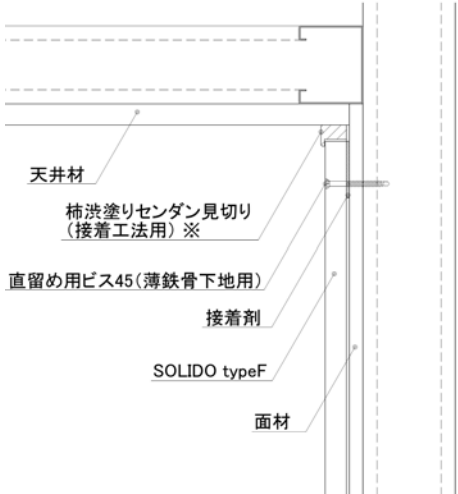
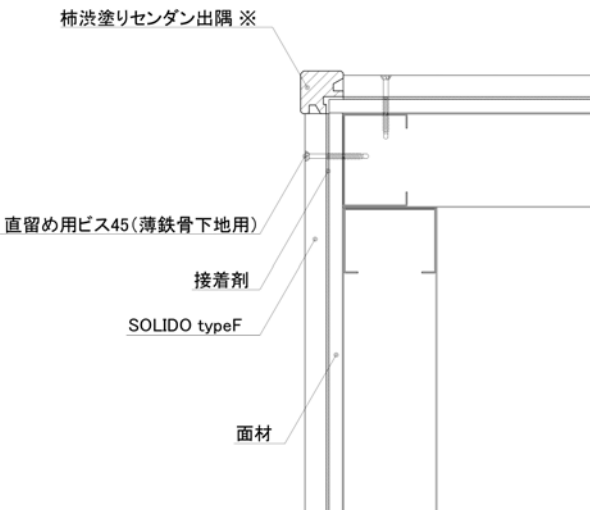
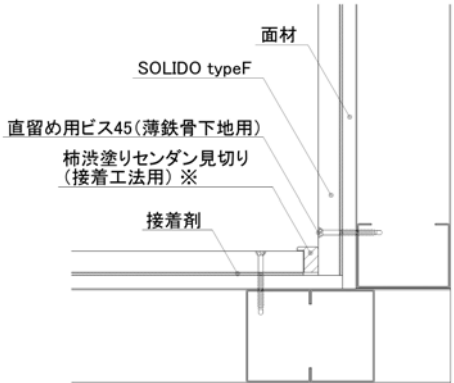


# 4. 接着工法

## 【9】縦張り施工のポイント（施工高さ3.2m超 6.2m以下の場合）

<10>LGS下地（JIS材）：面材あり 参考納まり図

※ピンネイルまたはフィニッシュネイルと接着剤(MPX-7)を併用して留付け

一般部（横断面）	横目地部
	 <p data-bbox="831 860 1374 889">注) 施工高さが6.2mを超える部分は接着工法での施工不可</p>
<p data-bbox="373 913 536 947">床取合い部</p>	 <p data-bbox="1034 913 1230 947">天井取合い部</p>
 <p data-bbox="405 1552 504 1585">出隅部</p>	 <p data-bbox="1082 1552 1181 1585">入隅部</p>

# 5. LAP工法

## 【1】適用下地

- 木下地、LGS下地の他、それぞれの下地の上に面材がある場合にも使用できます。
- 落下・脱落・破損等の不具合が起きないように、本資料を参考に、ご採用者様にて施工法や留付け部材、関連部材等を適切に設計・施工してください。
- 各下地の推奨仕様は下表の通りです。

(単位:mm)

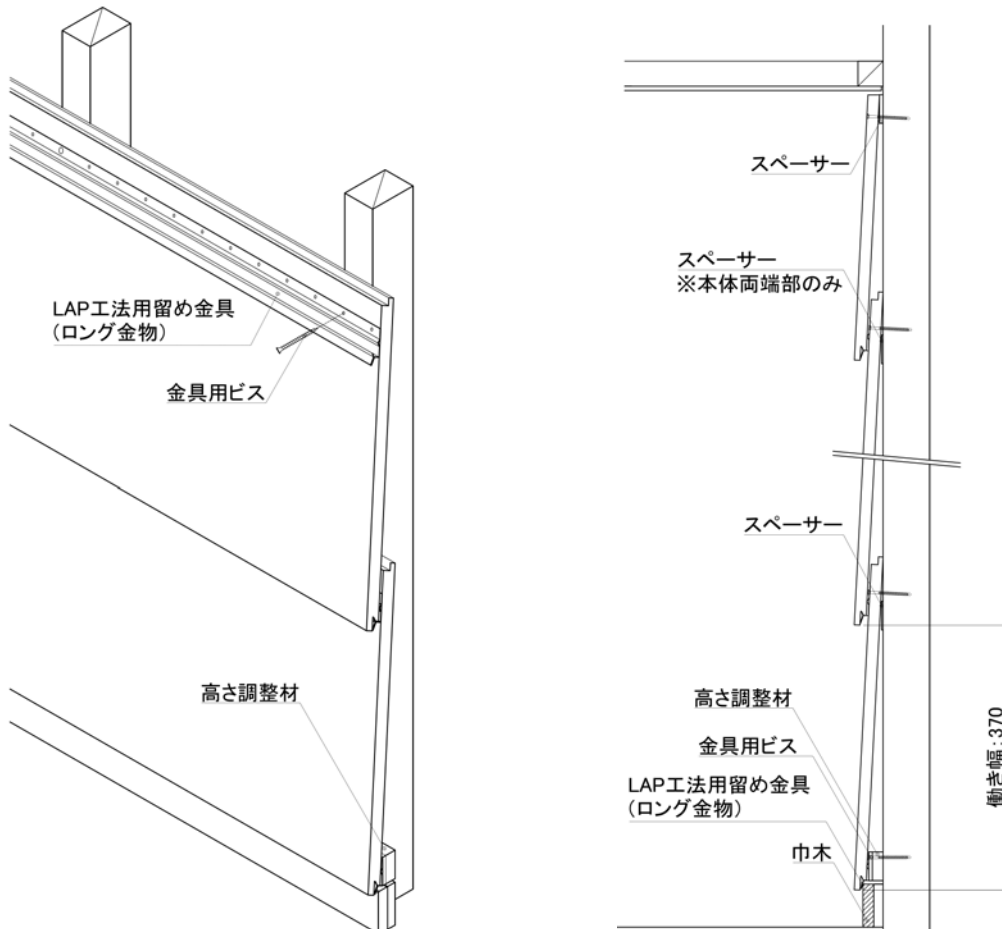
		木下地	LGS下地
下地(躯体)	サイズ	本体が保持できるサイズとすること	一般部：65形以上 目地部：65形以上ダブル
	間隔※1	500以下	606以下
	厚さ	—	一般材(約0.5~0.6)以上
面材	材質	下記のいずれかとする ・無し ・せっこうボード(GB-R、GB-F、GB-S) ・構造用合板(1類以上) ※2 ・けい酸カルシウム板 ・セメント板	
	厚さ	12.5以下 ※2	
	固定方法	下地(躯体)に固定されており、割れや著しい反り、不陸等、経年で本体固定に影響を及ぼす劣化のない固定方法であること	
その他	不陸	2以下	

※1 留付け部材は下地に留付けるため、本体の目地位置に合わせて下地を設ける必要があります。

※2 構造用合板については厚みの規定はありません。

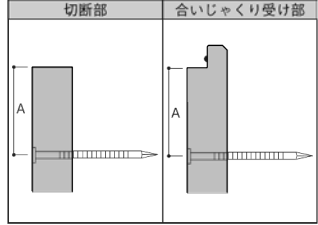
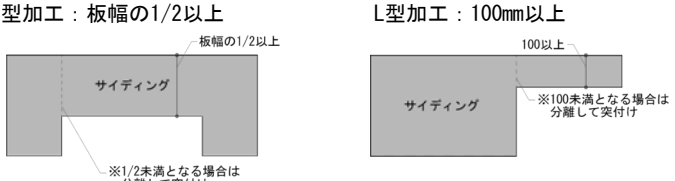
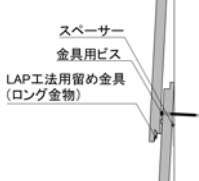
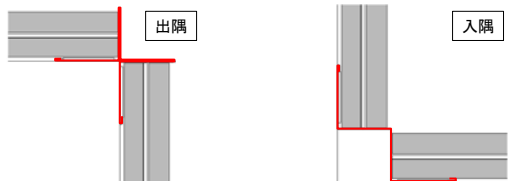
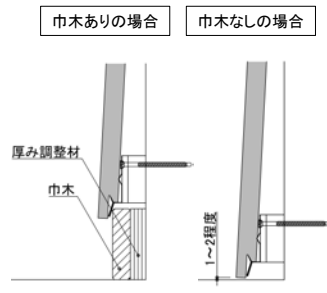
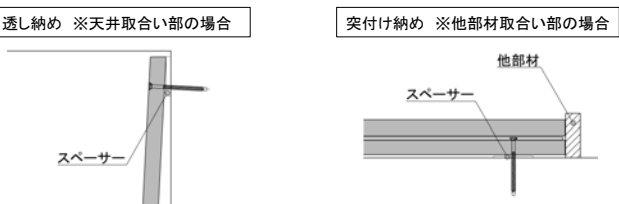
## 【2】標準施工仕様

- 「LAP工法」は、専用金具を使用して本体を重ねながら施工する工法です。
- 標準は、本体の働き幅が370mmとなるように施工します。
- 本体に「LAP工法用留め金具(ロング金物)」(以下金具)を金具用ビスで下地に留付け、金具に上段の本体をのせて施工します。
- 本体の割れ防止のため、**本体1段目のビス留め部付近**と、**2段目以降の本体両端部**のそれぞれ本体裏面側にはスペーサーが必要です。



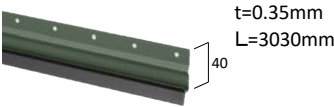

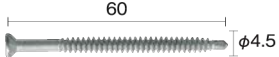
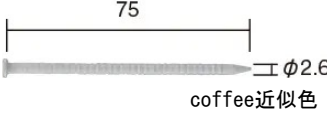
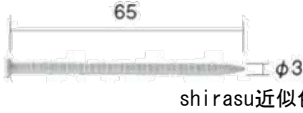
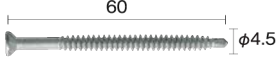
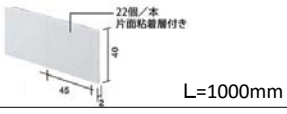


# 5. LAP工法

## 【2】標準施工仕様

働き幅		標準：370mm（施工可能範囲：230mm～370mm）	
使用部材	留め金具	LAP工法用留め金具（ロング金物）	
	スペーサー	2mm、5mm、15mm	
	留付け間隔	木下地：500mm以下 LGS下地：606mm以下	
直留め部	端打ち寸法	リング釘（木下地） 金具用ビス	A=20～30mm A=30～40mm 
本体加工	最小加工幅	凹型加工：板幅の1/2以上 L型加工：100mm以上  ※1/2未満となる場合は分離して突付け ※100未満となる場合は分離して突付け ※上記規定寸法未滿となる場合は、分離して突付け ※切断時は塗膜面を傷つけないよう配慮し、裏面を上側にして切断してください。	
付帯物		下地に固定すること ※本体または保持力のない下地面材への固定は不可	
各部納まり	一般部	LAP納め ※金具を本体の表面から下地にビス留めして施工します。 ※ <b>本体1段目のビス留め部付近</b> 、また <b>2段目以降の本体両端部</b> には本体の割れ防止のため本体裏面側にはスペーサーが必要です。（81、83ページ参照） 	
	出入隅部	【参考】板金部材納め（現地調達品）※下図は一例です。（84ページ参照） 	
	床取合い部	巾木納め（推奨） ※本体下端部の下地からの出は働き幅によって異なりますので、巾木の裏面に厚み調整材（構造用合板）を設けて巾木の出を適宜調整してください。（働き幅370mm/巾木60mmの場合12mm程度） ※巾木なしの場合は、本体下端の欠け防止および本体施工時に床の不陸の影響を受けないよう床面より1～2mm程度のすき間をあけてください。 	巾木ありの場合 巾木なしの場合
	天井等 他部材取合い部	目透し納め もしくは 突付け納め 	目透し納め ※天井取合い部の場合 突付け納め ※他部材取合い部の場合
補修・仕上げ	※SOLIDO typeFは、1枚毎に色味が異なる商品のため、現場仕上げ塗料（補修塗料）は設定していません。補修が必要な場合は、市販の補修剤等を使用していただきますようお願いいたします。（93～100ページ参照）		

# 5. LAP工法

## 【3】使用部材



品名		品番	形状・寸法	材質	入数 (出荷単位)		
金具	LAP工法用留め金具 (ロング金物)	B14035	 t=0.35mm L=3030mm 40	塗装GL めっき鋼板	5本/箱 (補助部材2本同梱)		
金具用ビス	木下地用	RE胴縁用ビス65 (モルタル下地穴用)	RCREBL	 65 工φ3	ステンレス	150本/箱	
	LGS下地用	直留め用ビス60 (薄鉄骨下地用)	B885260	 60 φ4.5	ステンレス	200本/箱	
直留め用釘・ビス	木下地用	coffee用	リング釘75 (直留め用)	B8775W1559	 75 工φ2.6 coffee近似色	ステンレス	36本/袋
		shirasu用	リング釘65 (直留め用)	B8765R400	 65 工φ3.0 shirasu近似色	ステンレス	40本/袋
	LGS下地用	直留め用ビス60 (薄鉄骨下地用)	B885260	 60 φ4.5	ステンレス	200本/箱	
スペーサー	スペーサー2		RY82S02	 22個/本 片面粘着層付き 45 2 L=1000mm	ポリプロピレン	20本/箱	
	スペーサー5		RY82S05	 22個/本 片面粘着層付き 45 5 L=1000mm	ポリプロピレン	20本/箱	
	スペーサー15		RY82S15	 22個/本 片面粘着層付き 45 15 L=1000mm	ポリプロピレン	6本/箱	

※1 クラックや割れが発生しないように先孔をあけてください。

※2 直留め部のビスや釘頭の仕上げについては、市販の補修剤の使用等をご検討いただきますようお願いいたします。  
(93~100ページ参照)

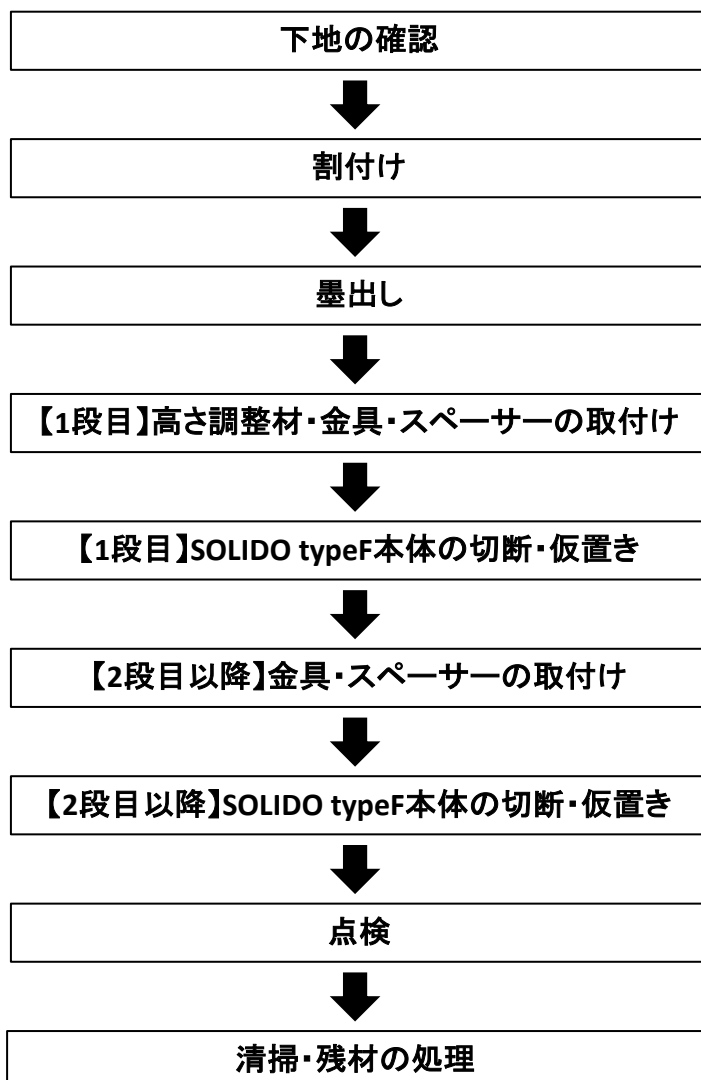
# 5. LAP工法

## 【4】推奨切断刃

品名	品番	形状・寸法	材質	入数 (出荷単位)
ダイヤモンド <sup>テン</sup> 10(φ100)	B491	 外径:100mm 内径:20mm 刃厚:1.5mm 刃数:10	ダイヤモンドチップ	1枚
ダイヤモンド <sup>テン</sup> 10(φ125)	B492	 外径:125mm 内径:20mm 刃厚:1.5mm 刃数:10	ダイヤモンドチップ	1枚

- 切断の際に粉じんがでますので、工具連動集じん機をセットした防じんカッターの使用、防じんマスク・メガネの着用等の対策をお願いします。
- 切断方法等に関しては、ケイミューの「外壁材設計施工マニュアル」の最新版をご確認ください。

## 【5】施工手順



※一枚一枚の色味が大きく異なりますが、製造上、色味の近い商品が偏って納品される場合があります。

※施工の前に、仮並べをして配置を検討してから施工することをおすすめします。

色味を確認しなかった例



色味を確認して配置を検討した例



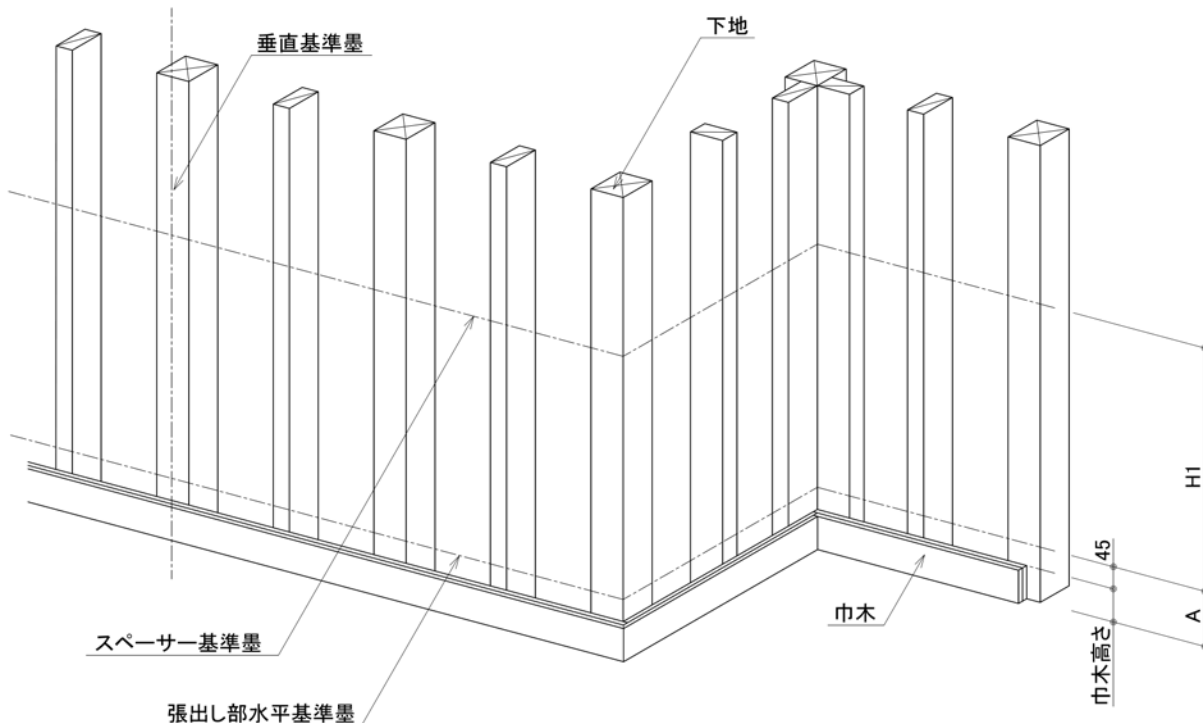
# 5. LAP工法

## 【6】施工のポイント

### <1> 墨出し

※働き幅370mmの場合

- 本体の水平基準を出すため、張出し部の水平基準墨と、1段目本体のビス留め部付近に取付けるスペーサーの基準墨をうちます。  
それぞれの寸法は下記より算出してください。（張出し部の水平基準墨は、巾木の有無によってその寸法が異なります。）
- 施工面各面に1カ所以上、縦目地部の位置に垂直基準墨をうちます。



(単位: mm)

	A	H1
巾木ありの場合	巾木高さ+45	350
巾木なしの場合	55	

※上表は働き幅370mmの場合です。  
(その他の働き幅の場合は85ページ参照)

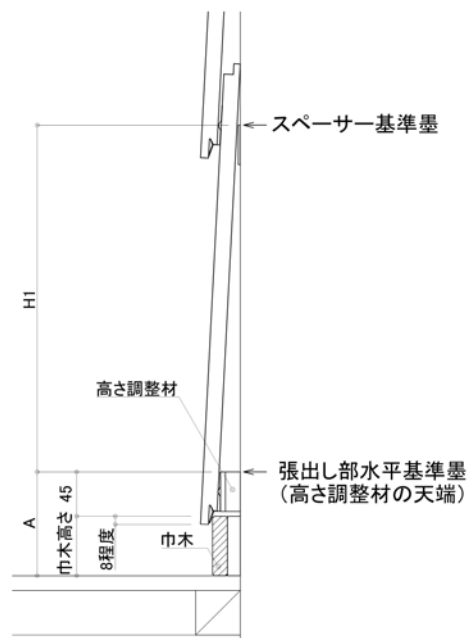
※上表の「巾木ありの場合」のA寸法は、本体下端部の巾木天端からのかぶり寸法を8mm程度とした場合です。

かぶり寸法を変更する場合は適宜A寸法を増減してください。

例) 純正品巾木(15mm)を使用する場合、

・かぶり寸法: 3mm

・A: 15+50(86、87ページ参照) = **65mm**



# 5. LAP工法

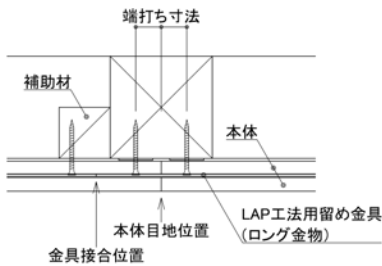
## 【6】施工のポイント

### <2>張り方のポイント

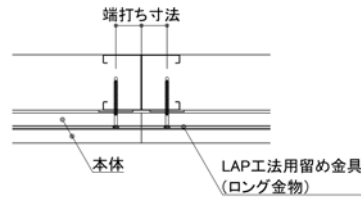
※働き幅370mmの場合

- 本体はLAP工法用留め金具（ロング金物）（以下「金具」）を使用して施工します。
- 金具には複数のビス穴がありますので、下地位置に合わせて穴を選び留付けます。  
※穴位置が合わない場合はビスで穴をあけて留付けてください。
- ※金具と本体の端部が揃ってなくても問題ありませんが、隣り合う金具同士は突付けて施工するようにしてください。  
（金具同士にすき間があいた状態で施工すると、下から見上げた時にすき間が見えるため、外観不良の原因になります。）
- 本体の縦目地部や金具の接合部には、それぞれの両端部が固定できるように必ず下地を設けてください。  
下地に留付けができない場合、本体の反りや変形、脱落、金具のがたつき等の原因となります。
- 木造で縦目地部や金具の接合部に柱や間柱がない場合、本体や金具の留付けができるように補助材を入れてください。

木下地の場合  
(金具と本体の端部が揃っていない例)



LGS下地の場合



- 張出し部水平基準墨が上端となるように、表①を参考に高さ調整材（スペーサーや木材等）を留付けます。
- 金具の上端を高さ調整材の上端に合わせて、留付け部材で固定します。  
※固定前に金具の水平を確認してください。
- 金具と本体の留付け部材や留付け間隔は表②をご参照ください。
- スペーサー基準墨が上端となるように、表①を参考にスペーサーを貼付けます。貼付け間隔は表②の留付け間隔とします。

【表①】

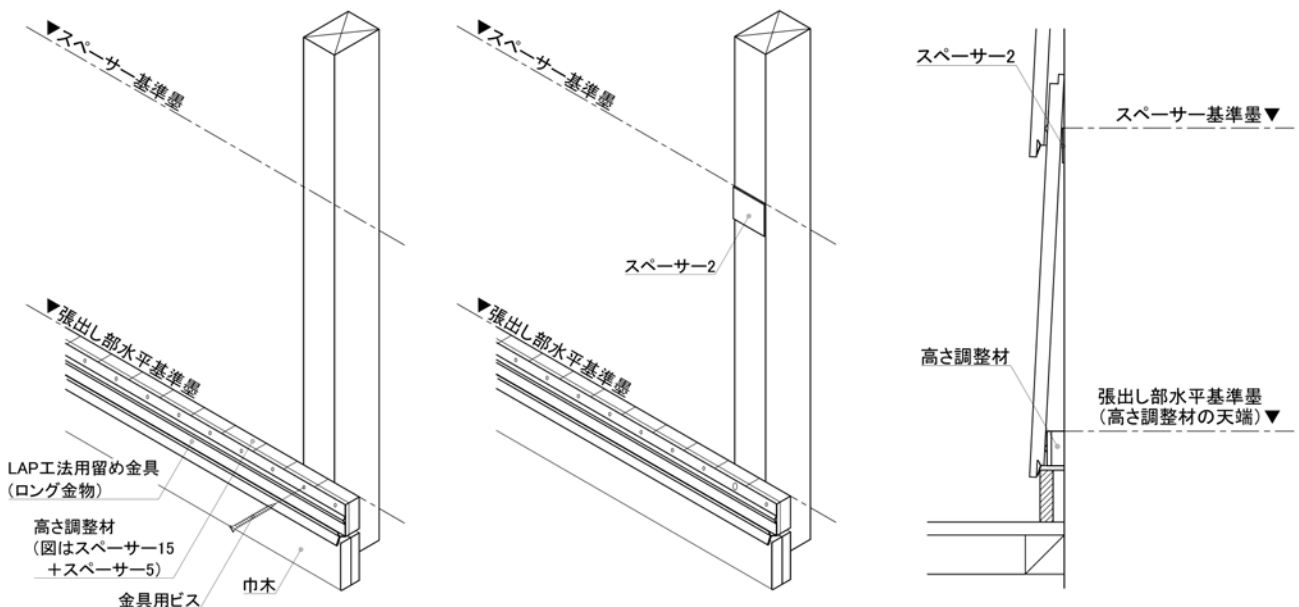
(単位:mm)

貼付け位置 (上端揃え)	使用部材	合計の厚み
張出し部 水平基準墨	高さ調整材 (スペーサー15+スペーサー5 または木材等)	20
スペーサー 基準墨	スペーサー2	2

【表②】

(単位:mm)

	留付け部材 (金具用ビス)	留付け間隔
木下地	RE胴縁用ビス65 (モルタル下地穴用)	500以下 (下地毎)
LGS下地	直留め用ビス60 (薄鉄骨下地用)	606以下 (下地毎)



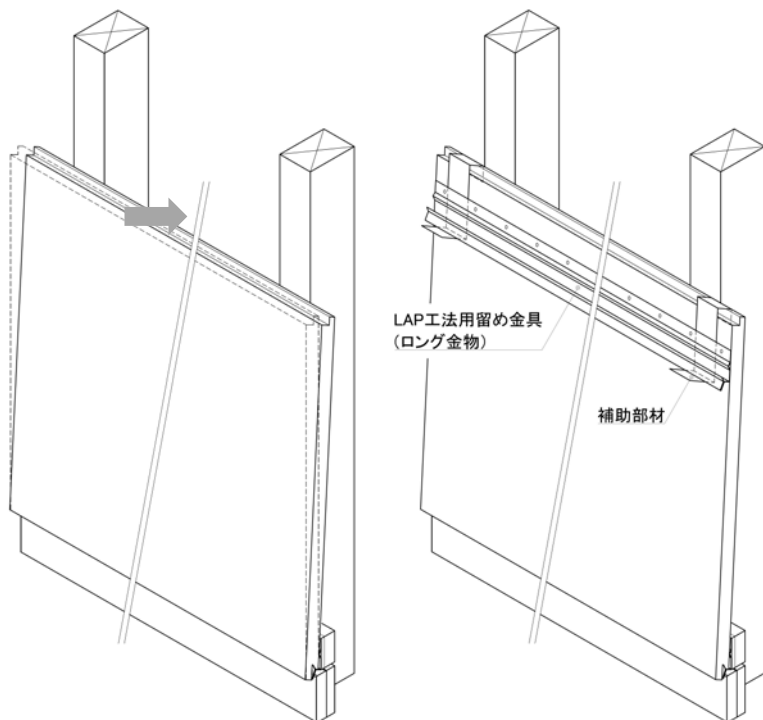
# 5. LAP工法

## 【6】施工のポイント

### <2>張り方のポイント

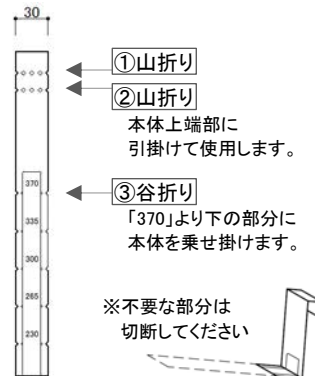
※働き幅370mmの場合

- 金具に本体の実部を差込んで、下地側に倒します。
- 同梱の**補助部材**を加工し、本体上端部の両端に引掛けて補助部材に金具を仮置きします。



#### ■補助部材の使用方法

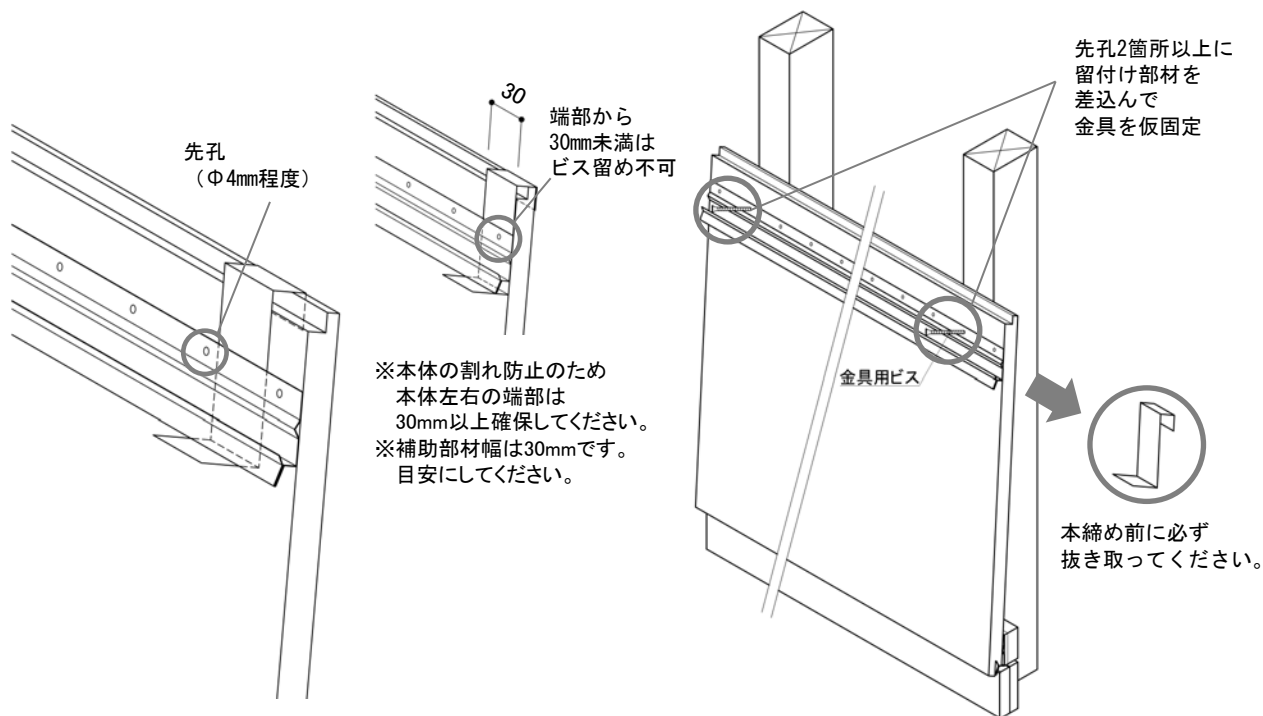
- ・それぞれ90度に折り曲げます。
  - ・同じものを2つ用意し、両端部に使用します。
- ※使用前に、2つの補助部材の各角度が同じになっているか確認してください。角度が異なると、本体の水平がとれなくなります。



※補助部材の詳細については85ページ参照

- 端打ち寸法（端部より30mm以上）を確保し、先孔（φ4mm程度）をあけてから81ページの表②の留付け部材で下地に固定します。
- ※補助部材幅は30mmです。端打ち寸法の目安にしてください。
- ※先孔をあけると切り粉が金具の溝に溜まるため、適宜取除いてください。

- 先孔をあけた箇所2箇所以上留付け部材を差込んだ状態で両端の補助部材を取除き、全ての箇所の留付け部材を本締めします。



- 補助部材を使用しても施工時に多少の誤差が出る可能性がありますので、補助部材は目安とし、**適宜働き幅や水平を確認しながら施工してください。**
- 補助部材は、金具を固定するまでの間、金具を保持するために使用する部材です。**金具をビスで本締めする前に必ず取り除いてください。**



# 5. LAP工法

## 【6】施工のポイント

### <2>張り方のポイント

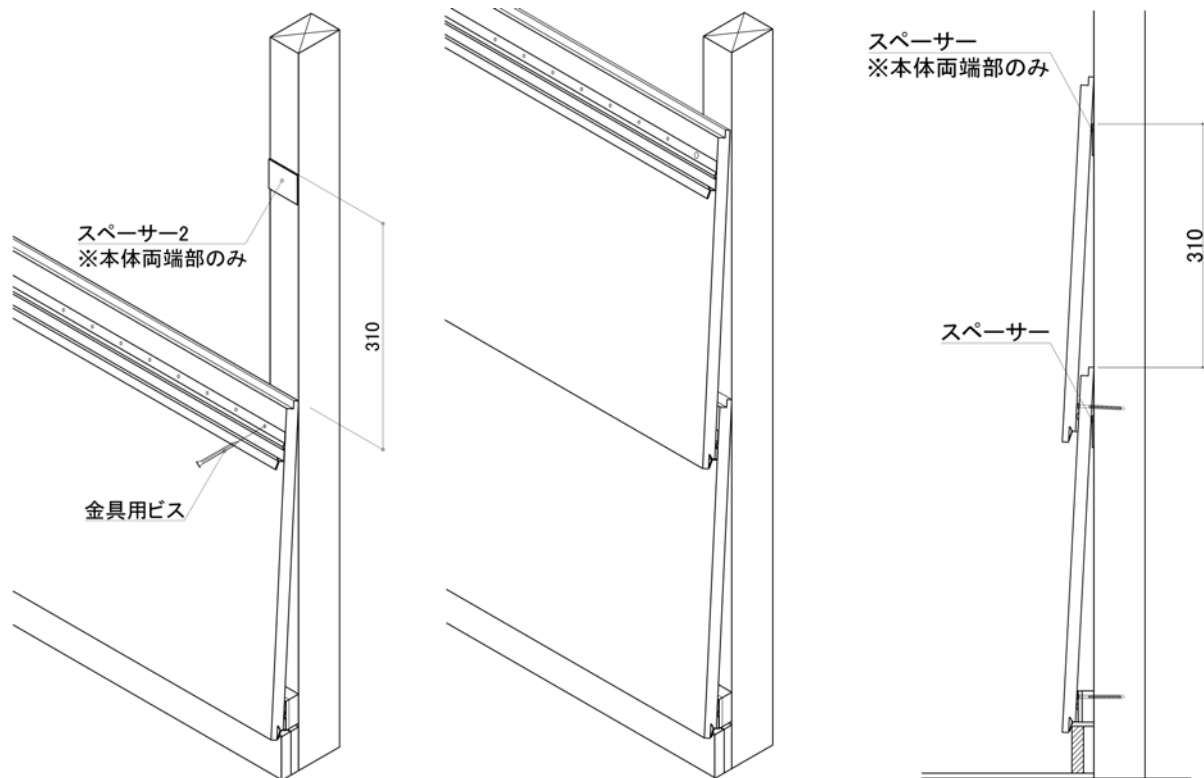
※働き幅370mmの場合

- 2段目を施工する前に、2段目の本体両端部にあたる位置にスペーサー2を貼付けます。2段目以降のスペーサー位置については下記の表①をご参照ください。
- 金具に2段目の本体をのせ、先程と同様に金具を留付けます。3段目以降はこの施工を繰り返します。

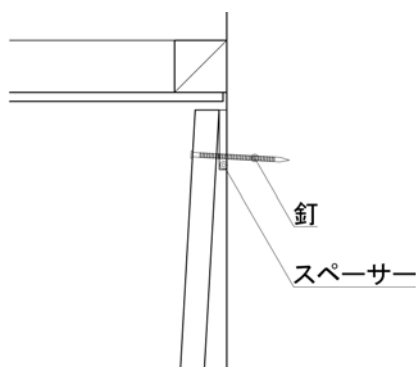
【表①】

(単位:mm)

	スペーサー厚み	下段本体上端～スペーサー天端	貼付け位置
2段目以降	2	310	本体両端部のみ



- 最上段は本体の上端部を適切な寸法で切断して施工します。
- 下段の本体の傾きにに合わせて、最上段の本体の留付け前に適切な厚さのスペーサーを下地に貼付けます。



- 最上段の本体の留付け部材は下記の表②をご参照ください。

【表②】

(単位:mm)

		留付け部材	留付け間隔
木下地	coffee用	リング釘75 (直留め用)	500以下 (下地毎)
	shirasu用	リング釘65 (直留め用)	
LGS下地		直留め用ビス60 (薄鉄骨下地用)	606以下 (下地毎)

※釘やビス頭の補修・仕上げが必要な場合は、市販の補修剤 (93～100ページ参照) をご検討ください。

# 5. LAP工法

## 【6】施工のポイント

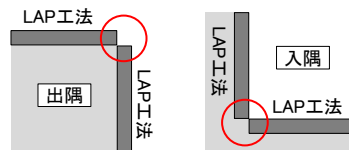
### <参考>出隅・入隅の施工方法について

#### LAP工法で施工した2面が取合う場合

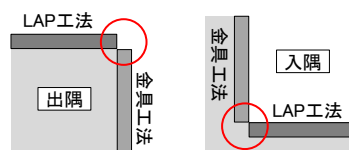
※部材形状や納め方は一例です。

※下図部材の寸法は働き幅370mmの場合の寸法です。下図「42」の寸法は働き幅によって異なるため、働き幅を変更する場合は現場にて本体の出を確認して決定してください。

(働き幅を変更した場合の参考寸法は85ページ)



	出隅	入隅
部材例		
納まり例		



#### SOLIDO typeF 金具工法・縦張りの面と取合う場合

※納め方は一例です。

	出隅	入隅
納まり例		

# 5. LAP工法

## 【6】施工のポイント

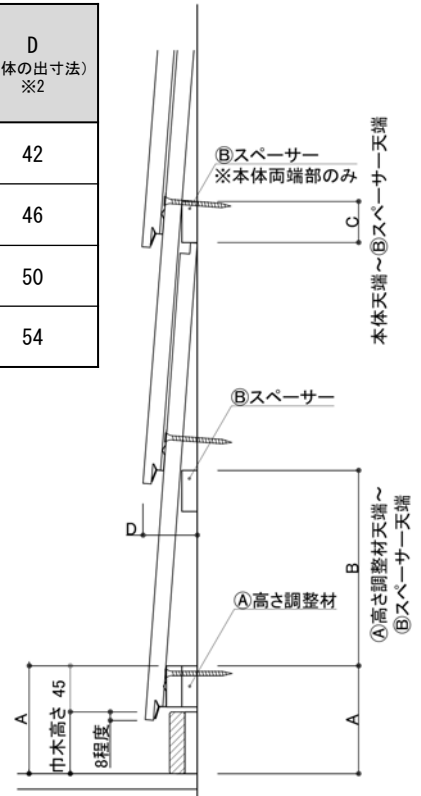
### <参考>標準以外の働き幅とする場合の施工

- 働き幅370mm以外の働き幅とする場合、下表の寸法等をご参照ください。
- 下表の働き幅以外とする場合については、下表を参考にしながら寸法等を調整してください。
- 施工時に多少の誤差が出る可能性がありますので、寸法等は目安として適宜働き幅や水平を確認しながら施工してください。
- スペーサーは過度なたわみによる割れ防止のために必要な部材です。本体裏面がスペーサーに触れていなくても問題ありません。

(単位: mm)

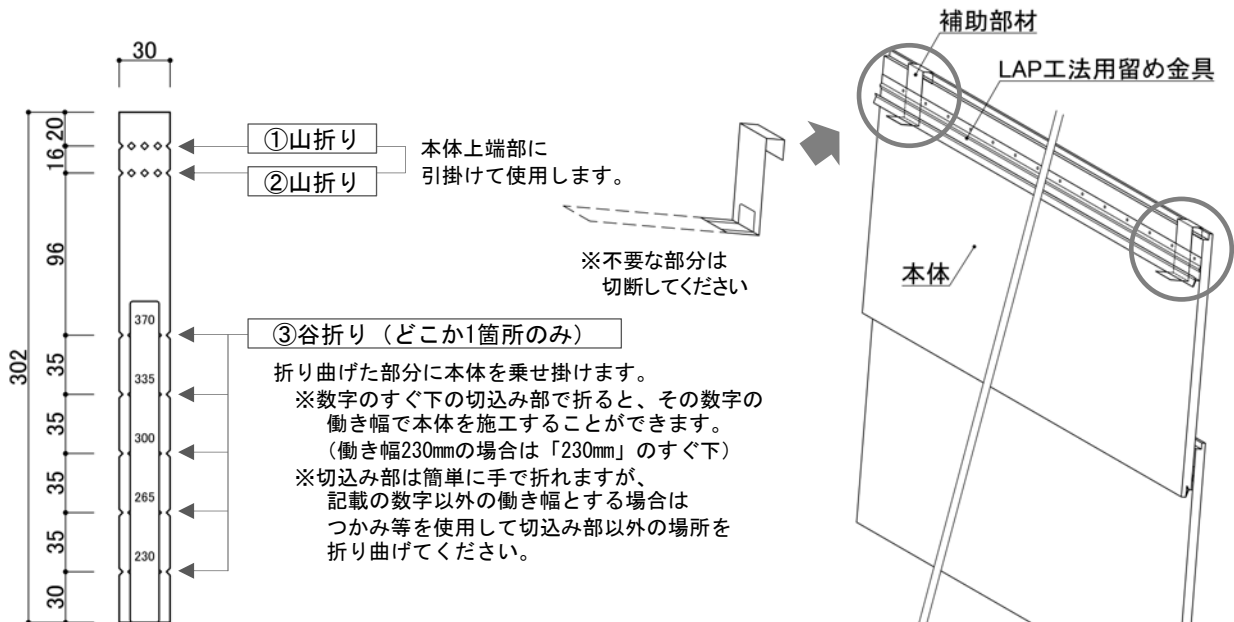
働き幅	①の厚み (高さ調整材)	A		②の厚み (スペーサー)	B	C (2段目以降共通)	D (本体の出寸法) ※2
		巾木あり ※1	巾木なし				
335	20	巾木高さ +45	55	5	295	220	42
300	25			5	310	200	46
265	30			10	260	110	50
230	30			15	190	40	54

- ※1 上表のA寸法は、本体下端部の巾木天端からのかぶり寸法を8mm程度とした場合です。かぶり寸法を変更する場合は適宜A寸法を増減してください。  
例) 純正品巾木(15mm)を使用する場合、  
・かぶり寸法: 3mm  
・A:  $15 + 50$  (86、87ページ参照) = **65mm**
- ※2 各段毎に寸法が若干異なります。値は平均値ですのでご了承ください。



#### 補助部材の使用方法について

- 補助部材は、金具をビス留めするまでの間、金具を水平に保持するための部材です。下図①②③をそれぞれ90度に折り曲げたものを本体の両端部に使用しますので、同じものを2つ用意してください。
- ※使用前に、それぞれの角度が同じになっているか確認してください。角度が異なると、本体の水平がとれなくなります。
- 補助部材を使用しても施工時に多少の誤差が出る可能性がありますので、補助部材は目安とし、**適宜働き幅や水平を確認しながら施工してください。**
- 補助部材は、金具をビスで本締めする前に必ず取り除いてください。

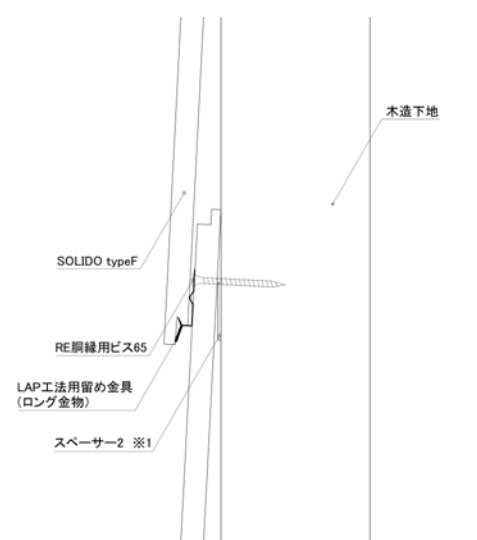
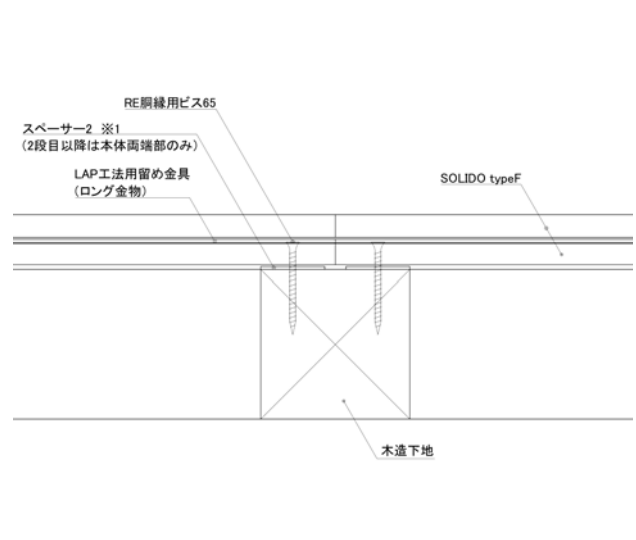
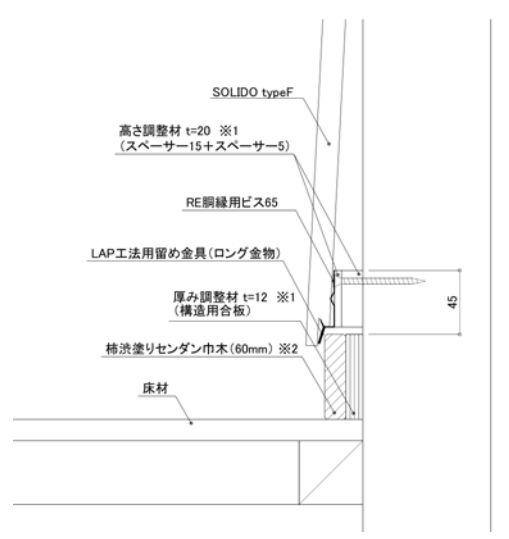
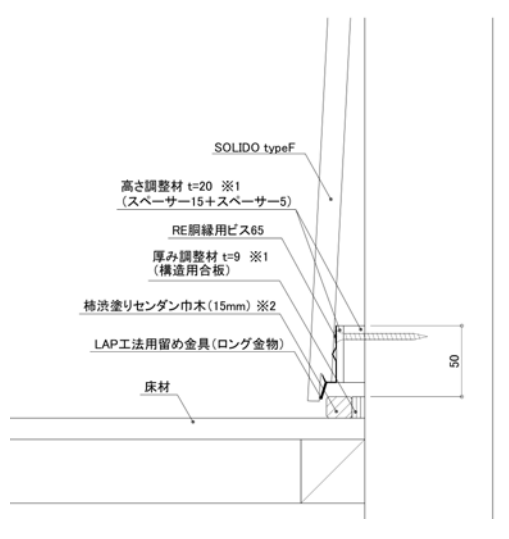
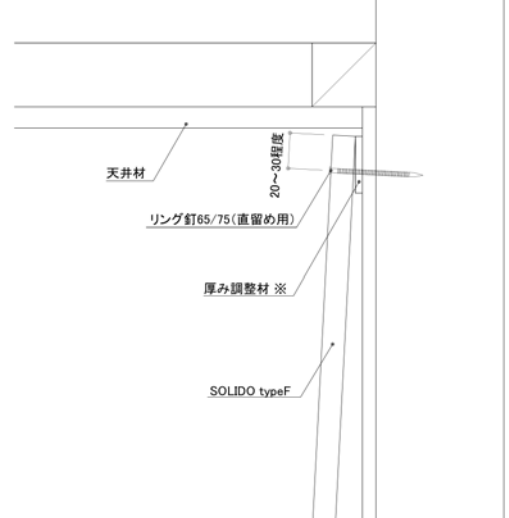


# 5. LAP工法

## 【6】施工のポイント

### < 3 > 木下地参考納まり図

※1 働き幅370mmの場合の厚み  
 ※2 ビンネイルまたはフィニッシュネイルと接着剤 (MPX-7) を併用して留付け

一般部 (縦断面)	縦目地部
	
床取合い部 (巾木(60mm)使用時)	床取合い部 (巾木(15mm)使用時)
	
天井取合い部	
 <p>※最上段の傾きを下段の傾きに合わせるように厚みの調整を行う</p>	

# 5. LAP工法

## 【6】施工のポイント

### < 4 > LGS下地参考納まり図

※1 働き幅370mmの場合の厚み  
 ※2 ビンネイルまたはフィニッシュネイルと接着剤 (MPX-7) を併用して留付け

一般部 (縦断面)	縦目地部
床取合い部 (巾木(60mm)使用時)	床取合い部 (巾木(15mm)使用時)
天井取合い部	

※最上段の傾きを下段の傾きに合わせるように厚みの調整を行う

# 6. 木製部材の施工

## 【1】部材仕様

### < 1 > 部材本体

使用部位	品名	品番	断面形状・寸法			材質		入数 (出荷単位) ※
			本体	金具施工用 スペーサー (同梱品)	長さ※	本体	金具 施工用 スペーサー	
床取合い部	柿渋塗りセンダン 巾木 (60mm)	B5911M1		50×5	2000mm	梅檀 柿渋塗装	MDF	各2本/箱
	柿渋塗りセンダン 巾木 (15mm)	B5912M1		13×5				
端部 入隅部 腰壁上部 天井取合い部 等	柿渋塗りセンダン 見切り (金具工法用)	B5913M1		—				
	柿渋塗りセンダン 見切り (接着工法用)	B5914M1		—				
出隅部	柿渋塗りセンダン 出隅	B5915M1		35×5		MDF		

※「本体」、「金具施工用スペーサー」共通です。


- 本製品は「SOLIDO typeF coffee/shirasu」の専用商品です。
- 部材は接着剤とネイル（ピンネイルまたはフィニッシュネイル）で固定します。
- 部材によって使用するネイルのサイズが異なります。（89ページ参照）
- 無垢材のため、多少の反りやねじれのあるものが含まれています。また、日焼けによって色が変わる場合があります。ご了承ください。
- 反りやねじれのある場合は、伸びるように調整しながらネイルで固定してください。
- 無垢材のため、色違い、ムラ等があります。また、節、てかり、入り皮、ヤニスジ等は異常ではなく、素材の個性であり、商品意匠の一部です。
- 施工前に裏表（巾木のみ）や上下の選定、複数本使用する場合は仮並べをして配置の検討をしてから施工することをおすすめします。
- 金具施工用スペーサー（MDF）は、巾木・出隅部材に同梱しています。金具工法の場合にのみ使用し、接着工法では使用しません。（施工方法については90、92ページ参照）

# 6. 木製部材の施工

## 【1】部材仕様

### <2>接着剤

- 接着剤は下記のMPX-7（JIS A 5538適合）をご使用ください。
- MPX-7はコニシ株式会社の商品として通常販売されている商品です。コニシ株式会社設定品番はケイミュー設定品番とは異なります。ご注意ください。

品名（品番）	形状	主成分	シックハウス対応	容量
MPX-7 品番：KLTMB		一液型変成シリコーン樹脂系 接着剤	F☆☆☆☆ JAIA 4VOC基準適合	333ml/本 20本/箱

※部材固定のために必要な目安量については【2】施工仕様ページ（90～92ページ）参照

### <3>適用下地

#### ■工法別施工可否表

○：施工可 △：条件付きで可 ×：施工不可

施工仕様	工法	金具工法		接着工法		LAP工法		
		なし	あり	なし	あり	なし	あり	
下地仕様	木下地	○	○	○	○	○	○	
	鉄骨下地	×	○	×	○	×	○	
	LGS下地	一般材(t=0.5~0.6)	△ ※	○	△ ※	○	△ ※	○
		JIS材(t=0.8)	×	○	×	○	×	○

※フィニッシュネイルで固定する場合に限り施工可能です。  
ただし出隅部材以外は留付け箇所がピンネイルに比べて目立ちますのでご了承ください。

#### ■部材別施工可否表

○：施工可 ×：施工不可

施工仕様	工法	金具工法	接着工法	LAP工法
部材本体	巾木(60mm)	○	○	○
	巾木(15mm)	○	○	○
	見切り(金具工法用)	○	×	×
	見切り(接着工法用)	×	○	×
	出隅	○	○	×

#### ■面材仕様

種類	下記のいずれかとする ・無し ・せつこうボード(GB-R、GB-F、GB-S) ・構造用合板(1類以上)
厚み	規定なし (9.5mm以下の場合、次項※要確認)

### <4>留付け材（現地調達）

- 部材本体は接着剤と留付け材（ネイル：ピンネイルまたはフィニッシュネイル）で固定します。
- 部材本体の種類によって使用するネイルのサイズが異なりますので、下表をご参照ください。

（単位：mm）




施工仕様	工法	金具工法 (5mm金具の場合)	接着工法	LAP工法	留付け間隔
部材本体 の種類	巾木(60mm)	30以上	25以上	25以上	300以下
	巾木(15mm)	35以上	30以上	30以上	
	見切り(金具工法用)	35以上	30以上	—	
	見切り(接着工法用)	30以上	30以上	—	
	出隅	15	15	—	

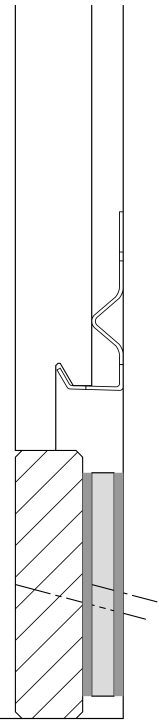
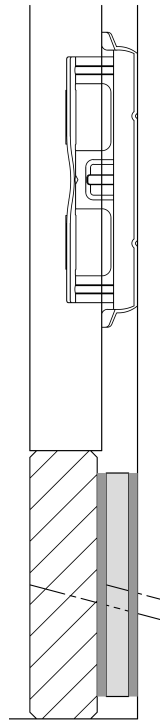
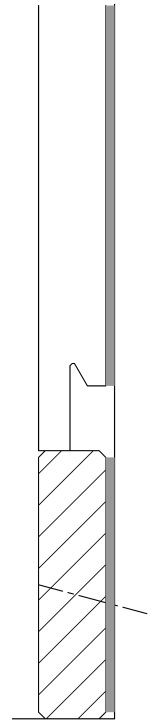
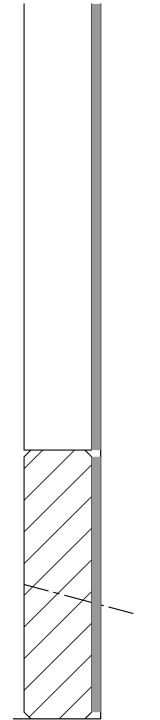
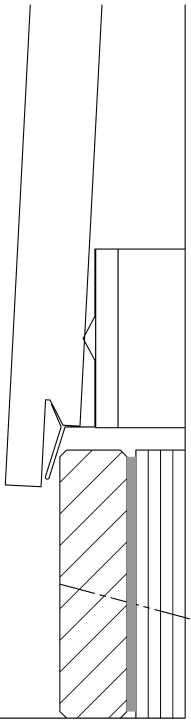
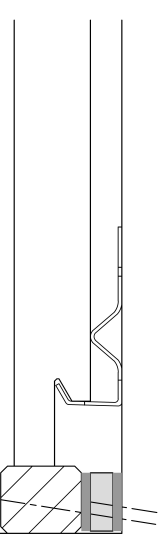
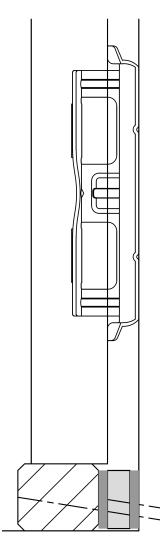
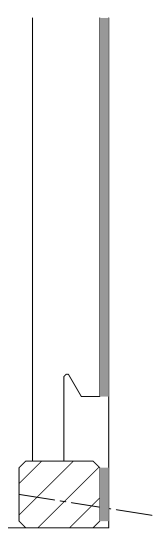
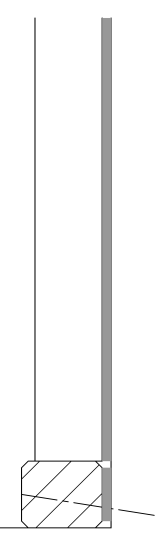
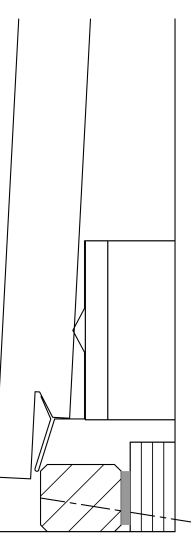
- 金具施工用スペーサーについても接着剤と留付け材で固定しますが、特に留付け材の規定はありません。各下地に留付けが可能で、保持力が確保できる留付け材（例：ビス、ネイル等）で留付けてください。
- LGS下地（一般材）に使用する場合、上表の数字のサイズのフィニッシュネイルを使用することをおすすめします。長すぎるフィニッシュネイルを使用すると、フィニッシュネイルが途中で折れ曲がって上手く留付けられない可能性があります。
- ※面材厚み9.5mm以下でピンネイルを使用する場合、ネイルは鉄骨下地やLGS下地にあたらない位置に留付けてください。同様の面材条件で、フィニッシュネイルを使用し鉄骨下地に施工する場合も同様です。ネイルが下地にあたって施工できません。

# 6. 木製部材の施工

## 【2】施工仕様

### < 1 > 巾木

図中凡例:  接着剤  金具施工用スペーサー  ネイル



部材名	施工仕様				
	金具工法 横張り	金具工法 縦張り	接着工法 横張り	接着工法 縦張り	LAP工法
巾木 (60mm)					
部材固定に必要な接着剤の目安本数	0.07本/m (MDF固定分含む)		0.035本/m		
	※Φ3mm程度でそれぞれビード状に波型に塗布				
巾木 (15mm)					
部材固定に必要な接着剤の目安本数	0.021本/m (MDF固定分含む)		0.01本/m		
	※Φ2mm程度でビード状に塗布				



# 6. 木製部材の施工

## 【2】施工仕様

### <2>見切り

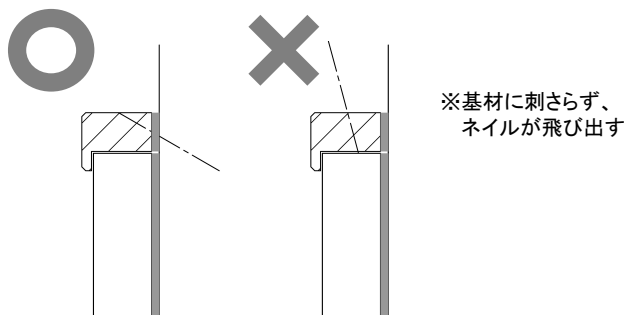
図中凡例:  接着剤  ネイル

部材名	施工箇所		
	入隅	壁見切り	天井見切り
見切り (金具工法用)			
見切り (接着工法用)			
部材固定に必要な 接着剤の 目安本数	0.01本/m ※φ2mm程度でビード状に塗布		

### 注意

ネイルを施工する際は、SOLIDO本体にかからないようにしてください。  
基材が固いためにネイルが刺さらず、  
表面に飛び出すため危険です。



例) 接着工法: 壁見切り

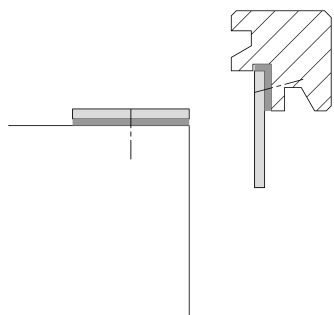
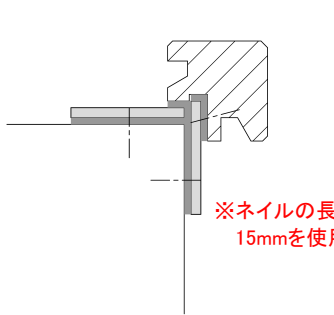
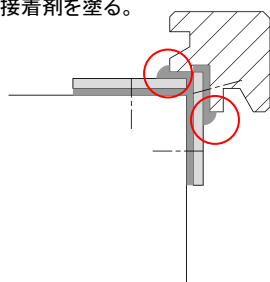
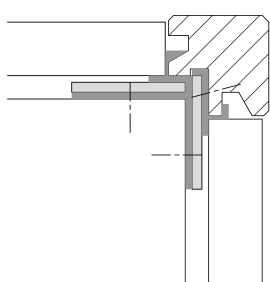
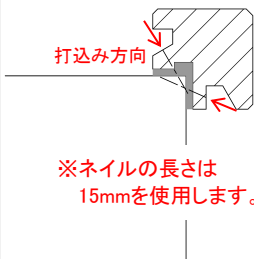
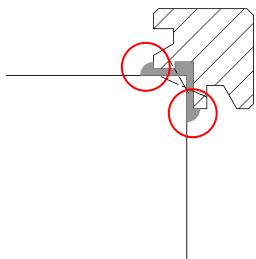
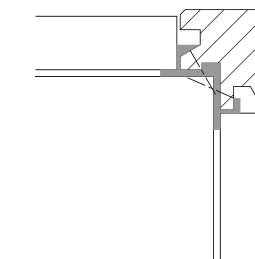


# 6. 木製部材の施工

## 【2】施工仕様

### < 3 > 出隅

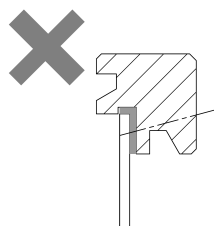
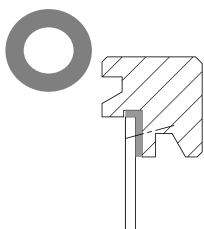
図中凡例:  接着剤  金具施工用スペーサー  ネイル

	施工仕様	部材固定に必要な接着剤の目安本数
金具工法	<p>①MDFを下地、部材それぞれに接着剤とネイルで固定する。</p> <p>②部材とMDF、MDFと下地をそれぞれ接着剤とネイルで固定する。</p>   <p>※ネイルの長さは15mmを使用します。</p> <p>③部材とMDFの取合い部に接着剤を塗る。</p>  <p>④SOLIDOを施工する。</p> 	<p>0.069本/m</p> <p>※</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下地⇔MDF: Φ3mm程度の波型</li> <li>・部材⇔MDF: Φ2mm程度のビード状</li> <li>・部材とMDFの取合い部(③): Φ3mm程度のビード状 でそれぞれ塗布</li> </ul>
接着工法	<p>①部材に接着剤を塗り、溝部からネイルを打って固定する。</p>  <p>打込み方向</p> <p>※ネイルの長さは15mmを使用します。</p> <p>②部材と下地の取合い部に接着剤を塗る。</p>  <p>③SOLIDOを施工する。</p> 	<p>0.034本/m</p> <p>※</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部材⇔下地(①): Φ2mm程度のビード状</li> <li>・部材と下地の取合い部(②): Φ3mm程度のビード状 でそれぞれ塗布</li> </ul>

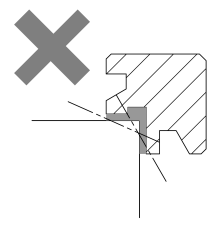
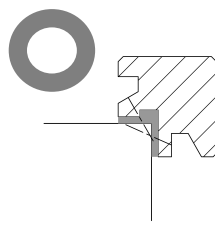
### 注意

出隅部材を留付けるネイルの長さは15mmを使用してください。  
15mmを超える長さのネイルを使用した場合、出隅部材や下地の表面からネイルが飛び出すため危険です。

例) 金具工法



例) 接着工法



※ネイルの長さが15mmを超えた場合、下地からネイルが飛び出す

# 7. 参考資料

## 【1】補修・仕上げ方法

### <1>補修・仕上げについて

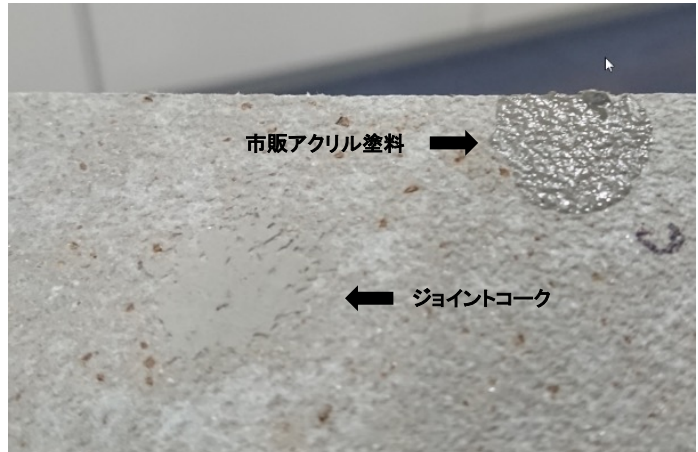
●本製品は、1枚毎に色味が異なる商品のため、現場仕上げ塗料（補修塗料）は設定していません。補修・仕上げが必要な場合は、市販の補修剤等を使用してください。

<参考例>

「ジョイントコーク・A」 ヤヨイ化学工業㈱

F☆☆☆☆

※ホームセンター等で販売されています。



- ・市販のアクリル塗料に比べて艶が無く本製品になじみます。
- ・現場で混ぜて使う事で、1枚毎に色味が異なる本製品に対応可能です。

#### ※「ジョイントコーク・A」について

補修・仕上げの参考例としてのご紹介のため、ヤヨイ化学工業㈱で下記内容に関する保証お問合せ対応はしていませんのでご了承ください。

- ・ 施工に関する内容
- ・ 色味や仕上り外観等
- ・ 施工後の変色等の不具合等

### <2>準備物

●補修に必要な準備物は下記の通りです。

●「ジョイントコーク・A」は、ジュラク・ブラック・グレーの3色を使用して調合し、塗布する箇所の色に合わせます。

ジョイントコーク・A	攪拌、塗装用のヘラ	ジョイントコークを混ぜる用紙 (白い厚紙等)
<p>ブラック    ジュラク    グレー</p>		<p>&lt;例：白い厚紙&gt;</p> <p>用紙サイズ：約150mm角</p> <p>※はかりを使用しない場合は、マジックで等間隔に目盛りを打って調合の目安とする (下の例では、1目盛り=10mm)</p>
	はかり	

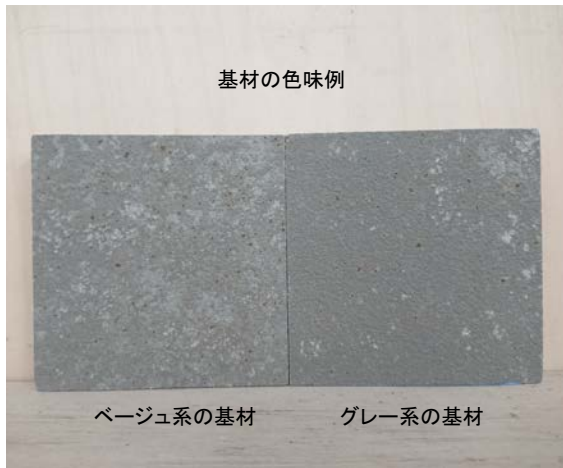
# 7. 参考資料

## 【1】補修・仕上げ方法

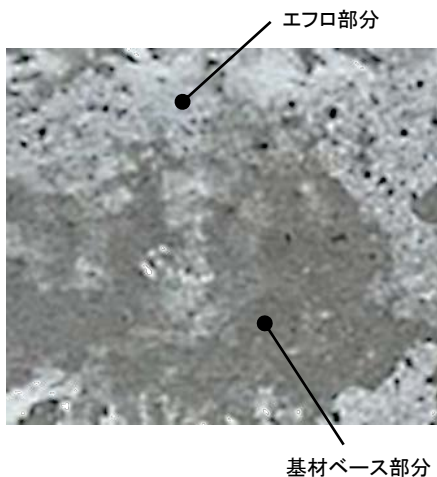
### < 3 > 調色・調合方法 - SOLIDO typeF coffee -

#### ① 調色について

- (1) SOLIDO typeF coffeeは、ベージュ系～グレー系で基材色にばらつきがあります。  
 また、同一基材内でもエフロと基材箇所では色味が異なりますので、塗布する箇所に合わせて事前に試し調合を行ってください。



- (2) エフロ部分の色に合わせて補修するか、基材ベース部分の色に合わせて補修するかを決めてください。



- (3) 塗布する箇所に合わせて、ジョイントコークを混ぜてください。(下表参照)  
 ※あくまでも参考ですので、実際の板に合わせて調整が必要です。

#### SOLIDO typeF coffeeの参考割合

参考割合		基材色	
		ベージュ系の基材	グレー系の基材
塗布箇所	基材ベース部分	ブラック 2 ジュラク 23	ブラック 5 ジュラク 10 グレー 22
	エフロ部分	ブラック 1 ジュラク 3 グレー 13	ブラック 1 グレー 20

**推奨色**  
 エフロに似せて仕上げることで補修跡が比較的目立ちにくくなります

# 7. 参考資料

## 【1】補修・仕上げ方法

### < 3 > 調色・調合方法 —SOLIDO typeF coffee—

#### ②調合方法

(1) ジョイントコークのキャップをとります。  
(使用後は、キャップをはめて保存します。)



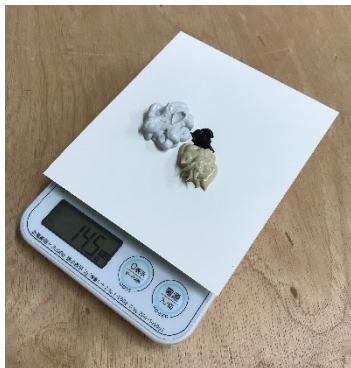
(2) ジョイントコークの先端を切断します。



(3) <はかりを使用する場合>

調合したい比率分のジョイントコークを計測しながら出します。

例) ブラック : ジュラク : グレイ = 1 : 3 : 13  
(0.5g : 1.5g : 6.5g)



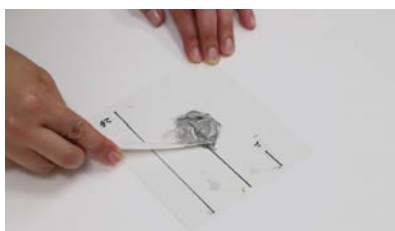
<はかりを使用しない場合>

目盛りの入った白い用紙に、調合したい比率分のジョイントコークを出します。

例) ブラック : ジュラク : グレイ = 1 : 3 : 13  
※各色を同じ太さで引くようにしてください。



(4) ヘラを使って用紙上でしっかり混ぜます。



(5) 端材等で色味の確認をして、黒すぎればグレーを足す、白すぎればブラックを足す等の微調整をしてください。

※ブラックは少し加えるだけでも影響が大きいですので慎重に足してください。

※ジョイントコークは乾燥すると色が濃くなりますので、若干明るめに色を調整すると乾燥後の色が合うようになります。





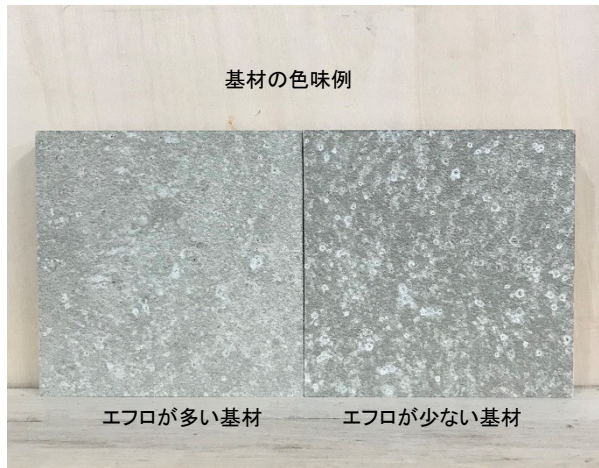
# 7. 参考資料

## 【1】補修・仕上げ方法

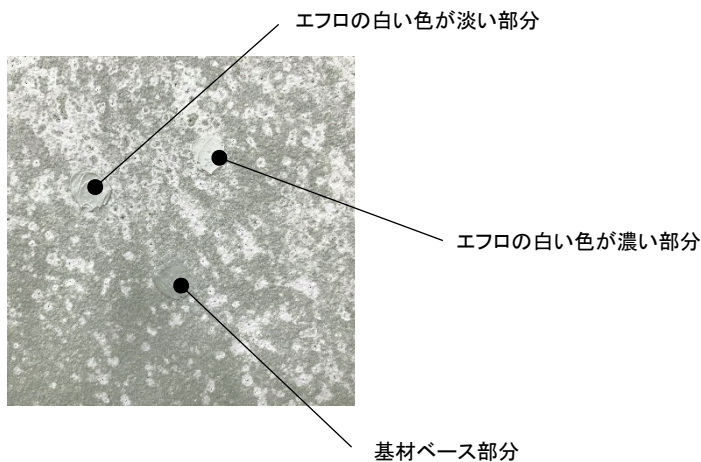
### <4> 調色・調合方法 -SOLIDO typeF shirasu-

#### ① 調色について

- (1) SOLIDO typeF shirasuは、ページュ系～グレー系で基材色にばらつきがあります。  
 また、同一基材内でもエフロと基材箇所で色味が異なりますので、塗布する箇所に合わせて事前に試し調合を行ってください。



- (2) エフロ部分の色に合わせて補修するか、基材ベース部分の色に合わせて補修するかを決めてください。



- (3) 塗布する箇所に合わせて、ジョイントコークを混ぜてください。(下表参照)  
 ※あくまでも参考ですので、実際の板に合わせて調整が必要です。

#### SOLIDO typeF shirasuの参考割合

塗布箇所	参考割合
基材ベース部分	ブラック 1 ジュラク 20 グレー 8
エフロの白い色が薄い部分	ブラック 1 ジュラク 23 グレー 24
エフロの白い色が濃い部分	ジュラク 1 グレー 5

**推奨色**  
 基材ベースに似せて仕上げることで補修跡が比較的目立ちにくくなります

# 7. 参考資料

## 【1】補修・仕上げ方法

### <4> 調色・調合方法 —SOLIDO typeF shirasu—

#### ②調合方法

(1) ジョイントコークのキャップをとります。  
(使用後は、キャップをはめて保存します。)



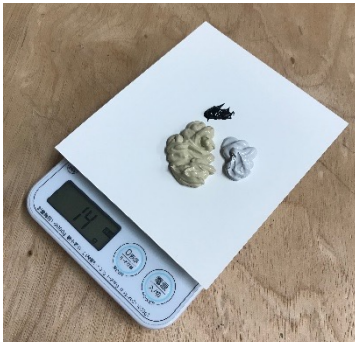
(2) ジョイントコークの先端を切断します。



(3) <はかりを使用する場合>

調合したい比率分のジョイントコークを計測しながら出します。

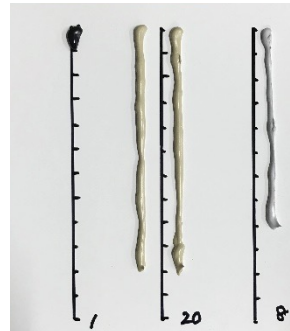
例) ブラック : ジュラク : グレイ = 1 : 20 : 8  
(0.5g : 10.0g : 4.0g)



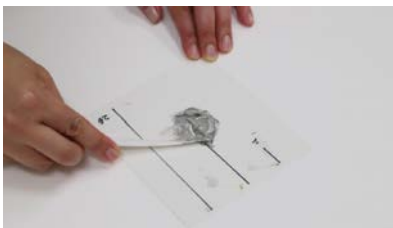
<はかりを使用しない場合>

目盛りの入った白い用紙に、調合したい比率分のジョイントコークを出します。

例) ブラック : ジュラク : グレイ = 1 : 20 : 8  
※各色を同じ太さで引くようにしてください。



(4) ヘラを使って用紙上でしっかり混ぜます。



(5) 端材等で色味の確認をして、黒すぎればグレーを足す、白すぎればブラックを足す等の微調整をしてください。

※ブラックは少し加えるだけでも影響が大きいですので慎重に足してください。

※ジョイントコークは乾燥すると色が濃くなりますので、若干明るめに色を調整すると乾燥後の色が合うようになります。



## 7. 参考資料

### 【1】補修・仕上げ方法

#### < 5 > 塗布方法

※写真例：SOLIDO typeF coffee

①色味の確認後、ヘラ等を使って当該部位に混ぜた  
ジョイントコークを塗ります。



②ヘラで均します。



③周囲と馴染ませる場合は、ウエス等で軽くたたいて調整します。  
乾燥させて完成です。



#### < 留意事項 >

- ・SOLIDO typeF coffeeは、基材よりもエフロに似せる方が目立ちにくくなります。
- ・SOLIDO typeF shirasuは、エフロよりも基材に似せる方が目立ちにくくなります。
- ・ジョイントコークは乾燥後色が濃い目になりますので、明るめに調合することで目立ちにくくなります。
- ・大きい面積の補修の場合は補修部が目立ちやすくなりますので、部分的に商品の張替えをおすすめします。



# 7. 参考資料

## 【1】補修・仕上げ方法

### < 6 > 施工例

※写真例：SOLIDO typeF coffee

#### ●ビス頭への塗布例

塗布前



塗布後



#### ●合いじゃくり接合部への塗布例

※すき間をふさぐ場合は、事前にパテ等のバックアップ材等を詰め込んでから塗布すると写真（右下）のように仕上がります。

塗布前



塗布後





# 7. 参考資料

## 【1】補修・仕上げ方法

### < 6 > 施工例

※写真例：SOLIDO typeF coffee

#### ●キズ部への塗布例

塗布前



塗布後



塗布前



塗布後

